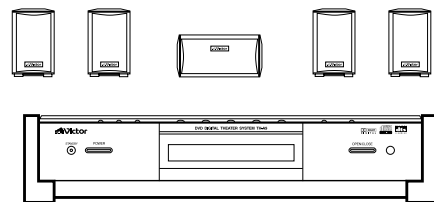
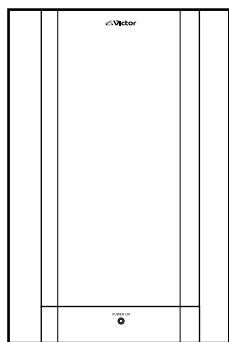
取扱説明書

DVD デジタルシアターシステム

型名 **TH-A9**

DVD Digital Theater System TH-A9

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4 ～ 7 ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0562-001C

目　次

お使いになる前に　ページ

とりあえずカンタン操作　ページ

基本操作　ページ

DVD を操作する　ページ

いろいろな設定をする　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

・この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

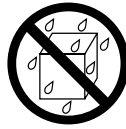
注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

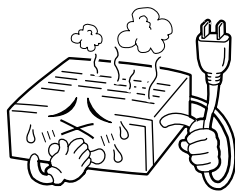
一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

・煙が出ている、へんなにおいがするとき

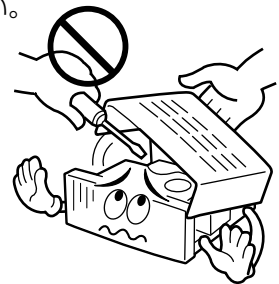
電源プラグを抜く

・内部に水や異物が入ってしまったとき
・落としたり、破損したとき
・電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

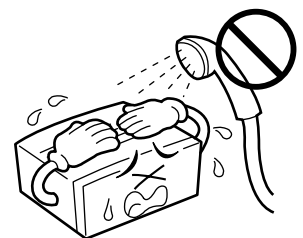
このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

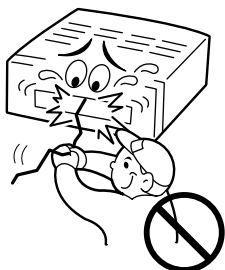
火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔やディスク挿入部の穴などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水の入ったものを置かない。

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入ったものを置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

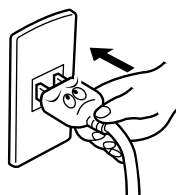
- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

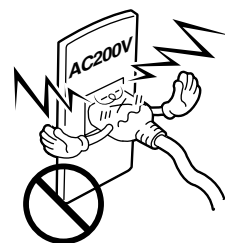
感電の原因となります。

接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

交流100V（ボルト）以外の電源電圧で使用しない。

火災の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

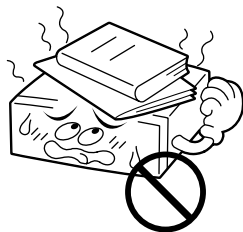
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10㎝以上離す
- センターユニット右側の冷却用の通風孔をふさがない

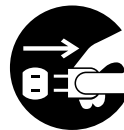
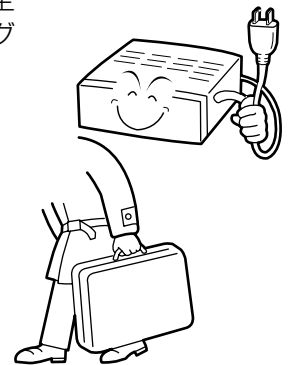
置き場所に注意する。

次のような所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。

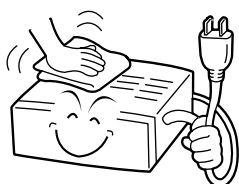
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる所
- 湿気やほこりの多い所
- 熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

パワードサブウーハーの上に重い物を置かない。

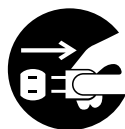
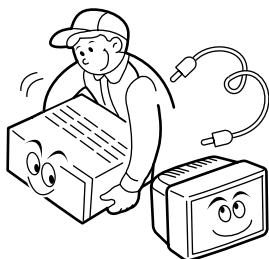
テレビなどの重い物やパワードサブウーハーからはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

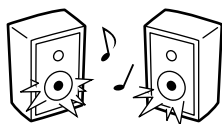
電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

電源プラグを抜く

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

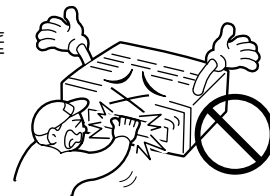
電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

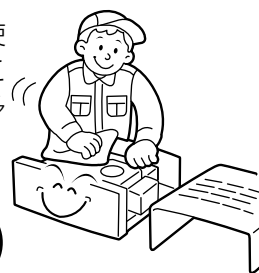
移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ディスク挿入時に、手を挟まれないようにする。

閉まるときにディスクカバーに手を挟まれ、けがの原因となることがあります。
特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

手を挟まれないよう注意

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

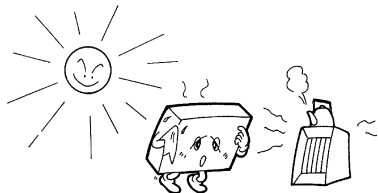
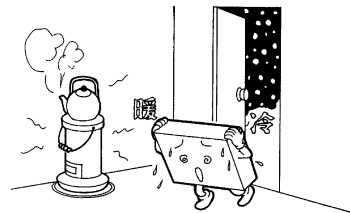
- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(＋)とマイナス(－)を間違えない
- 電池のプラス(＋)とマイナス(－)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長時間使わないときは、電池を取り出しておく

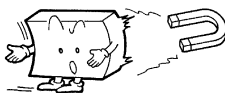
もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用になる前に

本システムの置き場所について

- 故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・湿気やほこりの多い所

・直射日光が当たる所や暖房器のそば

・寒い所から急に暖かい部屋へ
移動したのちしばらくの間

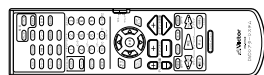
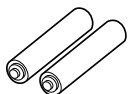
・極端に寒い所

・磁気を発生する所
・振動の激しい所
・OA 機器やけい光灯のすぐそば

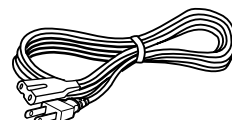
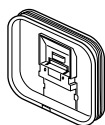
露がついたら
次のような場合、本機のレンズに露(水滴)が付いて**DVD**や**CD**などが正しく演奏できない場合があります。
- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 冷えた所から急に暖かい部屋に移動したとき

電源を入れたまま、1〜2時間待ってからお使いください。

付属品

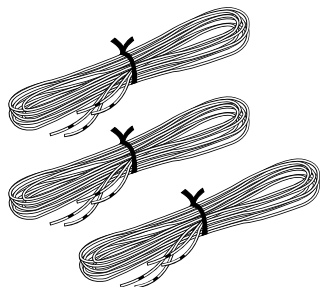
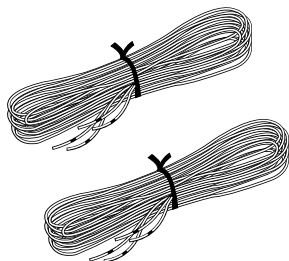
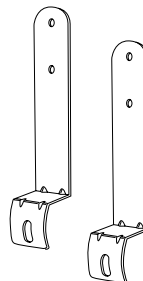
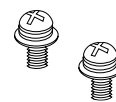
お使いになる前に付属品をお確かめください。

・センターユニット部（XV-THA9）の付属品

リモコン（RM-STHA9）
（1 個）

単３形乾電池（２本）
（リモコン動作確認用）

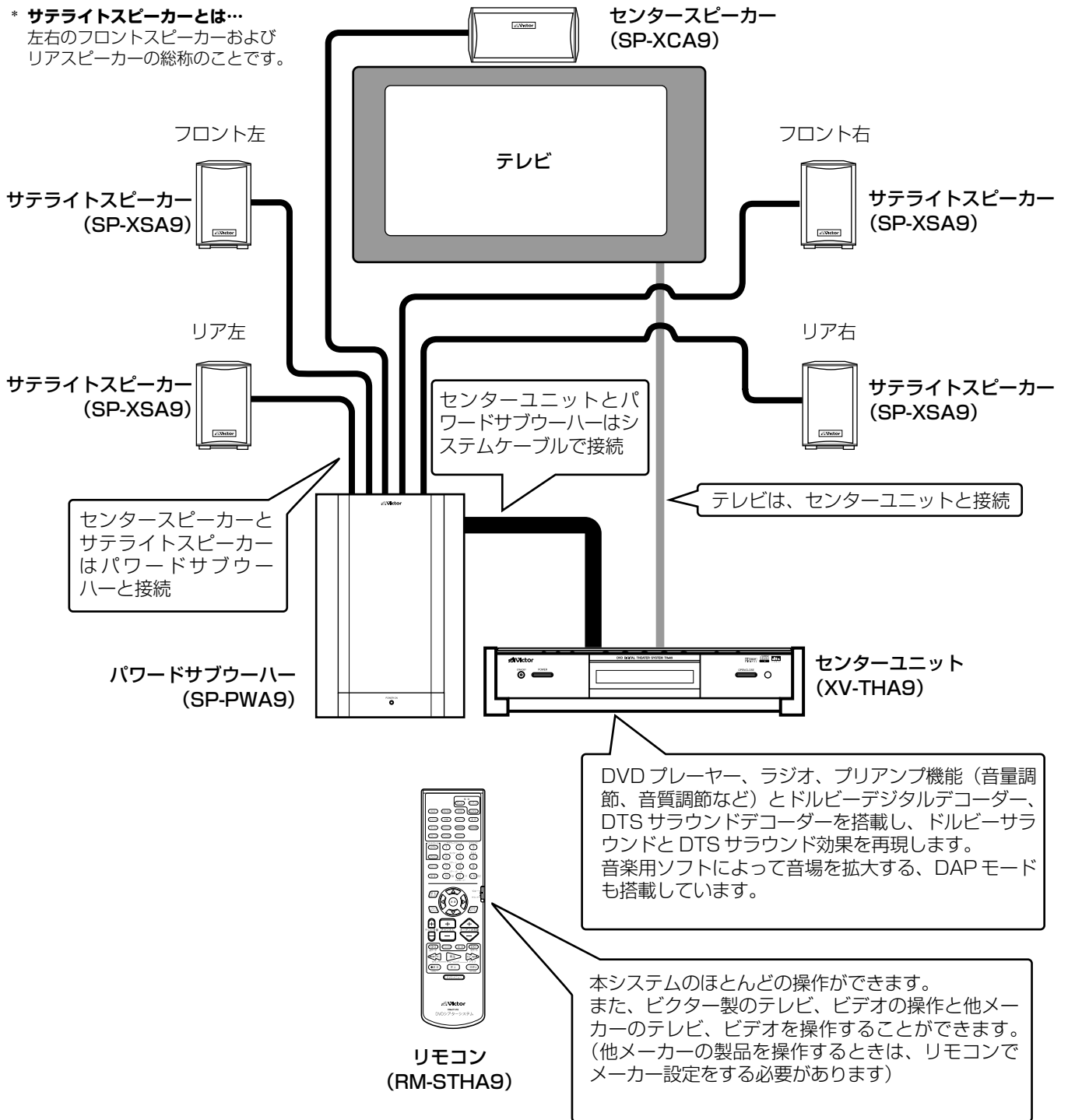
システムケーブル
長さ５m（１本）

電源コード
長さ 1.5 m（１本）

AM ループアンテナ（1 個）

FM 簡易型アンテナ
（1 本）

ビデオコード
長さ 3m（1 本）

・スピーカー部（SP-THA9）の付属品

センタースピーカー /
フロントスピーカー用
接続コード
長さ 5m（3 本）

リアスピーカー用
接続コード
長さ 10m（2 本）

サテライトスピーカー
壁掛け用ブラケット
（2 個）

取り付けネジ
（2 個）

本システムの概要

本システムは、DVD プレーヤー・ラジオ・プリアンプ機能を 1 つにしたセンターユニットと 6ch パワーアンプ内蔵のパワードサブウーハーおよびセンタースピーカー、4 本のサテライトスピーカー*の各ユニットで構成されています。
本システムとテレビを用意するだけで、本格的な DVD デジタルシアターシステムがお楽しみいただけます。

商標と著作権

- 本システムはドルビーラボラトリーズからの実施権の基づき製造されています。Dolby、ドルビープロロジックおよびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
  非公開機密著作物。著作権 1992-1997 年ドルビーラボラトリーズ社。不許複製。
- 本システムはデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTS あるいは DTS Digital Surround は、デジタルシアターシステムズ社の商標です。
  著作権 1996 年デジタルシアターシステムズ社。不許複製。
- 本システムはコピープロテクション技術が採用されています。このコピープロテクション技術は、マクロビジョン社やそのほか権利者が米国などで特許などの知的財産権を所有しており、この技術を使用する際にはマクロビジョン社のライセンスが必要となります。マクロビジョン社が認めない限り、家庭をはじめとする限られた使用での視聴目的以外にはこの技術の使用はできません。また、改造または分解、リバースエンジニアリングは禁止されています。
- DVD ディスクを著作権者に無断で複製したり放送、上映、演奏、レンタルすることは、法律により禁止されています。
- DVD ロゴは商標です。

ディスクの予備知識

本システムで再生できるディスク

本システムで再生できるディスクは以下の通りです。

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ	最長再生時間
DVD ビデオ	音声＋映像	12 センチ	約４時間（片面）
			約８時間（両面）
		８センチ	約 80 分（片面）
			約 160 分（両面）
ビデオ CD	音声＋映像	12 センチ	74 分
		８センチ	20 分
オーディオ CD	音声	12 センチ	74 分
		８センチ	20 分

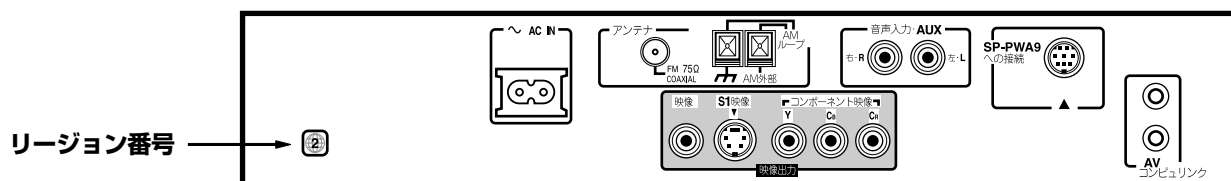
音楽用の CD フォーマットで記録された CD-R および CD-RW ディスクも再生できます。ただし、ディスクの特性や記録状態によっては、再生できないこともあります。

再生できないディスク

- DVD-ROM
- DVD-RAM
- DVD-R
- DVD-RW
- CD-ROM
- フォト CD

これらのディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。
CD-G、CD-EXTRA、CD TEXT の場合、音声のみ再生できます。

リージョン番号（ローカル番号）について

DVD にはリージョン番号と呼ばれる、再生可能地域番号がついています。この番号が DVD プレーヤーのリージョン番号と合致しないと再生できません。**本システム（センターユニット）のリージョン番号は「2」ですので、DVD のディスク上に「2」という番号が含まれているディスクを再生することができます。**

- 本システムで再生できるディスクの表示例

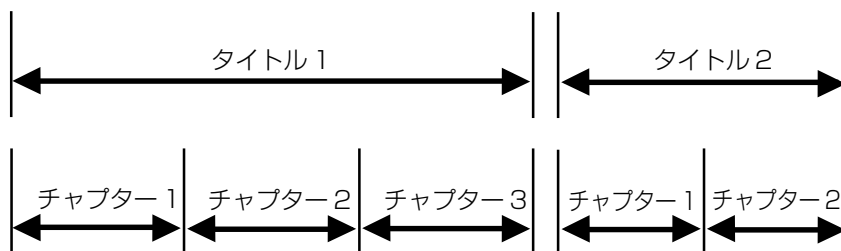
本システムは日本やアメリカなどのテレビ方式である NTSC に適合しています。ヨーロッパなどのテレビ方式（PAL（パル）、SECAM（セカム））用のディスクは再生できません。

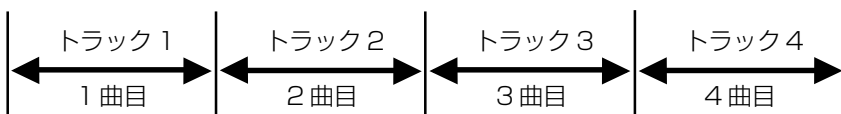
お知らせ

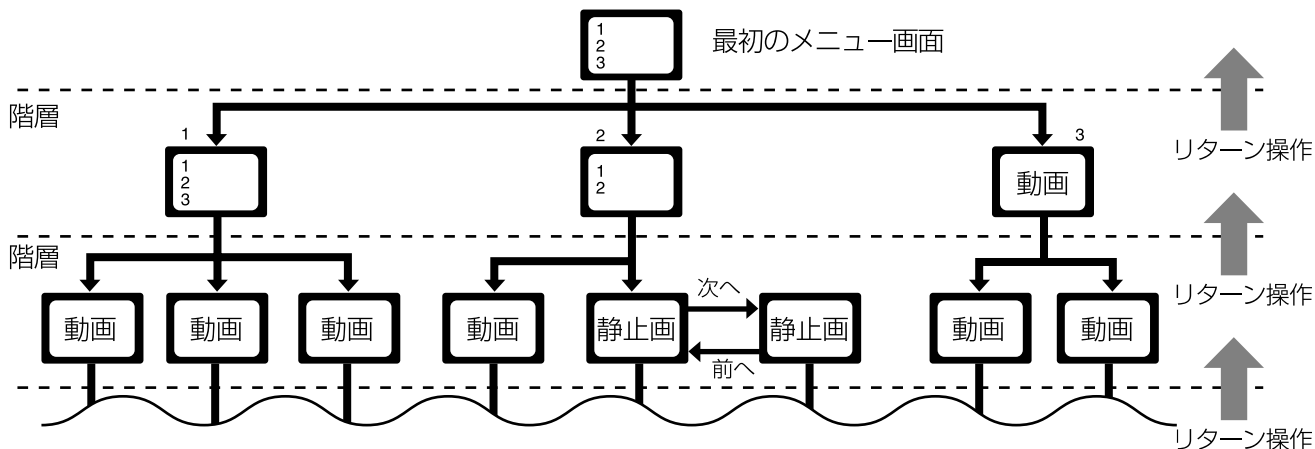
- DVD およびビデオ CD は、ソフト製作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本センターユニットは、ソフト製作者が意図したディスク内容に従って再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。

ディスクの構成

一般的にDVDソフトは、タイトルと呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。それぞれのタイトルには番号（タイトル番号）が付いていて、お望みのタイトルがすぐに選べるようになっています。またタイトルはさらにチャプター（章）という小さな項目によって構成されています。それぞれのチャプターには番号（チャプター番号）が付いていて、お望みのチャプターがすぐに選べるようになっています。ただし、ディスクによってはタイトルやチャプターに分割されていないものもあります。

DVD 映画作品の構成の例

一般的にオーディオ CD は、トラックという呼び名で 1 曲ごとに区切られ、番号（トラック番号）が付けられています。たとえば 2 曲目を指す場合には、「トラック 2」となります。ビデオ CD のカラオケなども同様です。ただし、ディスクによってはトラックに分割されていないものもあります。

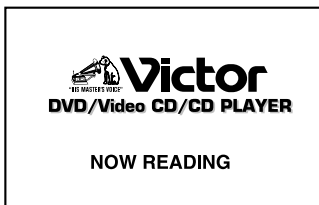
オーディオ CD の例

ビデオCDのプレイバックコントロール(PBC)機能

ビデオ CD のプレイバックコントロール機能（以下 PBC）には、「高精細静止画機能」と「メニュー再生機能」があります。
「高精細静止画機能」は、ディスクの中に高精細な静止画が収録されている場合、動画の 4 倍以上の解像度で静止画像を再生します。
「メニュー再生機能」は、ディスクの内容をいくつかの階層に分けて収録し、画面の指示にしたがって階層を進みながら再生していきます。PBC 対応のディスクを再生すると、通常の場合は、最初にメニュー画面を表示します。画面に表示された項目や番号を選んで次の画面に進んでいきます。
PBC 対応のディスクでも、PBC を機能させずに収録されているトラックを連続して再生することもできます。
メニュー再生機能の基本的な流れは、下図のようになります。

操作するための予備知識

オンスクリーン画面について

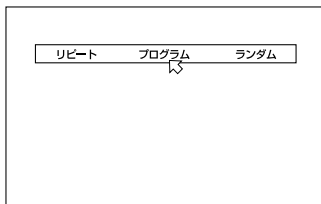
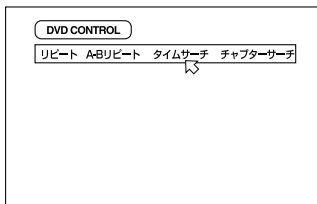
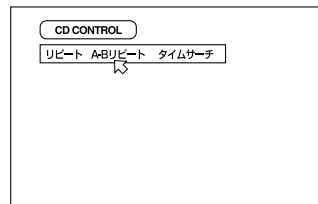
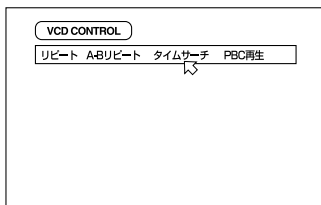
本システムには、次のようなオープニング画面があります。

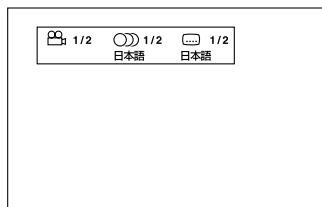
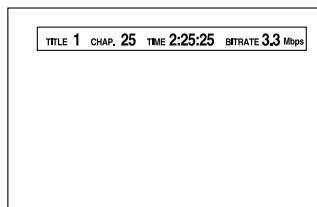
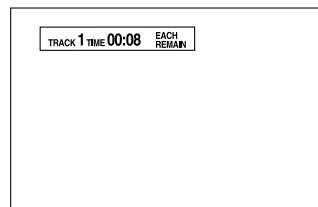
オープニング画面

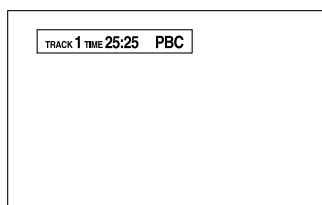
本機の電源を「入」にした直後など、状況によって自動的に表示されます。状況に応じて、本機の状態を示す以下のメッセージが下部に表示されます。

NOW READING

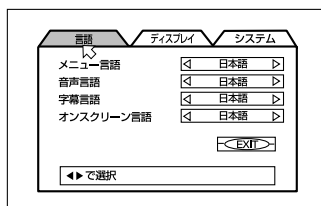
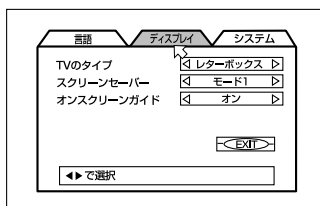
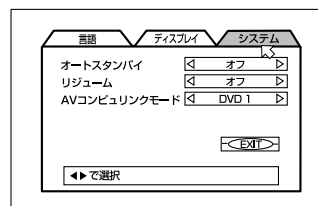
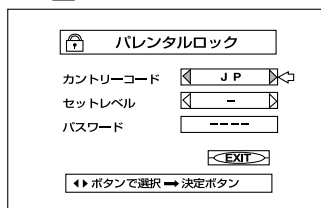
- NOW READING　　　　　：ディスク情報（TOC 情報）を読み取り中です。
- リージョン コード エラー!　：リージョンコードが違うため、このDVDビデオを再生できません。
- OPEN　　　　　　　　：ディスクカバーを開けます。
- CLOSE　　　　　　　　：ディスクカバーを閉めます。

再生モードを操作するオンスクリーン画面

停止中のオンスクリーン画面

DVD ビデオ再生中のオンスクリーン画面

オーディオ CD 再生中のオンスクリーン画面

ビデオ CD 再生中のオンスクリーン画面

状況や状態を表示するオンスクリーン画面

DVD ビデオ機能の状況表示のオンスクリーン画面

DVD ビデオ時間表示のオンスクリーン画面

オーディオ CD 時間表示のオンスクリーン画面

ビデオ CD 時間表示のオンスクリーン画面

TRACK 1 TIME 25:25　PBC

本機の初期設定をするオンスクリーン画面

「言語」を設定するオンスクリーン画面
（➡ 70 ページ参照）

「ディスプレイ」を設定するオンスクリーン画面
（➡ 70 ページ参照）

「システム」を設定するオンスクリーン画面
（➡ 70 ページ参照）

パレンタルロック（視聴制限）の設定をするオンスクリーン画面
（➡ 74 ページ参照）

お知らせ

- ソース（音源）をFM/AMやAUXにしているときは、テレビの画面には何も表示されません。

画面の焼き付きを防ぐ[スクリーンセーバー]

画面例

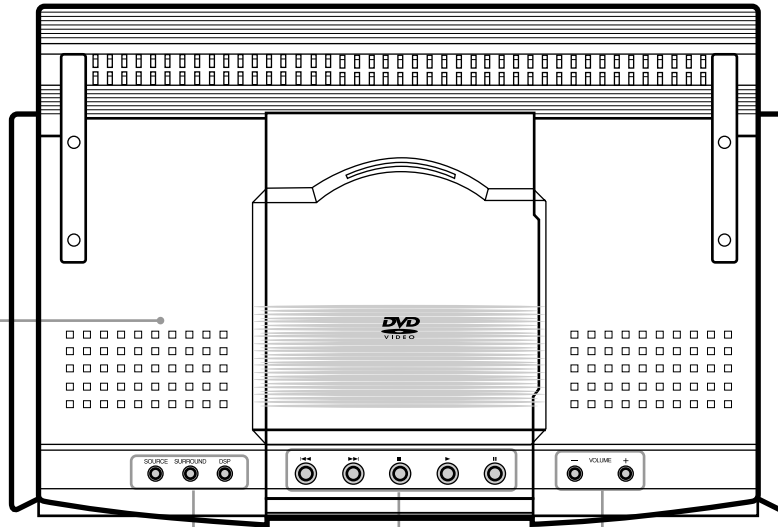
長い時間、静止画を映していると、テレビ画面が焼き付きを起こし静止画の残像が残ってしまうことがあります。これを防止するために本システムは、スクリーンセーバー機能を備えています。停止中、メニュー再生中など静止画が表示されてから5分以上何も操作しないと、画面が暗くなるか、スクリーンセーバー画面が表示されます。またスクリーンセーバー機能はいずれかの操作ボタンを押すと解除され、前の画面に戻ります。（➡ 72 ページ参照）

（注）オーディオCD再生中またはオーディオCD再生を停止した後は、スクリーンセーバー機能が働きません。

各部の名前 ―□内の数字のページに説明があります。―

センターユニット（XV-THA9）

上　面

ディスクカバー
電源を「入」にするとカバーが後ろに少しスライドします。
電源を「切」にするとカバーが元に戻ります。

操作ボタン
- **SOURCE**　：ソース (音源) を選ぶときに押します。[36]
- **SURROUND**：サラウンドを選ぶときに押します。[38]
- **DSP MODE**　：DSP モードを選ぶときに押します。[38]

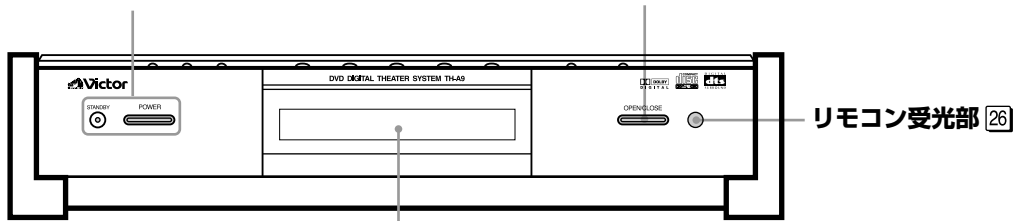
VOLUME ＋、－ ボタン
音量を調節します。[36]

ディスク操作ボタン
- ⏮、⏭：頭出しや早送り／早戻しをするときに使います。[43] [44]
- ■　：ディスクの再生を停止するときに押します。[43]
- ▶　：ディスクを再生するときに押します。[42]
- ❚❚　：ディスクの再生を一時停止するときやコマ送り再生、ストロボ再生をするときに使います。[42] [51]

前　面

POWER ボタンと STANDBY ランプ
電源の「入」⟷「切」をするときに POWER ボタンを押します。
STANDBY ランプは、電源を「切」にすると赤く点灯し、電源を「入」にすると消灯します。[28]

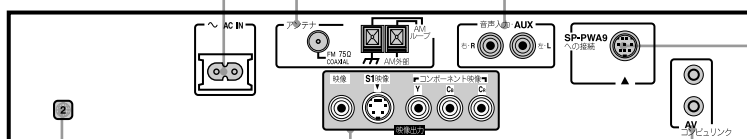
OPEN/CLOSE ボタン
ディスクカバーを開／閉するときに押します。
電源を「入」にすることもできます。[30] [32] [41]

リモコン受光部 [26]

表示窓
[15] ページをご覧ください。

背　面

AC IN（電源）端子
付属の電源コードを接続します。[23]

アンテナ端子
FM および AM のアンテナを接続します。[18]

AUX 音声入力端子
他の機器のアナログ音声入力端子と接続します。[22]

システムケーブル接続端子
付属のシステムケーブルを使ってパワードサブウーハー（SP-PWA9）と接続します。[19]

リージョン番号（ローカル番号）表示

映像出力端子
テレビの映像入力端子と接続します。[20]

AV コンピュリンク端子
AV コンピュリンク端子を持つビクター製の AV 機器と接続します。[76]

表示窓

LINEAR PCM 表示
リニア PCM で収録された音声を再生しているときに点灯します。オーディオ CD のときは、停止中も点灯します。

ラジオ表示
受信しているバンド（AM または FM）と記憶されているプリセット番号（CH）を表示するときに点灯します。35

文字 / 時間表示部
本システムの動作状態や選んでいるソース、時間情報などを表示します。

音声チャンネル表示
再生しているソフトの音声チャンネル構成を表示します。
下の説明をご覧ください。

EACH 表示
ディスクを再生しているときの時間表示モードを表示します。61

PROGRAM 表示
プログラム再生をしているときに点灯します。58

REMAIN 表示
ディスクを再生しているときの時間表示モードを表示します。61

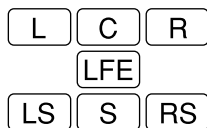
RESUME 表示
続きを再生するところが記憶されているときに点灯します。44

ラジオ受信状態表示
ラジオの受信状態と FM 受信モードを表示します。35

DSP 表示
サラウンドモード以外の DSP モードを選んでいるときに点灯します。

サラウンド表示
再生しているソフトのサラウンドモードを表示します。
「SURROUND」はサラウンドモードがオンのときに表示します。

音声チャンネル表示＊1

再生しているソフトの音声チャンネル構成を表示します。

表示が示しているスピーカーのチャンネルは、次のようになります。

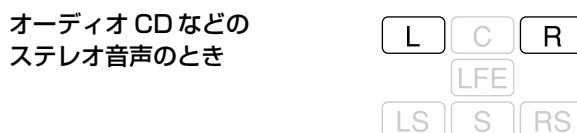
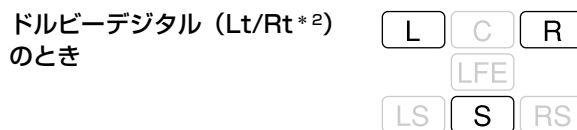
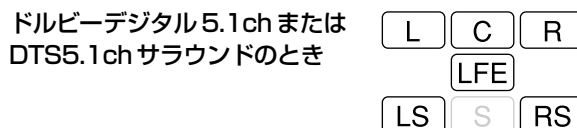
- **L** ：左フロントスピーカーチャンネル
- **R** ：右フロントスピーカーチャンネル
- **C** ：センタースピーカーチャンネル
- **LS** ：左リアスピーカーサラウンドチャンネル
- **RS** ：右リアスピーカーサラウンドチャンネル
- **S** ：リアスピーカーサラウンドチャンネル（モノラル）
- **LFE** ：サブウーハーチャンネル

＊1 音声チャンネル表示は、実際に音の出ているスピーカーの表示ではありません。

再生しているソフト（DVDまたはビデオなど）の種類による表示例

ドルビーデジタル 5.1ch または DTS5.1ch サラウンドのとき

ドルビーデジタル（Lt/Rt＊2）のとき

オーディオ CD などのステレオ音声のとき

＊2 Lt/Rt：ドルビープロロジックが内蔵されている機器と接続するときのダウンミックス出力のことです。

各部の名前（つづき） —□内の数字のページに説明があります。—

リモコン（RM-STHA9）

ソース機器選択ボタン
ソース（音源）を選ぶときに押します。[36]

ディスクの操作や初期設定をするときに使います。
- **タイトル** [45]
- **字幕** [54]
- **デコード** [37]
- **音声** [55]
- **ズーム** [52]
- **ダイジェスト** [50]
- **時間切替** [61]
- **表示切替** [60] [61]
- **リターン** [46]
- **アングル** [53]
- **メニュー** [70]

コントロールボタン
- **ビデオ**：ビデオを操作するときに押します。数字キーと操作ボタンがビデオ操作モードになります。[79] [80]
- **テレビ**：テレビを操作するときに押します。数字キーがテレビ操作モードになります。[78] [80]

スリープボタン
おやすみタイマーを使うときに押します。[40]

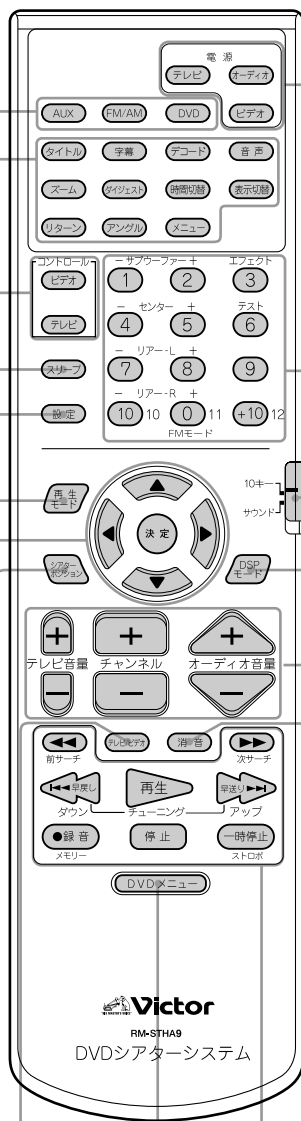
設定ボタン
アンプ機能の設定をするときに押します。[62]

再生モードボタン
ディスクの再生モードを変えるときに押します。[48] [49] [56] [57] [58] [59]

カーソル（▲/▼/◄/►）ボタンと決定ボタン [45]

シアターポジションボタン
画質を３通りの中から選びます。[60]

テレビ / ビデオボタン
テレビの入力を「ビデオ」または「テレビ」に切り換えるときに押します。[80]

DVD メニューボタン
DVDに収録されているメニュー画面を表示させるときに押します。[45]

電源ボタン
電源の「入」⟷「切」をするときに使います。
- **オーディオ**：本システムの電源を「入」⟷「切」するときに押します。[30]
- **テレビ**：テレビの電源を「入」⟷「切」するときに押します。
  他メーカーのテレビは、メーカーコードの設定が必要になります。[30] [78] [80]
- **ビデオ**：ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」するときに押します。
  他メーカーのビデオデッキは、メーカーコードの設定が必要になります。[79] [80]

数字キー
ディスクやラジオ、テレビ等の操作のときとスピーカーの設定をするときに使います。

数字キー操作モードセレクター
数字キーの操作モードを切り換えます。[27] [68]
10キー：数字キーとしての操作モードになります。
サウンド：サウンドの設定をするときの操作モードになります。
- スピーカーの設定をするとき以外は、10キー側にしてお使いください。

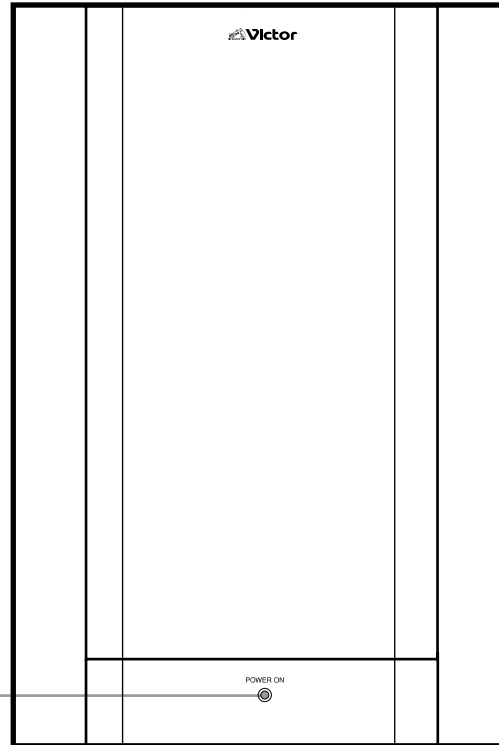
DSP モードボタン（ディーエスピー）
DSP モードを選ぶときに押します。[31] [38]

音量、チャンネルボタン
- **オーディオ音量＋、−**：本システムの音量を調節するときに押します。[30] [36]
- **チャンネル＋、−**：テレビやビデオのチャンネルを選ぶときに押します。[80]
- **テレビ音量＋、−**：テレビの音量を調節するときに押します。[80]

消音ボタン
本システムの音を一時的に出なくするときに押します。[36]

操作ボタン
ディスクやラジオの操作のほかに、ビデオデッキの操作をするときに使います。
- **ディスクの操作をするとき** [31]
  - **◄◄、►►**：早送り／早戻しをするときに押します。
  - **|◄◄、►►|**：頭出しをするときに押します。
  - **再生**：ディスクの再生を始めるときに押します。
  - **一時停止**：ディスクの一時停止やストロボ再生をするときに押します。
  - **停止**：ディスクを停止するときに押します。
- **ラジオの操作をするとき** [34] [35]
  - **|◄◄、►►|**：聞きたい放送局の周波数を選ぶときに押します。
  - **メモリー**：放送局を記憶させるときに押します。

パワードサブウーハー（SP-PWA9）

前　面

POWER　ON ランプ
パワードサブウーハーの電源が「入」のときに、緑色に点灯します。

背　面

音量つまみ
サブウーハーの音量を調節するときに回します。29

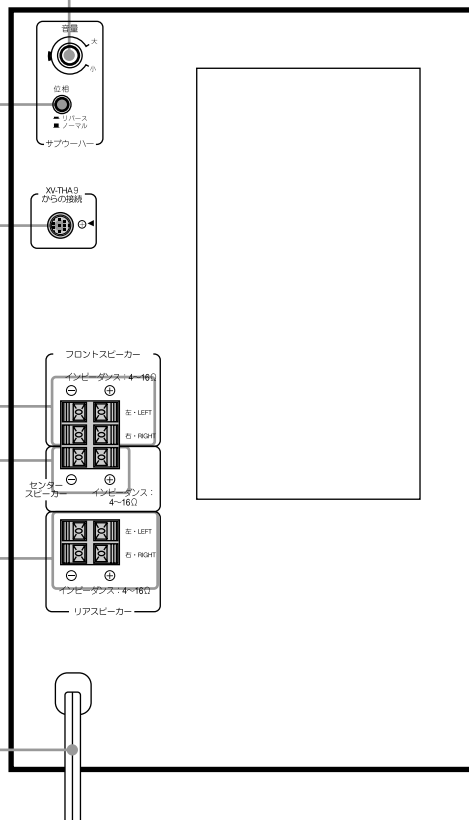
位相ボタン
サブウーハーの位相を切り換えるときに押します。29

システムケーブル接続端子
センターユニット（XV-THA9）とシステムケーブルを使って接続する端子です。19

フロントスピーカー端子
左右のフロントスピーカーを接続する端子です。21

センタースピーカー端子
センタースピーカーを接続する端子です。21

リアスピーカー端子
リアスピーカーを接続する端子です。21

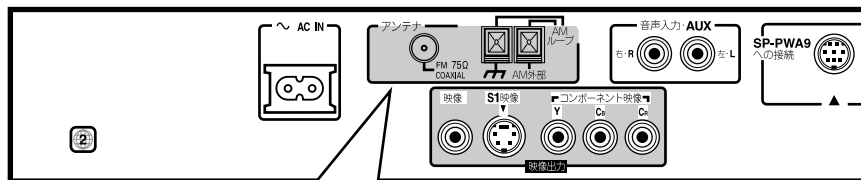
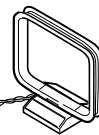
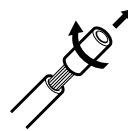
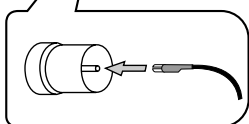
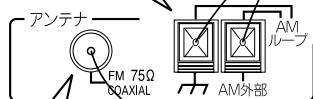
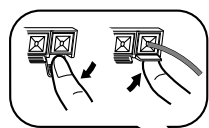
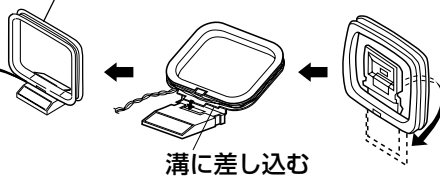
電源コード
家庭用のコンセント（AC 100V）に接続します。23

接　続 ―接続が終わるまで電源は入れないでください。―

接続上のご注意

・ すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
・ 各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因となります。

アンテナの接続

ラジオを聞くためにアンテナを接続します。

センターユニット（XV-THA9）

AM ループアンテナについて

アンテナ線の先端にビニールがついているときは、**ねじりながら抜き取ります。**

屋内アンテナ(付属のアンテナ)の接続

AM ループアンテナ（付属品）

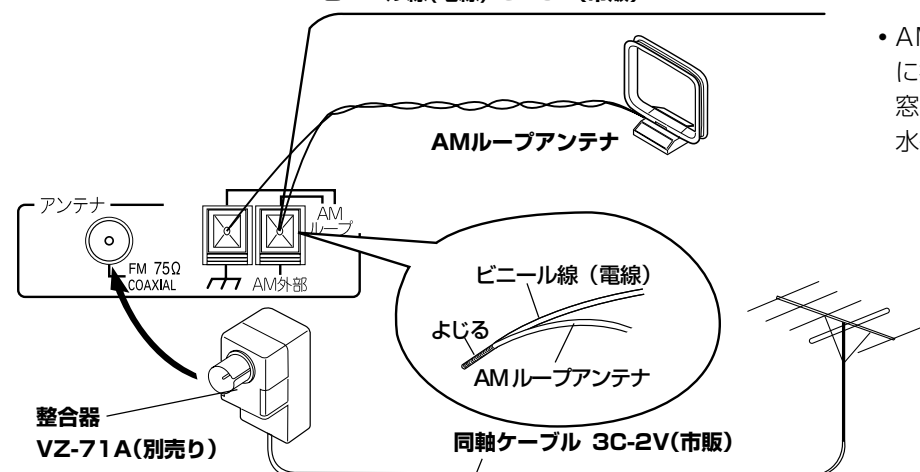
・本体からできるだけ離し、左右に回してもっとも良く受信できる所に置きます。

（束ねてある線はよく伸ばして使ってください）

中央のピン部に差し込みます。

FM 簡易型アンテナ（付属品）
放送局を受信して最も受信状態の良い位置に「ピーン」と伸ばし、先端をテープなどで固定します。

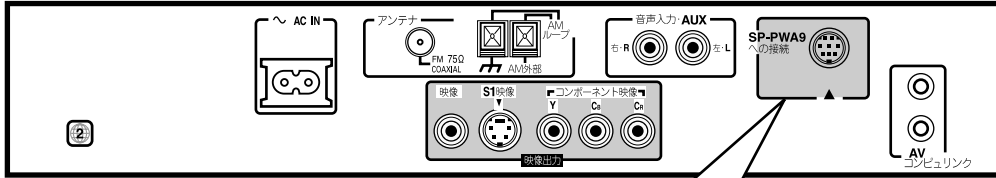
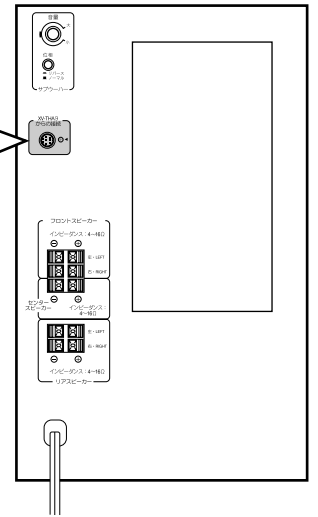
屋外アンテナの接続

■ 付属の FM 簡易型アンテナや AM ループアンテナではうまく受信できないとき
■ マンションなどの壁の共聴アンテナ端子を使うとき

• AM ループアンテナも一緒に接続しておいてください。窓際や屋外になるべく高く水平に張ると効果的です。

FM 屋外アンテナ（市販）

FM屋外アンテナを接続するときは、市販の同軸ケーブルと整合器を準備しておいてください。

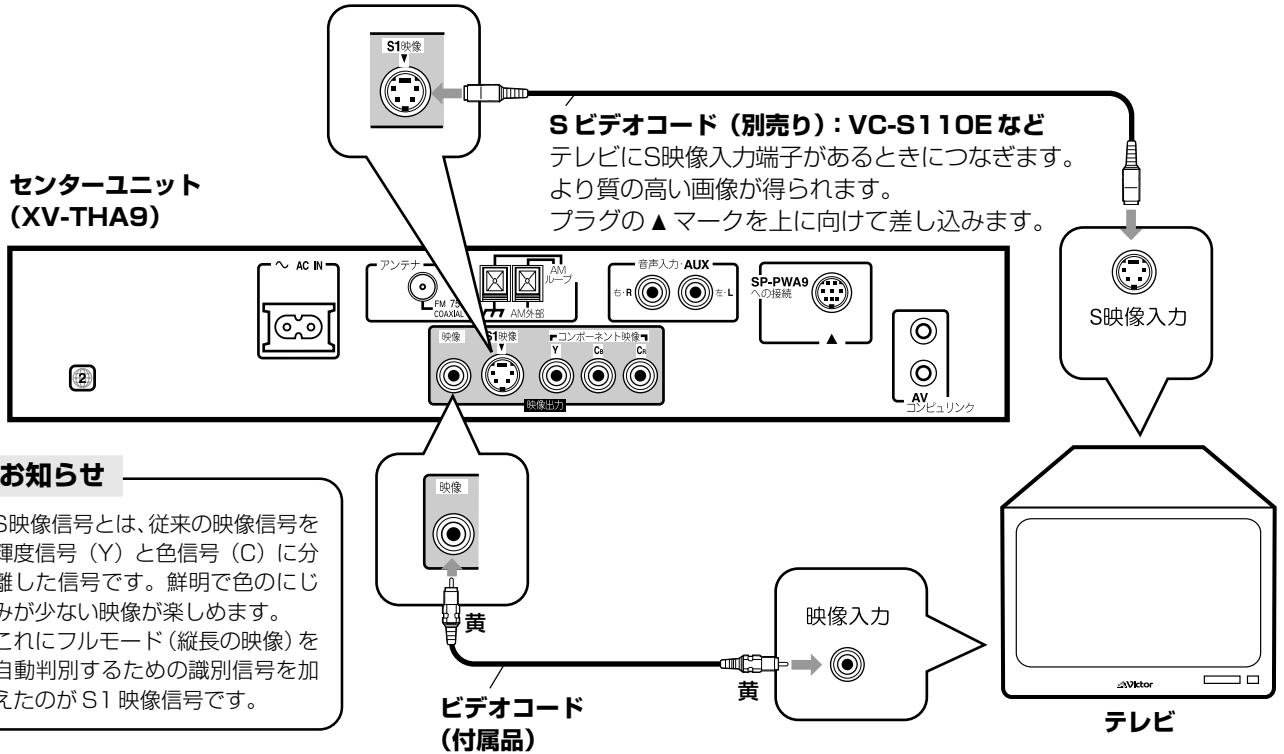
センターユニットとパワードサブウーハーとの接続

センターユニット（XV-THA9）とパワードサブウーハー（SP-PWA9）を付属のシステムケーブルで接続します。

ご注意

- **センターユニットとパワードサブウーハーとの接続には、必ず付属品のシステムケーブルをお使いください。**
- システムケーブルの接続は、センターユニットとパワードサブウーハーとでは差し込の方向が異なります。プラグの▲マークをセンターユニットおよびパワードサブウーハーの▲マーク表示に向けて差し込んでください。

テレビとの接続

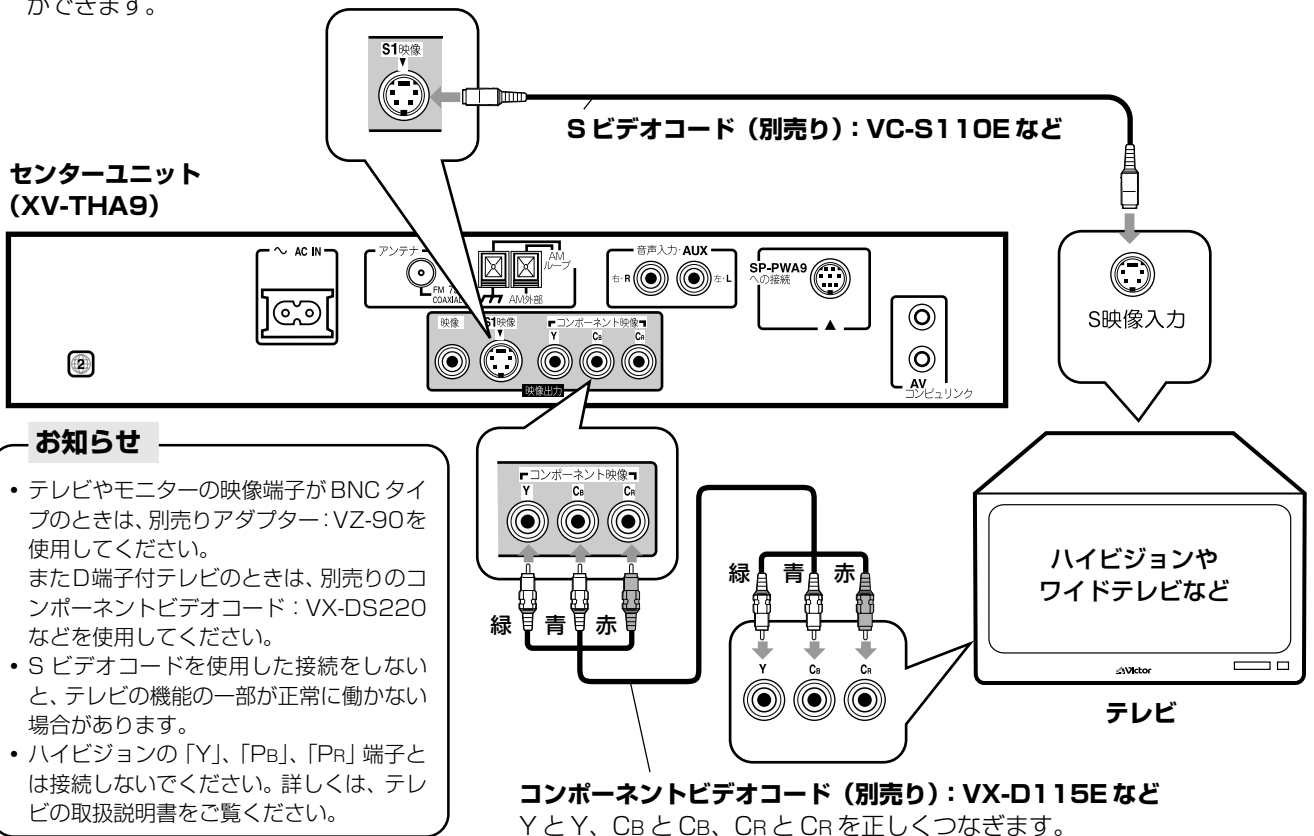
本システムからの映像を見るためのテレビを接続します。テレビの代わりにモニターやプロジェクターに接続することもできます。センターユニットの映像出力は、直接テレビ（またはモニター）とつないでください。ビデオデッキを経由してつなぐと、コピー防止システムの働きにより再生中に画像が乱れることがあります。

お知らせ

- S映像信号とは、従来の映像信号を輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した信号です。鮮明で色のにじみが少ない映像が楽しめます。
  これにフルモード（縦長の映像）を自動判別するための識別信号を加えたのがS1映像信号です。

DVDコンポーネント映像入力端子付のテレビとの接続

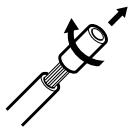
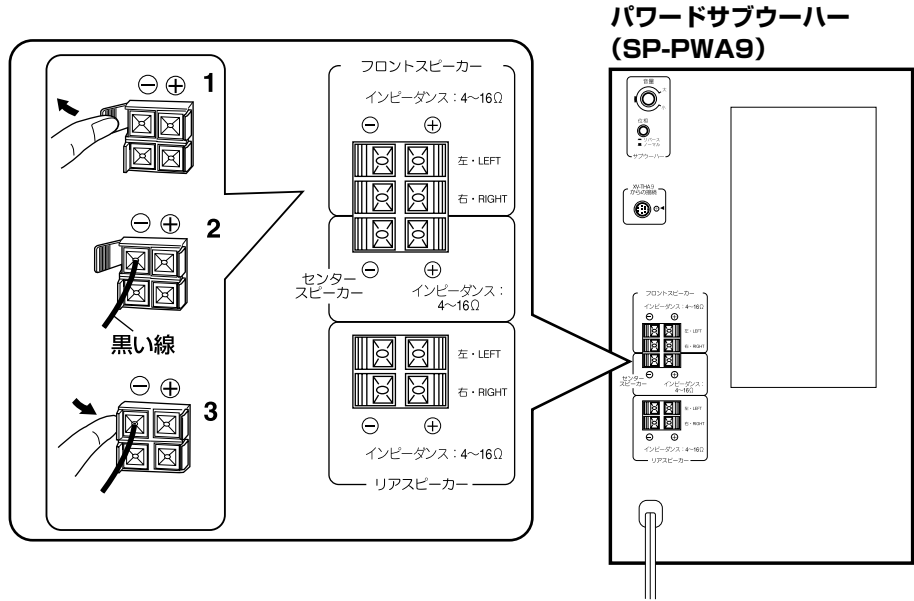
コンポーネント映像端子を使ってセンターユニットとテレビを接続することで、より高画質の映像をお楽しみいただくことができます。

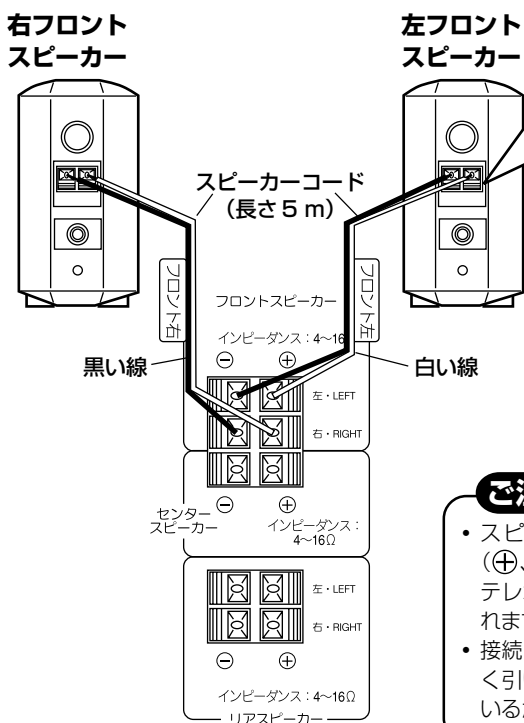
お知らせ

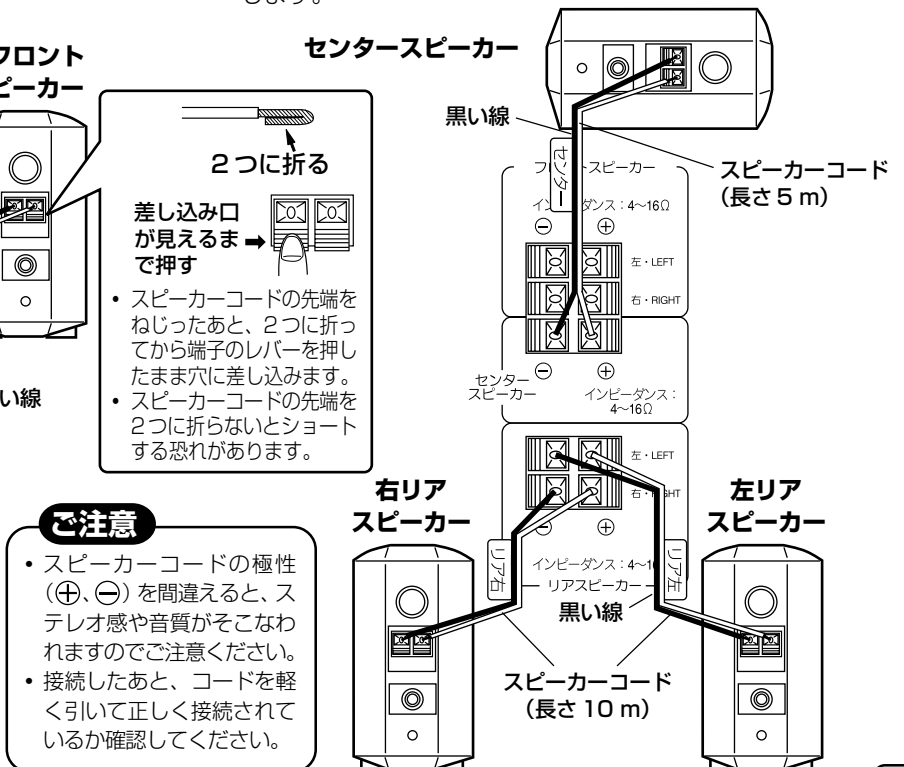
- テレビやモニターの映像端子がBNCタイプのときは、別売りアダプター：VZ-90を使用してください。
  またD端子付テレビのときは、別売りのコンポーネントビデオコード：VX-DS220などを使用してください。
- Sビデオコードを使用した接続をしないと、テレビの機能の一部が正常に働かない場合があります。
- ハイビジョンの「Y」、「PB」、「PR」端子とは接続しないでください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

パワードサブウーハーとサテライトスピーカー／センタースピーカーとの接続

サテライトスピーカーとセンタースピーカーをパワードサブウーハーのスピーカー端子に接続します。
接続には、付属のスピーカーコードを使います。
スピーカーコードには、長さ5m（3本）と長さ10m（2本）があります。各スピーカーコードには、接続するスピーカーのシールが張ってあります。シールに合わせて正しくお使いください。
4本のサテライトスピーカーには、フロント用とリア用の区別はありません。リスニングポジションの前面に置くスピーカーをフロント用、後ろに置くスピーカーをリア用にしてください。28 ページの設置例もご覧ください。

スピーカーの左右と極性（⊕と⊖）を間違えないように正しく接続してください。

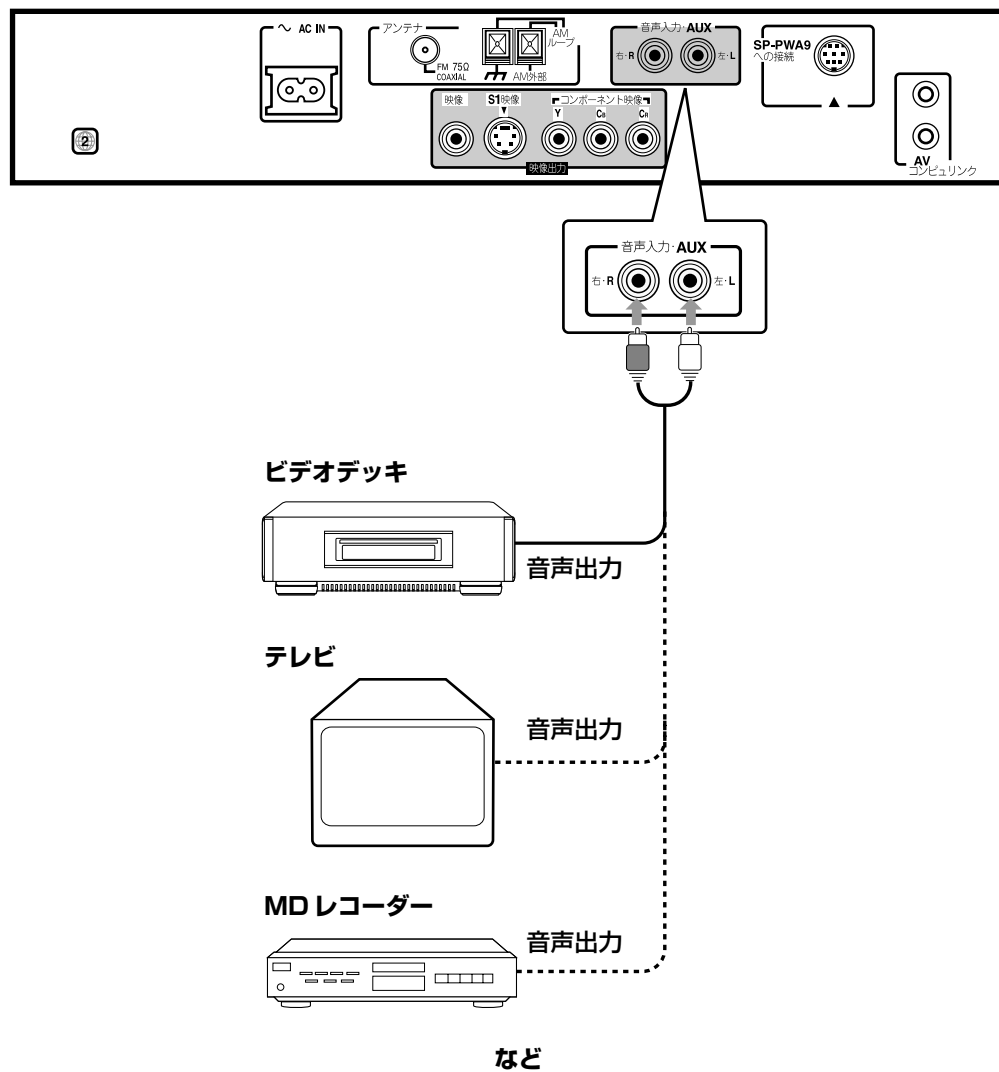
- スピーカーコードは、白い線を ⊕ 端子に、黒い線を ⊖ 端子に接続します。
- 市販のスピーカーを使用するときは、インピーダンス4Ω〜16Ωのものを使用してください。

フロントスピーカーの接続

正面向かって右側に設置するスピーカーを右・RIGHT端子に接続します。
正面向かって左側に設置するスピーカーを左・LEFT端子に接続します。

センタースピーカー／リアスピーカーの接続

センタースピーカーは、センタースピーカー端子に接続します。リアスピーカーは、右側のリアスピーカーを右・RIGHT端子に接続し、左側のリアスピーカーを左・LEFT端子に接続します。

接　続（つづき）

他の機器との接続

RCA ピンプラグ付きコード（別売り）を使って音声入力・AUX 端子に接続します。
アナログ音声を入力します。

- 赤いプラグの方を右・R（ライト）端子に、白いプラグの方を左・L（レフト）端子に接続します。

お知らせ

- レコードプレーヤー：AL-E350（別売り）をつなぐときは、フォノイコライザー：AC-S100J（別売り）が必要です。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、センターユニットのSTANDBYランプが赤く点灯します。

センターユニット（XV-THA9）

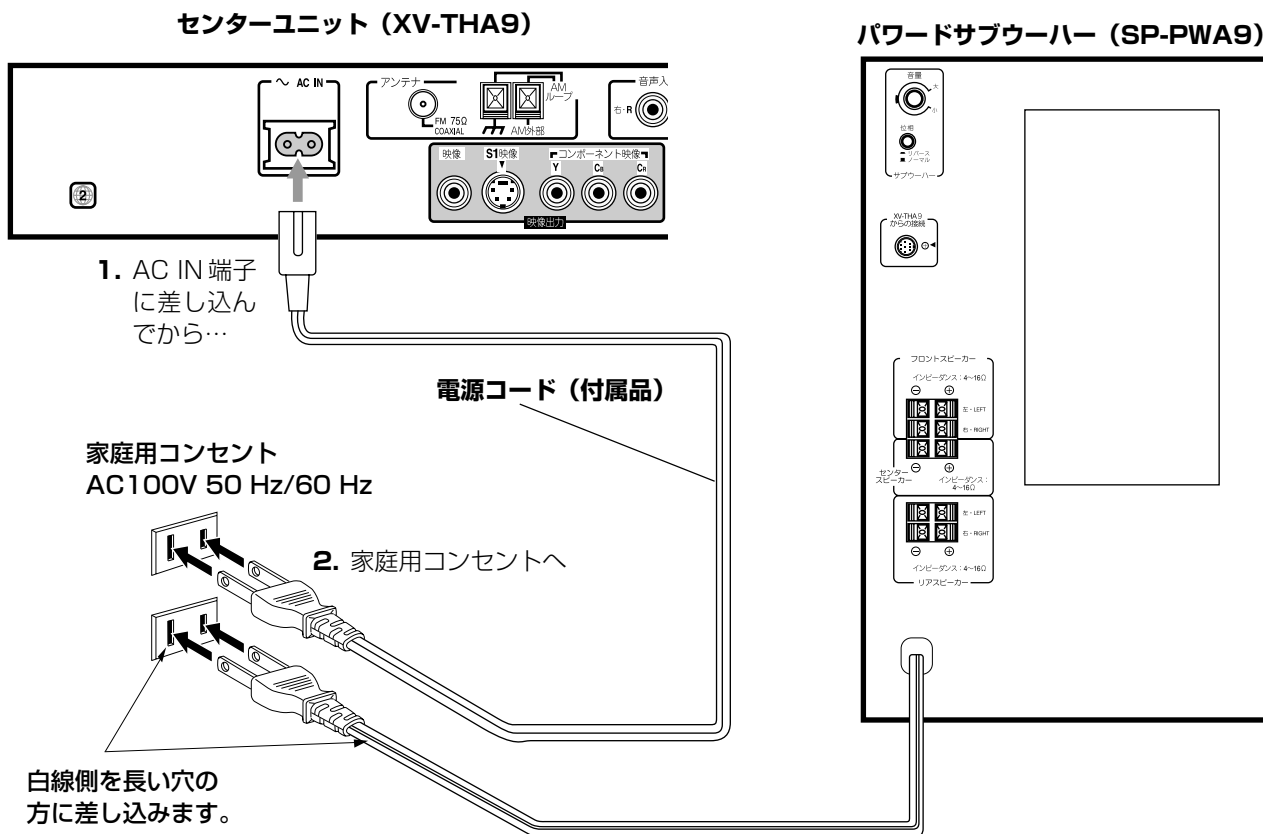
パワードサブウーハー（SP-PWA9）

1. AC IN端子に差し込んでから…

電源コード（付属品）

家庭用コンセント
AC100V 50 Hz/60 Hz

2. 家庭用コンセントへ

白線側を長い穴の方に差し込みます。

電源コードの極性表示について

パワードサブウーハーの電源コードには、一方に白線が入っています。これは電源の極性を表示したもので、図のように極性を合わせて家庭用コンセントに差し込みます。より良好な音質が得られます。

- センターユニットの電源コードには、極性を表示する白線はありません。
  家庭用コンセントに差し込むとき、極性を合わせる必要はありません。

ご注意

- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

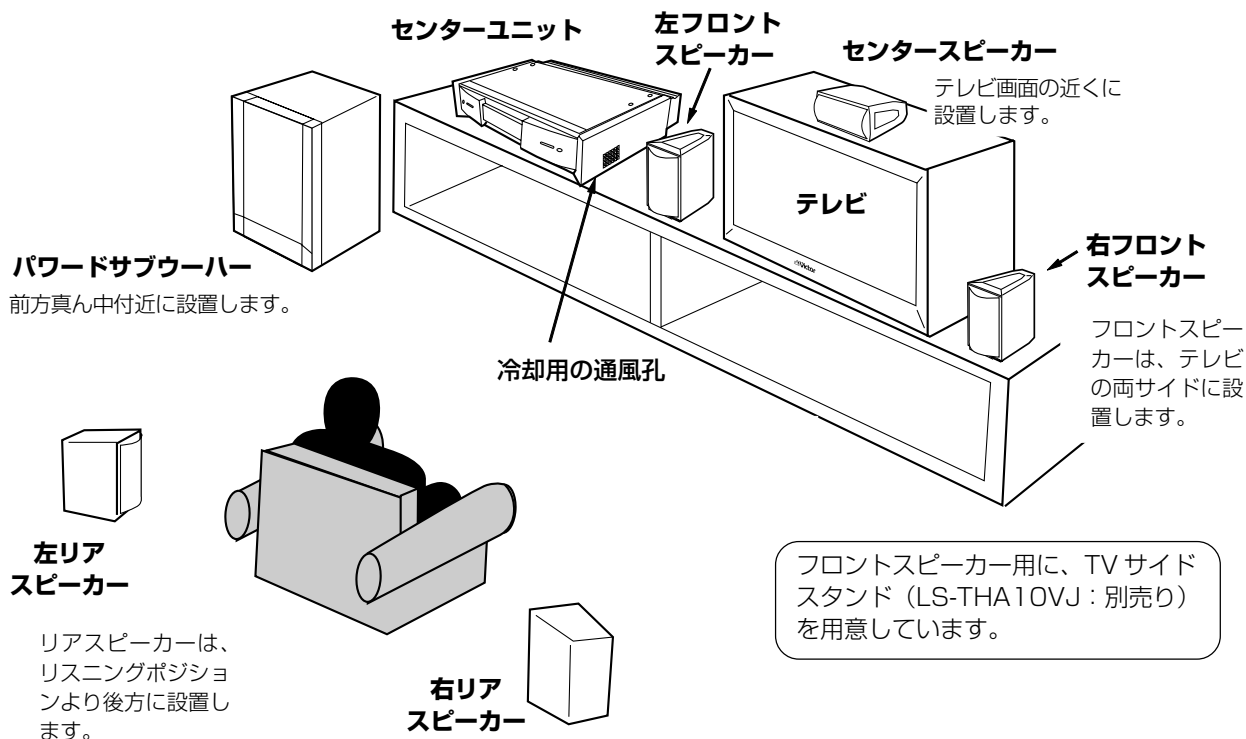
お知らせ

- 電源が入っているときにパワードサブウーハーの電源コードが抜けると、スピーカーから音が出なくなります。この場合、電源コードを家庭用コンセントにつないでも音は出ません。このようなときは、センターユニットのPOWERボタン（またはリモコンのオーディオ電源ボタン）で電源を入れ直してください。スピーカーから音が出るようになります。
- 形状の違いによる故障や事故を防止するため、規定以外の電源コードは絶対に使用しないでください。
- 電源コードを紛失したり電源コードが断線したときは、お買い上げの販売店で別売りの電源コード：CN-325Aをお買い求めください。

設　置

DVDデジタルシアターシステムの設置例

設置するときのご注意：

- **パワードサブウーハーの背面にテーブルクロスやカーテン等を掛けたり、風通しの悪い狭い所に設置すると、内部に熱がこもり故障や火災の原因となることがあります。**
  天面や側面、背面からそれぞれ 10cm 以上離して設置してください。
- **サテライトスピーカーを本棚の上などに置いて使用するときは、平らな場所に置いてください。**
- **各スピーカーは防磁型ですが万一、テレビ画面に色ムラを生じるときは、スピーカーとテレビを離してください。**
- **センターユニットの右側には、冷却用の通風孔があります。設置のときにふさがないようにしてください。**

設置するときのポイント

センタースピーカー　：主に映画の台詞などを再生するので、テレビ画面の近くに設置します。
フロントスピーカー　：前方左右の音を再生します。
リアスピーカー　：後方左右の音を再生します。耳の位置に対して横から後方に設置します。
パワードサブウーハー　：重低音を再生します。

- センタースピーカー、フロントスピーカー、リアスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーを向ける方向によって、サラウンド感が変わります。
- パワードサブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音よりも指向性が弱いので、お部屋のレイアウトなどに合わせて重低音が効果的に聞こえる場所に設置してください。ただし、付属のシステムケーブル（5m）がとどく範囲内に設置してください。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面が最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。

お知らせ

- センターユニットの冷却ファンは、ソース（音源）がディスクになっているとき、常に回転しています。ディスクの再生を停止しても冷却ファンの回転音はしますが、故障ではありません。
  ソース（音源）をラジオまたはAUXにすると冷却ファンは停止します。

サテライトスピーカーを壁に掛けて使うとき

付属のブラケットを使って、サテライトスピーカーを柱などに取り付けて使うことができます。

⚠ 重要注意事項：

付属のブラケットを柱などに止める木ネジ（長さ20mm～25mm、直径3mm）は、十分に強度の得られるものをお客様でご用意ください。
強度や取り付けが不十分の場合、落下により人に被害を及ぼしたり、使用している機器などを損傷する恐れがあります。
ベニヤ板でできている壁やボード板などで強度が弱い場合は、必ず補強してください。
壁の強度など、お客様で判断できないときは、必ずお買い上げの販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

⚠ 取り付け位置に関する注意：

サテライトスピーカーを壁に取り付けるときは、取り付ける位置に十分考慮してください。
日常生活で邪魔になる位置や体、頭のぶつかりやすい位置などに取り付けると、ケガや器物の破損を招く恐れがあります。

柱への取り付けかた

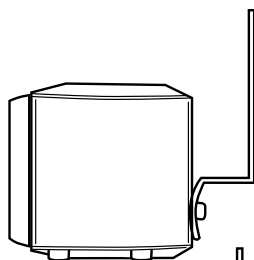
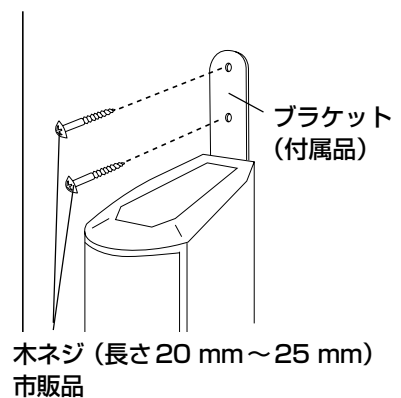
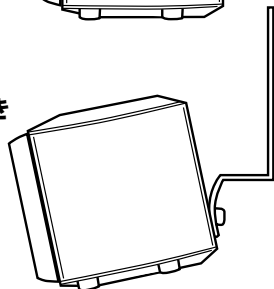
1 付属の取り付けネジを使って、ブラケットにサテライトスピーカーを取り付ける

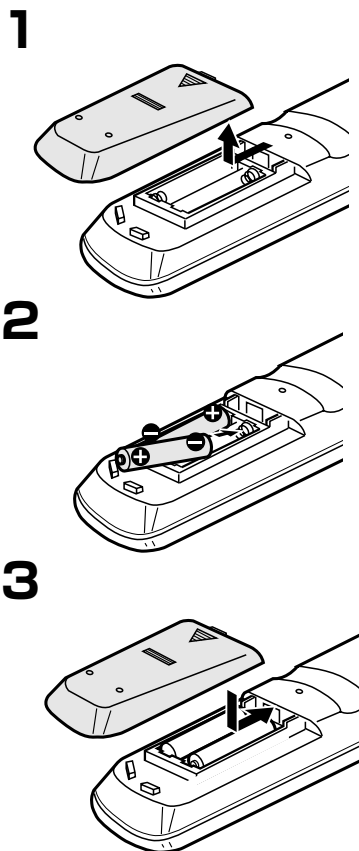
プラスドライバーを使ってしっかりと取り付けてください。

2 サテライトスピーカーの角度を調節する

ブラケットの溝に合わせて、角度を前傾させることができます。
角度を合わせるときは、取り付けネジを少しゆるめてから調節し、終わったら取り付けネジをしっかりと締め直します。

3 付属のブラケットを柱に取り付ける

木ネジ２本を使って、しっかりと取り付けます。

リモコンに乾電池を入れる

単３形の乾電池を入れます。

1　裏ブタをはずす

2　乾電池を入れる

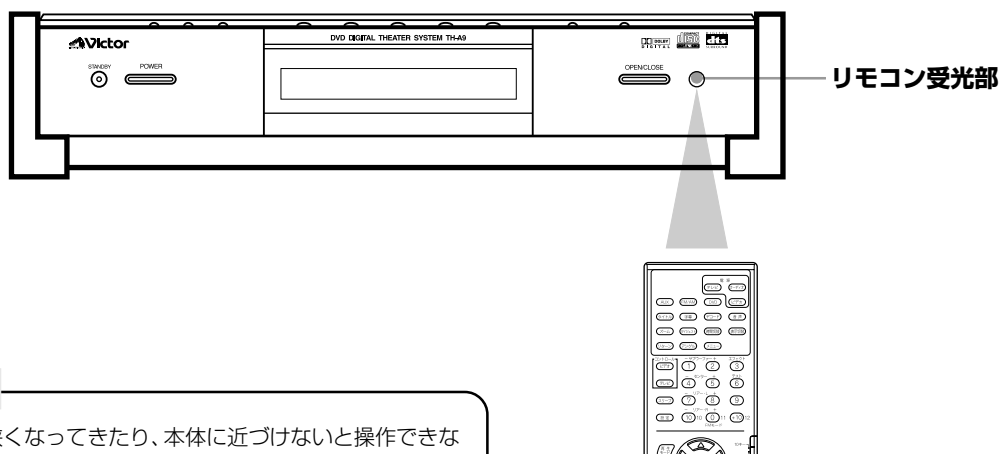
単３形乾電池２本を入れます。
リモコン内部の表示に合わせ、極性（＋、－）を正しく入れます。

- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。

3　裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

リモコンの操作

リモコンの先端をセンターユニットのリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できないことがあります。

お知らせ

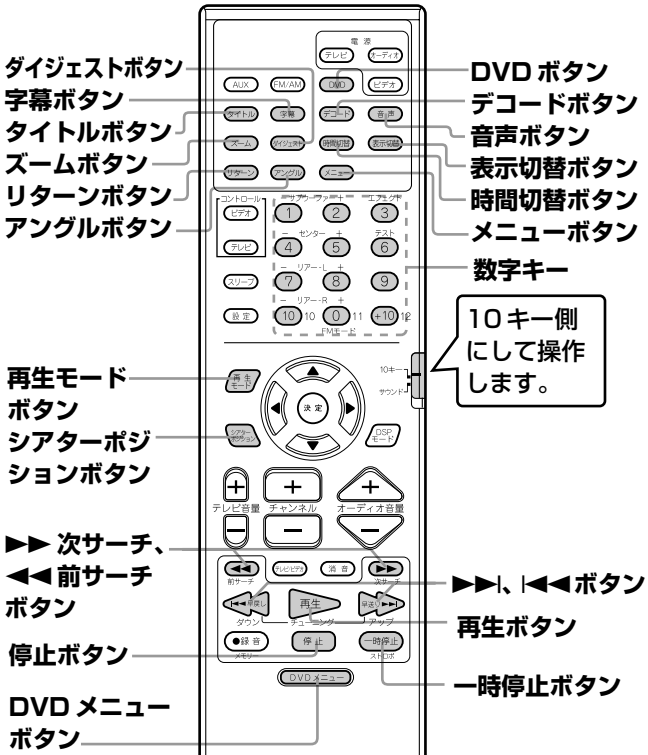
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池を交換してください。交換するときは、２本とも同じ種類の新しい単３形乾電池と交換してください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- 指定以外の電池（充電式電池など）は使用しないでください。

リモコンで操作するための予備知識

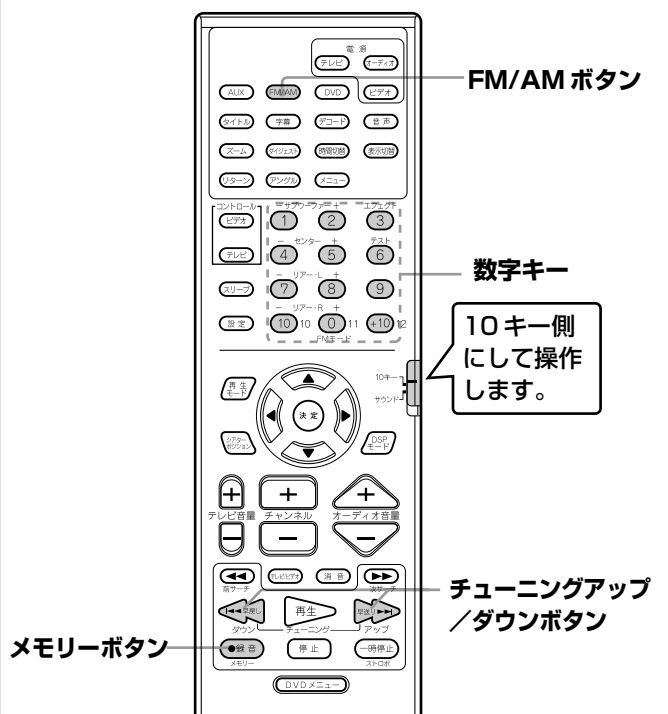
付属のリモコンで、アンプ機能の操作、DVD、ビデオCD、オーディオCDのディスクの再生操作、ラジオの操作をすることができます。
リモコンを使って操作するときは、リモコンの操作モードが合っていないと操作を受け付けないものがあります。
リモコンの操作モードは、次のようになります。

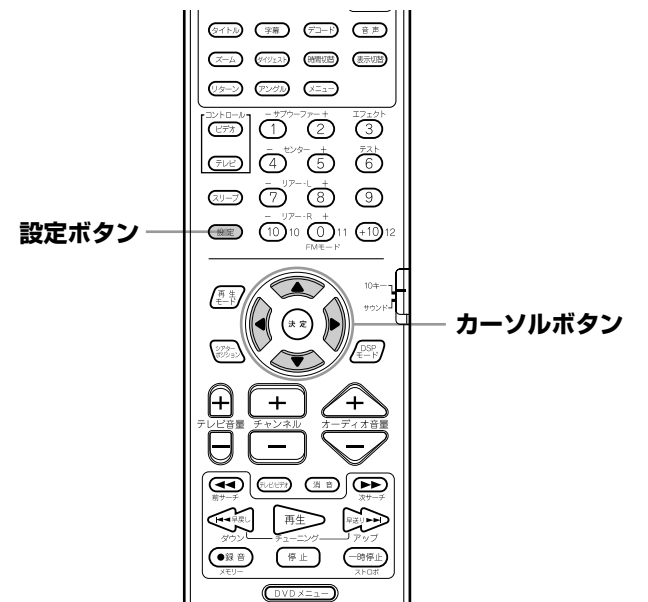
DVDボタンを押す

リモコンがディスク操作モードになり、次のボタンで操作ができます。

ディスクの操作をするときは、必ずDVDボタンを押してから操作してください。

FM/AMボタンを押す

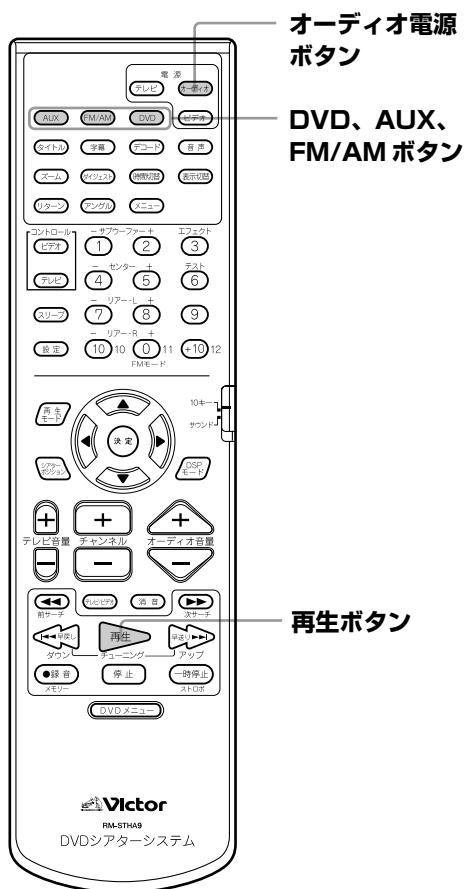
リモコンがラジオ操作モードになり、次のボタンで操作ができます。

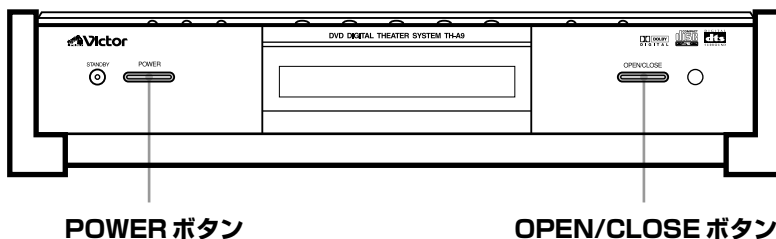
ラジオの操作をするときは、必ずFM/AMボタンを押してから操作してください。

設定ボタンを押す

カーソルボタンが設定操作モードになり、次のボタンで設定の操作ができます。

お知らせ

- 付録のリモコンは、ビクター製のテレビやビデオまたは他メーカーのテレビやビデオの操作をすることもできます。
- ビクター製のテレビやビデオの操作または他メーカーのテレビやビデオの操作については、78 ページ以降をご覧ください。

電源「入」／「切」について

リモコン

センターユニット

前　面

電源を「入」にする

次のボタンを使って本システムの電源を「入」にできます。

リモコン	センターユニット	動　作
オーディオ電源	POWER	センターユニットのSTANDBY ランプが消灯し、パワードサブウーハーのPOWER ON ランプが点灯します。
DVD FM/AM AUX	—	押したボタンのソース（音源）が選ばれます。
再生	—	リモコンの操作ボタンがディスク操作モードになっていたときは、ディスクが再生状態になります。
—	OPEN/CLOSE	ソース（音源）がDVDに変わり、ディスクカバーが開きます。

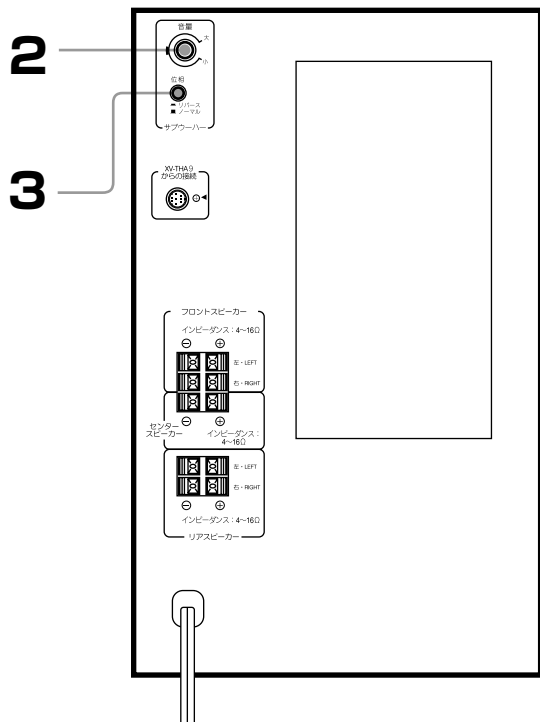
電源を「切」にする

リモコン	センターユニット	動　作
オーディオ電源	POWER	センターユニットのSTANDBY ランプが赤く点灯し、パワードサブウーハーのPOWER ON ランプが消灯します。 ソース（音源）によって電源が切れるまでの時間が異なります。

お知らせ

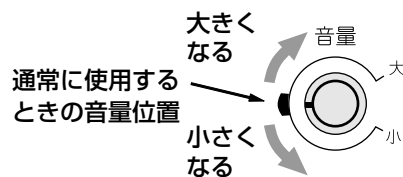
- パワードサブウーハーの電源「入」⟷「切」は、センターユニットと連動しています。
- ディスク再生中に電源を「切」にすると、その位置（リジュームポイント）を記憶するために数秒後に電源が切れます（リジューム機能をオンにしているとき）。

パワードサブウーハーの設定をする

パワードサブウーハーの音量を調節します。

1 30 **ページの「DVDを見る」の操作をしてDVDを再生し、適当な音量にする**

DVDは、ドルビーデジタルなどのサブウーハーの音声信号を持っているものを再生してください。

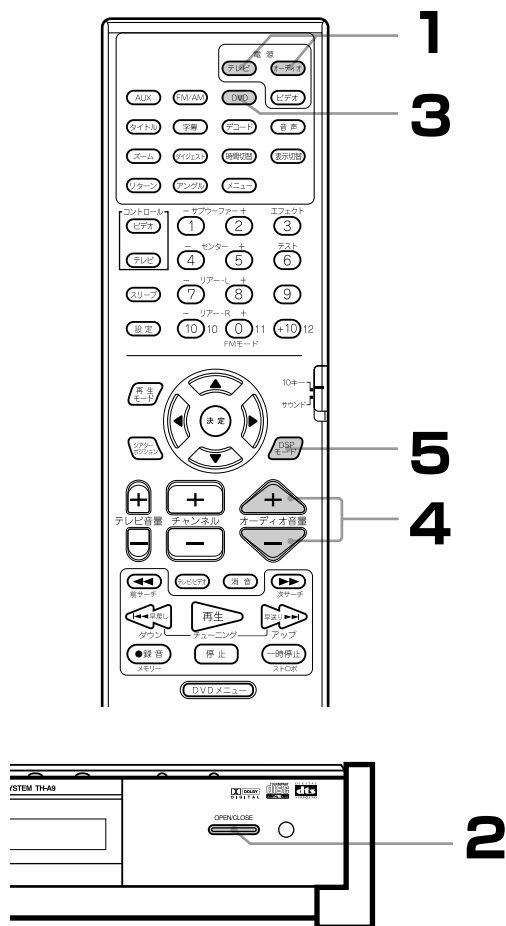
2 背面の音量つまみを回してパワードサブウーハーの音量を調節する

通常に使用するときの音量位置を示してあります。
その位置でサブウーハーからの音量が、フロントスピーカーの音量に対して大きすぎたり小さすぎたりするときに調節してください。

3 背面の位相ボタンを押してパワードサブウーハーからの低音が豊かに聞こえるポジション（▀ノーマルまたは▁リバース）に切り換える

お知らせ

- 位相は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離とリスニングポジションからサブウーハーまでの距離に密接な関係があります。
  実際に音を聞いて、低音が豊かに聞こえるように切り換えてください。

DVD（またはビデオ CD）を見る

リモコンを使って DVD（またはビデオ CD）を見るための簡単な操作を説明します。

1 本システムとテレビの電源を入れる

本システムの電源を入れるときは、
オーディオ電源ボタンを押します。

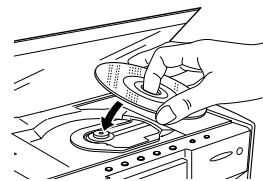
電源
テレビ　オーディオ
テレビの電源　本システムの電源

テレビの電源を入れるときは、
テレビ電源ボタンを押します。
また、テレビの入力をビデオ 1
（またはビデオ 2、ビデオ 3 など）
にして、本システムからの映像信号が
テレビ画面に映るようにします。

• 他メーカーのテレビをお使いのときは、
あらかじめメーカー設定をしておきます。
(➡ 78 ページ参照)

2 DVD（またはビデオ CD）を入れる

① **センターユニットの OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクカバーを開ける**

② **中央の突起部に「カチッ」と音がするまで軽く押してはめ込む**
ディスクは文字のある面を上にします。

③ **OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクカバーを閉める**
• DVD によっては、ディスクを入れディスクカバーを閉めると自動的に再生を始めます。

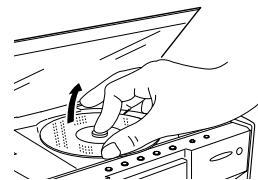
ディスクを取り出すとき：
中央の突起部を押さえながらディスクの両端をもって取り出します。

3 DVD ボタンを押す

リモコンがディスク操作モードになります。
ディスクの再生が始まります 。

4 オーディオ音量＋または－ボタンで音量を調節する

• VOLUME 0 (最小）から 80 (最大)の範囲で調節できます。

音量を上げる
音量を下げる

お知らせ

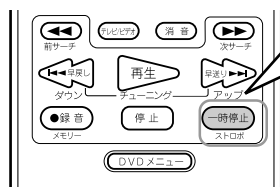
• DVD や PBC（プレイバックコントロール）で収録されたビデオ CD では、再生ボタンを押すとテレビ画面上にメニューが表示されることがあります。表示されたメニューを見ながら項目を選択して、見たいところを呼び出すこともできます。
• DVD（またはビデオ CD）を入れ、OPEN/CLOSE ボタンの代わりに DVD ボタンを押すとディスクカバーが閉まり、再生が始まります。
• DVDプレーヤーのレンズやディスク挿入部が汚れていると、映像の乱れや音飛びの原因となります。汚れているときはクリーニングしてください。(➡ 81 ページ参照)
また、ディスクカバーを開けたままにしないでください。

5 DSP モードボタンを押してサラウンド効果を選ぶ

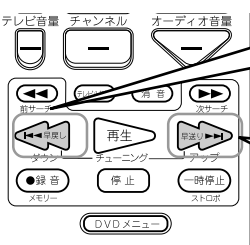
ボタンを押すごとに次のように変わります。

→SURROUND ON→SURROUND OFF（解除）

• ドルビープロロジック、ドルビーデジタルまたはDTSサラウンドで収録されているDVDソフトを再生するときは、「SURROUND ON」または「SURROUND OFF」を選ぶことができます。
「SURROUND ON」を選ぶと立体感のある音場が楽しめます。
それ以外のソフトのときは、「SURROUND ON」、「THEATER」、「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」、「PAVILION」の中からお好みのモードを選びます。
DSPモードを解除したいときは、「DSP OFF」を選びます。
DSPモードについては、38 ページをご覧ください。

一時停止する（再生中に操作）

一時停止ボタンを押す

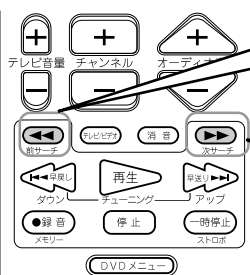
再生が一時停止します。
再生を再開するときは、再生ボタンを押します。

頭出しをする（再生中／停止中に操作）

►►I または I◄◄ ボタンを押す

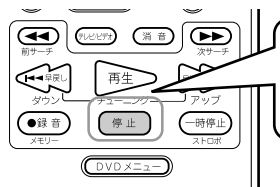
送る方向の頭出しをするときは、必要な回数だけ ►►I ボタンを押します。
戻す方向の頭出しをするときは、必要な回数だけ I◄◄ ボタンを押します。

DVDやPBC（プレイバックコントロール）オンで再生しているビデオCDでは、タイトルやチャプターの区切りで頭出し*ができます。
PBCオフで再生しているビデオCDでは、トラック番号の区切りで頭出しができます。

＊ 収録された内容によっては、頭出しされる部分が異なる場合があります。

早送り／早戻しをする（再生中に操作）

►► 次サーチまたは ◄◄ 前サーチボタンを押す

ボタンを押すごとに早送りまたは早戻し再生が速くなります（2 倍速 ➡60 倍速）。
通常再生に戻すときは、再生ボタンを押します。

再生を停止する（再生中に操作）

停止ボタンを押す

再生が停止します。

DVDを再生中に通常画面に出る表示

DVDを再生していると、再生している映像に重ねてマークが表示されることがあります。
マークには、それぞれ次のような意味があります。

：マルチアングルで収録されているところの頭の部分で表示されます。再生中にこの表示が出たら、[アングル]を切り換えることができます。(➡ 53 ページ)

：複数の音声が収録されているところの頭の部分で表示されます。再生中にこの表示が出たら、[音声言語]を切り換えることができます。(➡ 55 ページ)

：複数の字幕が収録されているところの頭の部分で表示されます。再生中にこの表示が出たら、[字幕言語]を切り換えることができます。(➡ 54 ページ)

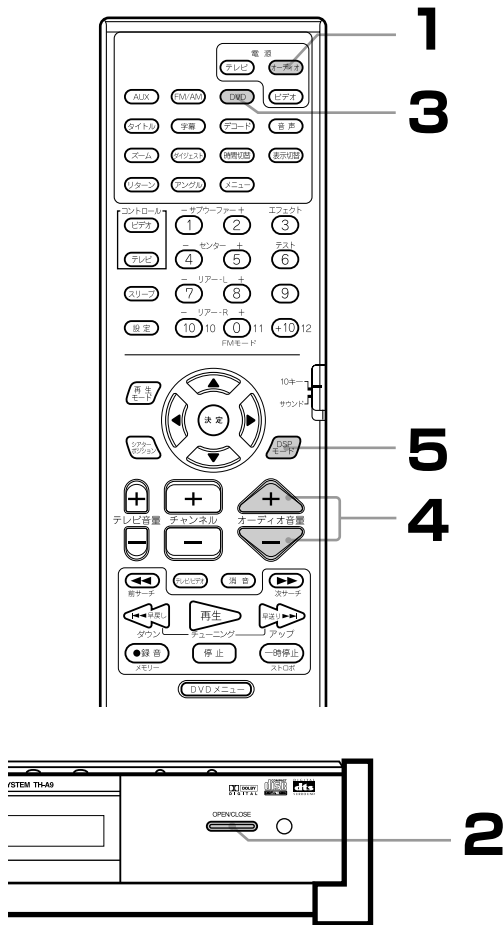
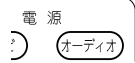
これらの表示を出ないようにすることもできます。設定の操作は、「初期設定」の「ディスプレイ」画面のオンスクリーンガイドで行います。(➡ 72 ページ)

操作中に⃠が表示されたら…

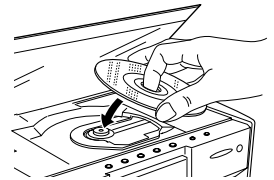
操作をしたときに⃠ が表示されたら、その操作は無効です。ディスクによっては⃠ が表示されなくても操作が無効になることもあります。

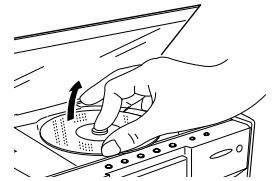
ディスクによって早送り、早戻し、スローモーション再生など、いくつかの操作ができないように収録されたディスクがあります。このようなときも操作が無効になります。

CD を聞く

リモコンを使って CD を聞くための簡単な操作を説明します。

1 オーディオ電源ボタンを押して本システムの電源を入れる

2 CD を入れる

① **センターユニットの OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクカバーを開ける**

② **中央の突起部に「カチッ」と音がするまで軽く押してはめ込む**
ディスクは文字のある面を上にします。

③ **OPEN/CLOSEボタンを押してディスクカバーを閉める**

CD を取り出すとき：
中央の突起部を押さえながらディスクの両端をもって取り出します。

3 DVD ボタンを押す

リモコンがディスク操作モードになります。
CD の演奏が始まります。

- OPEN/CLOSEボタンを押す前にDVDボタンを押すと、ディスクカバーが閉まり、CD の演奏が始まります。

4 オーディオ音量＋または－ボタンで音量を調節する

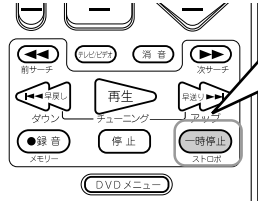
- VOLUME 0 (最小) から 80 (最大)の範囲で調節できます。

5 DSP モードボタンを押してサラウンド効果を選ぶ

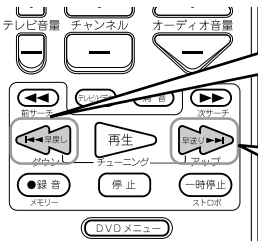
ボタンを押すごとに次のように変わります。

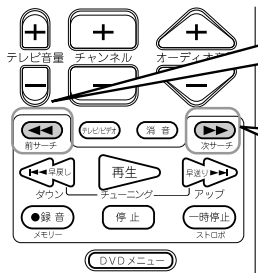
* SURROUND ON 表示は、自動で PRO LOGIC 表示に変わります。

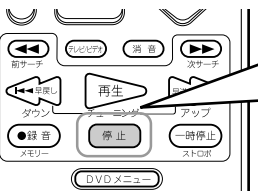
お知らせ

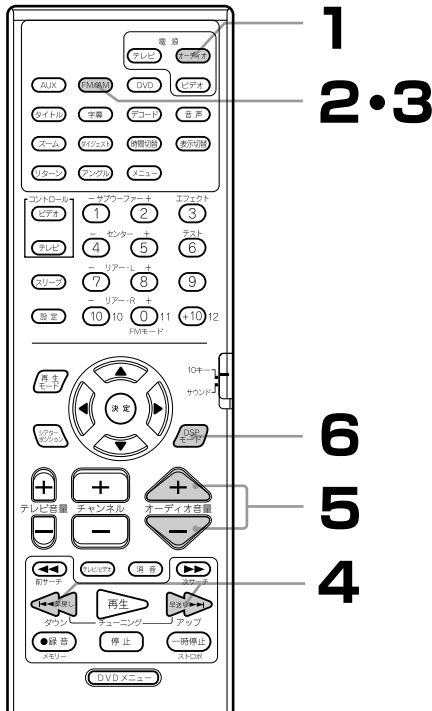
- オーディオ CD のときは、「SURROUND ON」、「THEATER」、「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」、「PAVILION」の中からお好みのモードを選びます。
DSPモードを解除したいときは、「DSP OFF」を選びます。
DSPモードについては、38 ページをご覧ください。

一時停止する（演奏中に操作）

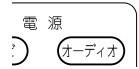
一時停止ボタンを押す
演奏が一時停止します。
演奏を再開するときは、再生ボタンを押します。

頭出しをする（停止中に操作）

►►I または I◄◄ ボタンを押す
次の曲の頭出しをするときは、►►I ボタンを押します。
演奏中または前の曲の頭出しをするときは、I◄◄ ボタンを押します。
くり返し押すと、収録されている曲数内で連続して曲の頭出しができます。

早送り／早戻しをする（演奏中に操作）

►► 次サーチまたは ◄◄ 前サーチボタンを押す
ボタンを押すごとに早送りまたは早戻し再生が速くなります。
通常再生に戻すときは、再生ボタンを押します。

演奏を停止する（演奏中に操作）

停止ボタンを押す
演奏が停止します。

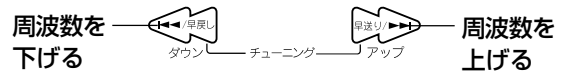
ラジオを聞く

リモコンを使ってラジオを聞くため簡単な操作を説明します。

1 オーディオ電源ボタンを押して本システムの電源を入れる

2 FM/AM ボタンを押す

ソース（音源）がラジオに変わり、
リモコンの数字ボタンと操作ボタンが
ラジオ操作モードになります。

3 FM/AM ボタンを押してバンド（FM または AM）を選ぶ

押すごとに FM 放送または AM 放送に切り換わります。

4 チューニングアップまたはダウンボタンを押して聞きたい放送局を選ぶ

オート選局

チューニングアップまたはダウンボタンを押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。

マニュアル選局

チューニングアップまたはダウンボタンを「ポン・ポン」と押します。
押すごとに FM 放送は 0.1MHz（100kHz）ずつ、AM 放送は 9kHz ずつ変わります。

FM 放送*	0.1MHz ずつ：76.0MHz ～ 108.0MHz
AM 放送	9kHz ずつ　：531kHz ～ 1,629kHz

お知らせ

- 放送局を選ぶ方法には、チューニングアップまたはダウンボタンを押して選ぶほかに、リモコンの数字ボタンを使って、記憶されているプリセット番号を選ぶ方法があります。放送局の記憶のしかたと記憶されている放送局の選びかたは、35 ページをご覧ください。

お知らせ

＊テレビの１～３チャンネルは、周波数が合わないため、うまく受信できません。これは、テレビ音声が50kHz間隔のためで、故障ではありません。

5 オーディオ音量＋または－ボタンで音量を調節する

- VOLUME 0 (最小) から 80 (最大)の範囲で調節できます。

6 DSP モードボタンを押してサラウンド効果を選ぶ

ボタンを押すごとに次のように変わります。

PRO LOGIC → THEATER → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → DSP OFF（解除）→ PRO LOGIC

お知らせ

- ラジオのときは、「PRO LOGIC」、「THEATER」、「LIVE CLUB」、「DANCE CLUB」、「HALL」、「PAVILION」の中からお好みのモードを選びます。
  DSPモードを解除したいときは、「DSP OFF」を選びます。
  DSPモードについては、38 ページをご覧ください。

放送局を記憶させる

FM放送を30局まで、AM放送を15局まで記憶できます。
一度記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。

1 記憶させたい放送局を選ぶ（➡ 34ページ参照）

（➡ 34ページ参照）

FMの放送局を記憶させるときにFM放送の受信モードも同時に記憶できます。（右の説明参照）

チューニング

2 メモリーボタンを押す

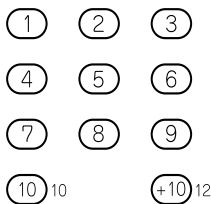
表示窓のCHが点灯し、「－－」（プリセット番号の表示位置）が10秒間点滅します。

点滅

82.5 MHz

10秒以内に

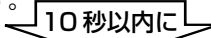
3 数字キー（1～10，+10）を押してプリセット番号を選ぶ

1 2 3
4 5 6
7 8 9
10 10　+10 12

番号の選びかた

1～10を選ぶとき：
1～10のいずれかのキーを押します。
例：5を選ぶときは、5を押します。

11～20を選ぶとき：
+10を押してから、1～10のいずれかのキーを押します。
例：12を選ぶときは、+10 ➡ 2と押します。
20を選ぶときは、+10 ➡ 10と押します。

21～30を選ぶとき：
+10を2回押してから、1～10のいずれかのキーを押します。
例：30を選ぶときは、+10 ➡ +10 ➡10と押します。

10秒以内に

4 選んだプリセット番号が点滅中にメモリーボタンを押す

プリセット番号の点滅が止まり、放送局がその番号に記憶されます。

●録 音
メモリー

例：プリセット番号を1にしたとき

FM CH 1 82.5 MHz

- 記憶させた放送局は、電源コードを抜いた状態（または停電）が数日間以上続くと取り消されます。

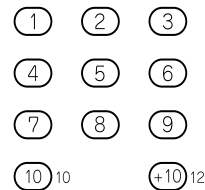
記憶されている放送局を選ぶ（プリセット選局）

1 FM/AMボタンを押す

ソース（音源）がラジオに変わり、リモコンの数字キーと操作ボタンがラジオ操作モードになります。
FM/AMを押すごとにFM放送またはAM放送に切り換わります。

2 数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶ

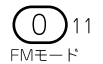
プリセット番号の選びかたは、左の「放送局を記憶させる」の手順3をご覧ください。

1 2 3
4 5 6
7 8 9
10 10　+10 12

受信表示とFM放送の受信モード

放送を受信すると
放送を受信すると「TUNED」表示が点灯し、FMステレオ放送を受信すると「STEREO」表示も点灯します。

TUNED　STEREO
放送を受信すると点灯　FMステレオ放送を受信すると点灯

FM放送の受信モード
FM放送がうまく受信できないときに、受信モードを変更することができます。
- FM受信モードは、放送局ごとに記憶することもできます。

FM放送を受信中に、FMモードボタンを押す
押すごとに、FM受信モードが「AUTO MUTING」または「MONO」に切り換わります。

受信モード	こんなとき
AUTO MUTING	FMステレオ放送のときはステレオ音声、モノラル放送のときはモノラル音声に自動的に切り換わるオート受信になります。選局中の「シャー」という雑音を消す機能（ミューティング）も働きます。 「AUTO MUTING」表示が表示窓に点灯します。
MONO	FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。モノラル音声に固定されステレオ放送のときもモノラル音声になり「STEREO」表示が表示窓から消えます。 「AUTO MUTING」表示も表示窓から消えます。

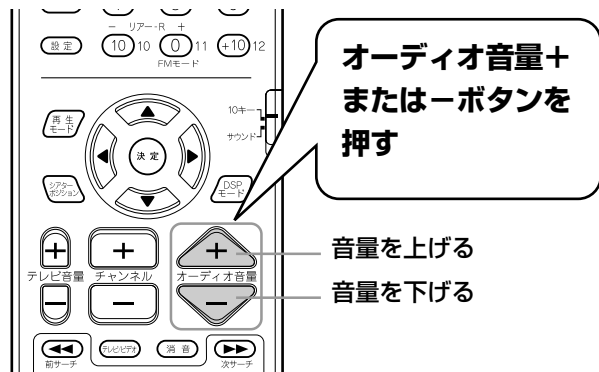
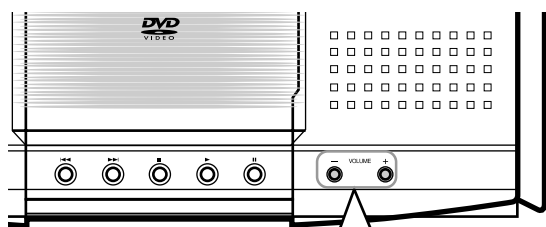
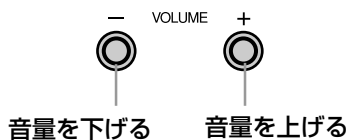
お知らせ
- FMモードボタンを使うときは、リモコンがラジオ操作モードになっていることを確認してください。ラジオ操作モードになっていないときは、FM/AMボタンを押してから操作してください。

基本操作

本システムを操作するための基本的な操作について説明します。

音量を調節する

音量は0（最小）から80（最大）の範囲で調節できます。

リモコン

センターユニット

一時的に音を消す（電話がかかってきたときなど）

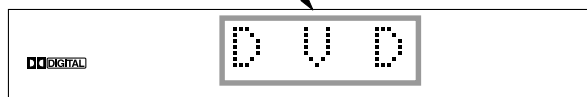
リモコンの消音ボタンを押す

センターユニットの表示窓に「MUTING」が表示され、音が出なくなります。
もう一度押すと、聞いていた音量に戻ります。

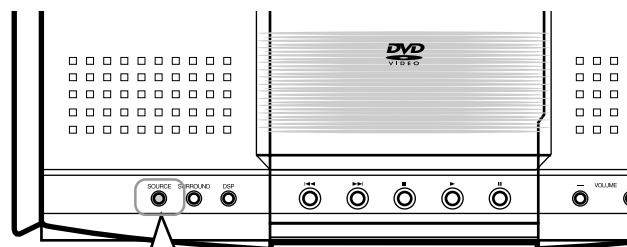
ご注意

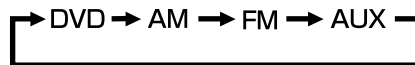
次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
- 再生する機器や放送局を選ぶとき
- 本システムや接続した機器の電源を入／切するとき

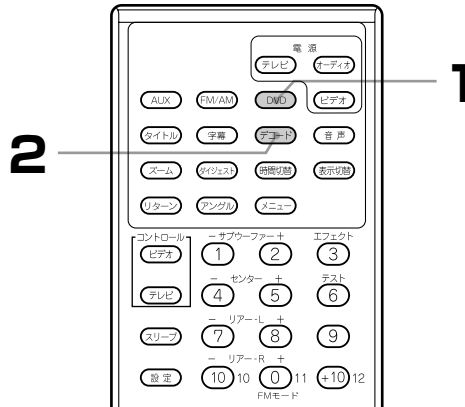
再生するソース（音源）を選ぶ

現在選ばれているソース機器名は表示窓に表示されます。

例：ソース（音源）に DVD を選んでいるとき

リモコン

センターユニット

SOURCE ボタンを押して再生するソース（音源）を選ぶ

ボタンを押すごとに次のようにソース（音源）が切り換わります。

デコードモードを切り換える

DVD を再生するときのデジタル音声のデコードモードを変えることができます。
通常は、初期設定の「AUTO/PCM」のままでお使いください。
操作には、リモコンを使います。

1 DVD ボタンを押してソース（音源）をDVD にする

2 デコードボタンを押してデコードモードを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

AUTO/PCM ⟺ DTS

AUTO/PCM ：本システムで再生できるディスクすべてに対応しています。（初期設定）

DTS ：DTS サラウンドのディスクを再生するときに選びます。内蔵のデコーダーはDTS デコーダーが選ばれます。

お知らせ

- ソース（音源）を変更すると、デジタル音声のデコードモードは自動的に「AUTO/PCM」が選ばれます。

こんなときにデコードモードを変えてみましょう

デコードモードが初期設定の「AUTO/PCM」のときは、ドルビーデジタルサラウンドやDTSサラウンドのDVDを再生すると、自動的に内蔵のデコーダーを選んでから音声を再生します。
DTSサラウンドの場合、ディスクによっては音声の最初の部分が欠けることがあります。これは、本システムが使用するデコーダーを選んでいる間に、音声信号が入力されてしまうためです。
このような場合に、デコードモードをDTSに設定しておくと、最初の部分の音声が欠けることなく再生することができます。
ただし、**デコードモードを「DTS」にしているときは、DTS サラウンド以外のディスクの音声は再生されません。**
デコードモードを変更してディスクの再生を楽しまれたあとは、デコードモードを「AUTO/PCM」に戻してください。

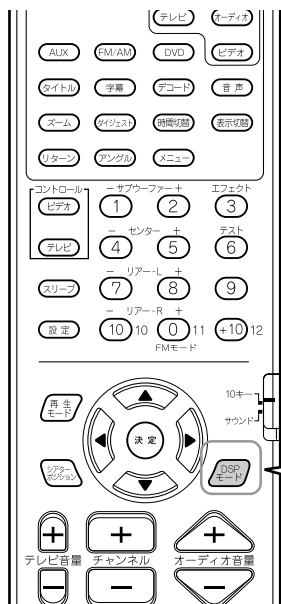
再生するソフトと違う種類のデコードモードを選んだとき

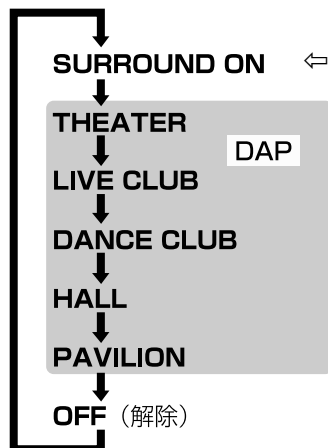
本システムのDVDの場合、DVDを入れると再生する音声の種類が表示窓のサラウンド表示やLINEAR PCM表示に表示されます。表示されているモードと違う種類のデコードモードを選ぶと、音声は再生されません。
このとき、デコードモードの表示が点滅して知らせます。

例：ドルビーデジタルサラウンドのDVD に対して
　　デコードモードにDTS を選んでいるとき

サラウンドモードを選ぶ

本システムに内蔵のサラウンド・プロセッサーにより、DAP（ディエーピー）とサラウンドの2つのDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）をお楽しみいただけます。

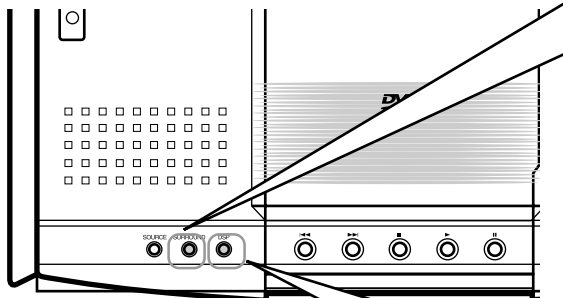
リモコン

DSP モードボタンを押す

ボタンを押すと、現在選ばれているDSPモードが表示されます。以後ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

⇦ 再生ソースが「DVD」以外のときは「**PRO LOGIC**」が表示されます。
センターユニットのSURROUND ボタンを使ったときも同様です。

- 「SURROUND ON」はドルビープロロジック、ドルビーデジタルまたはDTS サラウンドで収録されている映像ソフトを再生するときに選びます。
  「SURROUND OFF」を選ぶとサラウンド効果のない音声（ステレオ音声）で再生されます。
- それぞれのモードについては、39 ページの解説をご覧ください。

お知らせ

- ドルビーデジタル音声またはDTSサラウンド音声のDVDを再生するときは、「SURROUND ON」と「SURROUND OFF」だけ選ぶことができます。

センターユニット

ドルビープロロジック、ドルビーデジタルまたはDTSサラウンドで収録されている DVD ソフトを再生するとき：

SURROUND ボタンを押す

ボタンを押すと、現在の状態が表示されます。以後ボタンを押すごとに「SURROUND ON」または「SURROUND OFF」に切り換わります。

DAP を選ぶとき：

DSP MODE ボタンを押す

ボタンを押すと、現在選ばれているDAPモードが表示されます。以後ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

→THEATER → LIVE CLUB → DANCE CLUB → HALL → PAVILION → DSP OFF(解除) →

- それぞれのDSPモードについては、39 ページの解説をご覧ください。

解　説

サラウンド

本システムでは、３つのサラウンドをお楽しみになれます。

ドルビープロロジックおよびドルビーデジタル

DOLBY SURROUND マークまたは DOLBY DIGITAL マークのついた映画や音楽ソフトを再生できます。

ドルビープロロジック方式は、フロント左右、センター、リア（モノラル）の４チャンネル音声を２チャンネルに記録しています。本システムにはドルビープロロジックデコーダーが内蔵されているので、ドルビーサラウンド方式で記録された2チャンネル音声から4チャンネル音声をマトリクス回路で取り出し再生します。これにより、立体感・包囲感のあるサラウンドをお楽しみいただけます。

ドルビーデジタル方式は、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1チャンネル（サブウーハーは0.1チャンネルと数えられます）の音声をデジタル圧縮するシステムです。各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。本システムにはドルビーデジタルデコーダーが内蔵されているので、映画館や劇場に匹敵するドルビーデジタルの臨場感がお楽しみいただけます。ドルビープロロジックではリアの高域は7kHzでカットされますが、ドルビーデジタルでは20kHzまで再生され、しかもステレオなので、音の移動感や臨場感がより高まります。

DTS サラウンド

本システムに内蔵のＤＴＳ サラウンドデコーダーにより、dts マークの付いた映像ソフトを再生できます。

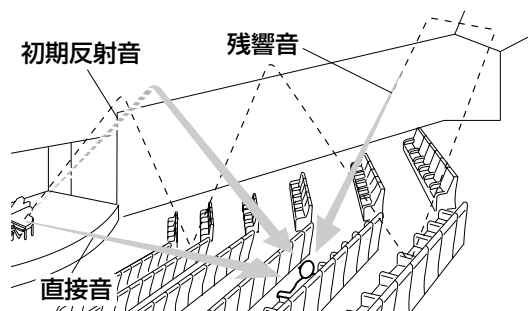
DTSサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています。ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持つことができます。これにより、厚みのあるより高音質な再生が可能となります。

お知らせ

- DTSサラウンドで録音されたCDを再生するときは、デコードモードを「AUTO/PCM」から「DTS」にしてから再生してください。（➡ 37 ページ参照）
  使い終わったら再生ソースを変更してください。自動的に「AUTO/PCM」に戻ります。

DAP

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音**（直接音）**と天井や壁などに反射してから耳に届く音**（初期反射音）**、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音**（残響音）**によって構成されています。これらの反射音／残響音は、リスナーと天井リスナーと壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音／残響音によって、音場が作り出されています。

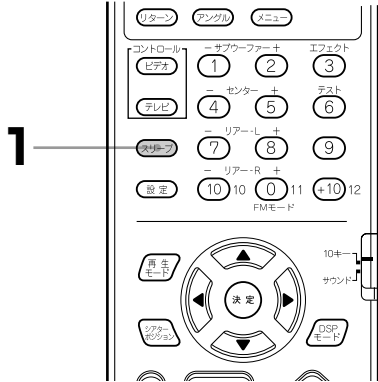
本システムに搭載されているDAP（デジタル・アコースティック・プロセッサー）は、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本システムでは次のDAPモードを用意しています。

- **THEATER**（シアター）：比較的大きな劇場にいるような雰囲気です。
- **LIVE CLUB**（ライブ クラブ）：天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。
- **DANCE CLUB**（ダンス クラブ）：激しい低音のビートを刻みます。ディスコにいるような雰囲気です。
- **HALL**（ホール）：ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。
- **PAVILION**（パビリオン）：天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。

お知らせ

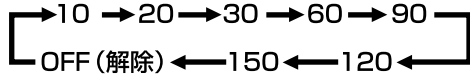
- DAPモードを選んでいるときは、効果の度合いを調節することができます。（➡ 69 ページ参照）

おやすみタイマーを使う

おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本システムの電源が自動的に「切」になります。
音楽を聞きながら眠りたい、そんなときにお使いください。
リモコンを使って操作します。

1 スリープボタンを押して電源が「切」になるまでの時間を設定する

SLEEP 10min

ボタンを押すごとに、設定時間（分）が、次のように切り換わります。

→10 →20→30 →60→90 →
OFF（解除）←150←120←

設定した時間を経過すると、自動的に電源が「切」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには

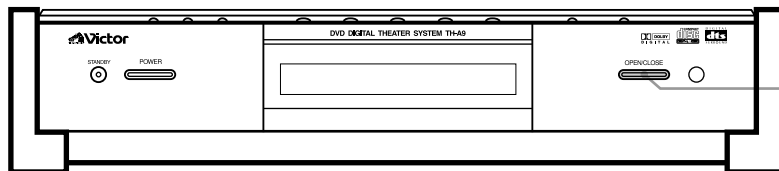
おやすみタイマーを設定後にスリープボタンを1回押すと、残り時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、スリープボタンを押して希望の時間を選び直します。

おやすみタイマーを解除するには

スリープボタンを押して「SLEEP OFF」を選びます。
おやすみタイマーが解除されます。
- リモコンまたはセンターユニットを使って電源を「切」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

DVDの基本操作（ DVD ビデオCD オーディオCD は機能を使えるディスクの表示です）

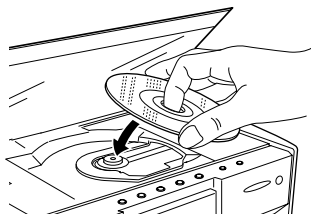
ディスクを入れる

センターユニット

1 OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクカバーを開ける

ソース（音源）がDVDのときは、表示窓に「OPEN」が表示されます。

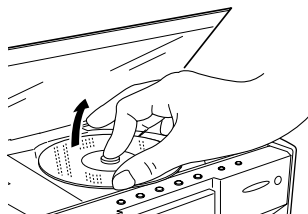
2 ディスクを入れる

中央の突起部に「カチッ」と音がするまで軽く押してはめ込みます。

ディスクは文字のある面を上にします。

3 OPEN/CLOSEボタンを押してディスクカバーを閉める

ソース（音源）がDVDのときは、表示窓に「CLOSE」が表示されます。

ディスクを取り出すとき

中央の突起部を押さえながらディスクの両端をもって取り出します。

表示窓の表示について

DVD を入れたとき

表示窓の表示：

「READING」➡「DVD」

お知らせ

- DVD によっては、ディスクカバーを閉めると自動的に再生を始めるものもあります。

ビデオ CD を入れたとき

表示窓の表示：

「READING」➡「VCD12　48：12」

（総曲数とトータル時間表示）

⬇ ４秒後

「VCD １　４：12」

（１曲目の演奏時間表示）

オーディオ CD を入れたとき

表示窓の表示：

「READING」➡「CD12　48：12」

（総曲数とトータル時間表示）

⬇ ４秒後

「CD １　４：12」

（１曲目の演奏時間表示）

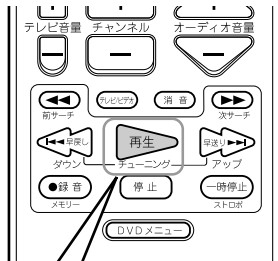
DVD の基本操作（つづき）

ディスクを再生する DVD ビデオCD オーディオCD

ディスクの最初から再生を始めます。
リモコンで操作するときは、DVDボタンを押したあと操作します。

リモコン

再生ボタンを押す

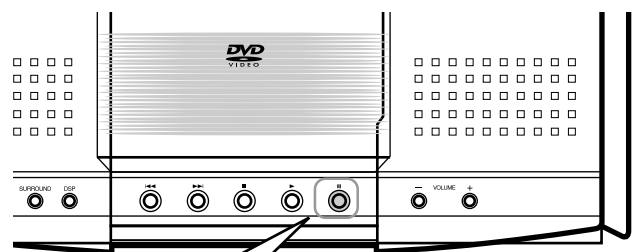
センターユニット

► ボタンを押す
ディスクの最初から再生が始まります。

一時停止する DVD ビデオCD オーディオCD

再生を一時停止します。
DVDまたはビデオCDのときは、画像をコマ送りすることもできます。
リモコンで操作するときは、DVDボタンを押したあと操作します。

リモコン

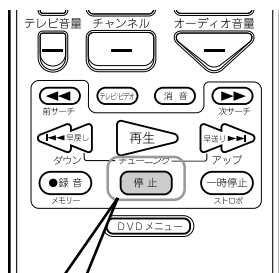
一時停止ボタンを押す
再生が一時停止になります。
一時停止中にこのボタンを押すと、押すごとに静止画像が次のフレームに進みます。
再生を再開するときは、再生ボタンを押します。

センターユニット

II ボタンを押す
再生が一時停止になります。DVD またはビデオCDの場合、一時停止中にこのボタンを押すと、押すごとに静止画像が次のフレームに進みます。
再生を再開するとときは、► ボタンを押します。

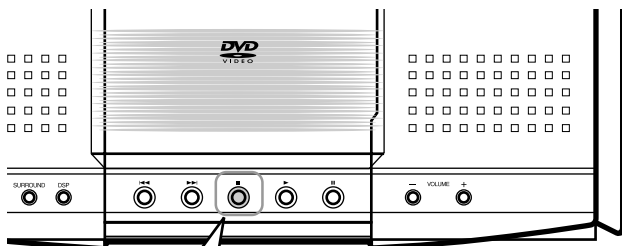
お知らせ

- DVD や PBC（プレイバックコントロール）で収録されたビデオCDでは、再生ボタンを押すとテレビ画面上にメニュー画面が表示されることがあります。表示されたメニュー画面を見ながら項目を選択して、見たいところを呼び出すこともできます。（➡ 45 ページ参照）

ディスクを停止する DVD ビデオCD オーディオCD

再生を止めます。
リモコンで操作するときは、DVDボタンを押したあと操作します。

リモコン

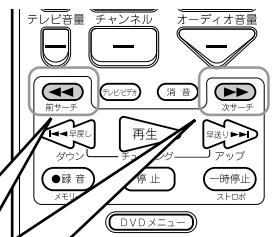
停止ボタンを押す

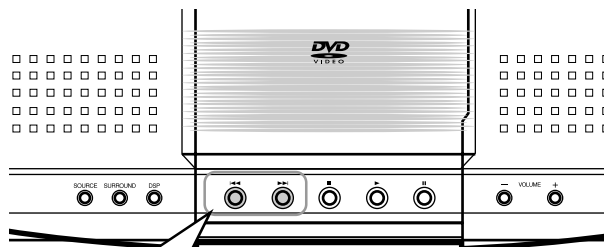
センターユニット

■ ボタンを押す

早送り／早戻しをする DVD ビデオCD オーディオCD

ディスクの早送り／早戻しをします。
リモコンで操作するときは、DVDボタンを押したあと操作します。

■ 再生中に操作します。

リモコン

►► 次サーチまたは ◄◄前サーチボタンを押す
ボタンを押すごとに早送りまたは早戻し再生が速くなります（×2➡×5➡×10➡×20➡×60倍速）。
通常再生に戻すときは、再生ボタンを押します。

センターユニット

►►| または |◄◄ ボタンを押し続ける
ボタンを長く押し続けていると、早送りまたは早戻し再生が速くなります（×5➡×20倍速）。
指を離すと通常の再生に戻ります。

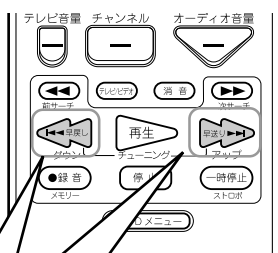
DVD の基本操作（つづき）

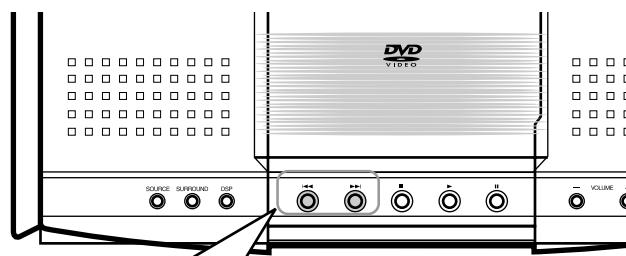
頭出しをする

DVD ビデオCD オーディオCD

DVD のときは、チャプターの頭出しができます。
オーディオCDとビデオCDのときは、トラックの頭出しができます。
リモコンで操作するときは、DVDボタンを押したあと操作します。

■ DVD　：再生中に
ビデオ CD　：停止中または再生中に
オーディオ CD　：いつでも

リモコン

▶▶| または |◀◀ ボタンを押す

センターユニット

▶▶| または |◀◀ ボタンを押す

操　作
送る方向の頭出しをするときは、必要な回数だけ ▶▶| ボタンを押します。
戻す方向の頭出しをするときは、必要な回数だけ |◀◀ ボタンを押します。
- 現在再生しているチャプターまたはトラックの頭に戻すには、1 回だけ |◀◀ を押します。

お知らせ
- DVDディスクによっては、この機能を受け付けないものもあります。
- ビデオCDをPBC再生しているとき、ディスクによっては、この機能を受け付けません。

あとで続きを再生する

DVD ビデオCD

映画鑑賞などを途中で中断するときなど、その位置を記憶させ、あとでその位置から続きを再生することができます。

位置を記憶させる

1 「初期設定」オンスクリーン画面の「システム」画面で「リジューム」をオンに設定しておく
（設定方法については、73 ページをご覧ください。）

2 再生を中断したいところで、次のボタンのいずれかを押す

・リモコン
停止ボタンまたは
オーディオ電源ボタン

・センターユニット
■ ボタンまたは
POWER ボタン

センターユニットが再生を中断した位置を記憶し、表示窓に RESUME 表示が点灯します。
- ディスクを停止状態にしてから、電源を「切」にしても記憶の位置は消えません。

続きを再生する

■ 前回再生を中断したディスクが入ったままのとき

1 リモコンは再生ボタン、センターユニットは ▶ ボタンを押す
前回再生を中断した位置から再生が始まります。
- 電源が「切」のときはリモコンの再生ボタンを押します。電源が「入」になり、前回再生を中断した位置から再生が始まります。

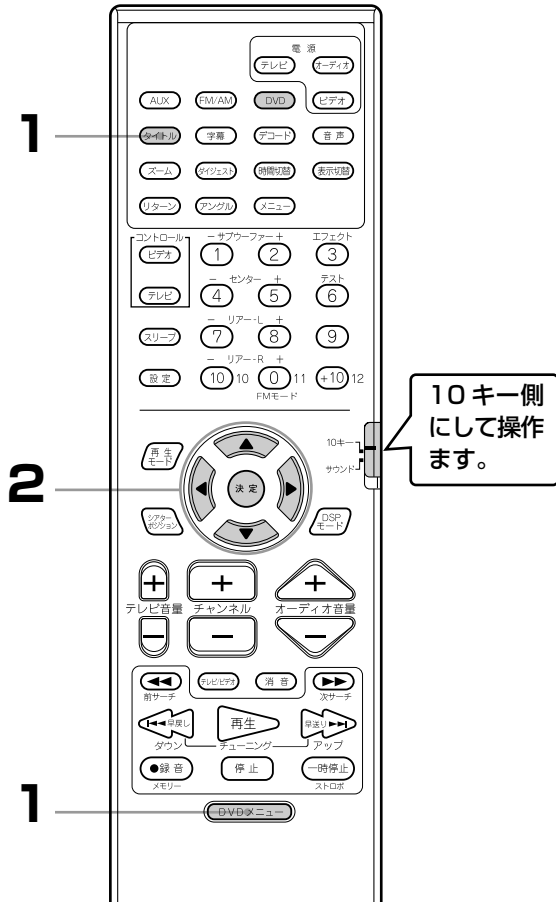
記憶の位置を取り消すには
次のいずれかを行います。
- ディスクを取り出す
- 電源が「入」でディスクが停止中に、リモコンは停止ボタン、センターユニットは ■ ボタンを押す
- 電源「切」のときに、リモコンはオーディオ電源ボタン、センターユニットはPOWERボタンを押して電源を「入」にする

お知らせ
- PBC で収録されたビデオ CD では、記憶されている位置よりも手前または後から再生されることがあります。
- オーディオ CD に対しては、この機能は働きません。
- 「設定」オンスクリーン画面の「システム」画面で「リジューム」をオフに設定すると、この機能は働きません。
- プログラム再生またはランダム再生のモードのときは、リジューム機能が働きません。

再生するところを選ぶ

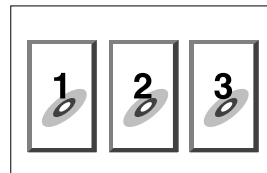
DVDメニューから選んで再生する

DVD

DVDには、一般にメニュー画面が収録されています。メニューの内容はさまざまで、映画のタイトルや曲目、またはアーティスト情報が表示されたりします。このメニュー画面から見たいところを選ぶことができます。
リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ DVDを入れてから操作します。

1 **DVDメニューまたはタイトルボタンを押す**

メニュー画面が表示されます。

例：

2 **◀/▶/▲/▼のカーソルボタンを使って見たいものを選び、決定ボタンを押す**

選んだ所から再生されます。

- メニュー画面によっては◀/▶/▲/▼のカーソルボタンによる操作だけではなく、数字ボタンを押すだけでも見たい画面を選ぶことができます。

DVDメニューボタンとタイトルボタンの使い分け

複数のタイトルが収録されているディスクは、タイトル名のリストが表示されるなど目次のような役割を持ったメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、タイトルボタンを押します。
また、複数のタイトルが収録されていないディスクでも何らかのメニュー画面が収録されていることがあります。このようなときには、DVDメニューボタンを押します。収録されているメニュー画面が表示されます。
各ディスクのメニュー構成については、ディスクの説明書をご覧ください。

お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVDボタンを押してから操作してください。
- **タイトルボタンを押して⃠が表示されたときは**
  そのディスクにタイトル一覧のリストを表示するようなメニュー画面が収録されていません。
- **メニューボタンを押して⃠が表示されたときは**
  メニュー画面自体が収録されていません。

再生するところを選ぶ（つづき）

ビデオCDのメニューから見たいところを選ぶ

ビデオCD

PBC で収録されたビデオ CD を再生すると、収録された内容の一覧がメニューとしてテレビ画面上に表示されます。このメニュー画面から見たいところを素早く呼び出すことができます。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ PBC のメニュー画面が表示されているときに操作します。

1 数字キー（1～10、+10）を使って見たいところの番号を選ぶ

例：

メニューの３番を見たいとき　：３を押す
メニューの 11 番を見たいとき：+10➡1 と押す
選んだ番号のところが再生されます。

メニュー画面に戻すときは､リターンボタンを押します。

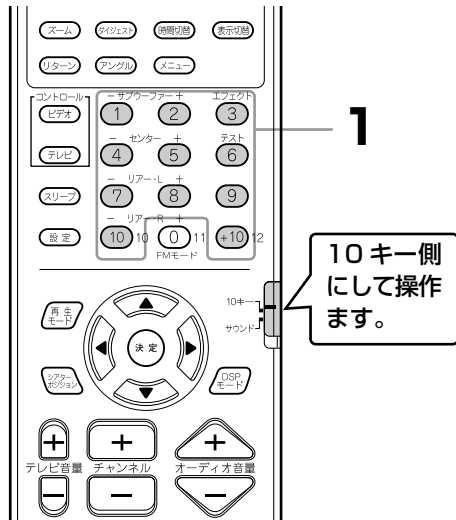
画面に[次]または[前]が表示されたときは､▶▶Iボタンを押すとメニューの次のページへ進み､I◀◀ボタンを押すとメニューの前のページへ戻ります。

- 操作を受け付けないときは､DVDボタンを押してから操作してください。
- 操作方法はディスクによって異なります。
- この機能では「0」キーは使用しません。

PBC 機能の「オン」と「オフ」

PBC 機能で収録されたビデオ CD が PBC 機能「オン」で再生されているときは、表示窓に「PBC」が表示され、PBC 機能が「オフ」で再生されているときは、表示窓に「PBC」が表示されれません。
PBC 機能「オフ」で再生中のビデオ CD を PBC 機能「オン」の再生に変えるときは、停止ボタンを押して再生を停止した後に再生ボタン押します。または再生中に再生モードボタンを押し、「PBC 再生」のところにポインタを合わせ決定ボタンを押します。PBC 機能「オン」の再生になります。
PBC 機能「オン」で再生中のビデオ CD を PBC 機能「オフ」の再生に変えるときは、停止ボタンを押して再生を停止した後に数字ボタンを使って見たいトラック番号を指定します。PBC 機能「オフ」の再生になります。（➡ 53ページ「タイトルやトラック番号を指定して再生する」をご覧ください。

タイトルやチャプターやトラック番号を指定して再生する DVD ビデオCD オーディオCD

数字キーを使ってタイトルやチャプターまたはトラック番号を指定し、そこから再生を始めることができます。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ DVD ：停止中はタイトル、再生中はチャプター
ビデオ CD ：停止中または PBC オフで再生中に
オーディオ CD ：いつでも

1 数字キー（1 ～ 10、+10）を使って番号を選ぶ

番号の選びかた

1 ～ 10 を選ぶとき：
1 ～ 10 のいずれかのキーを押します。

11 以上を選ぶとき：
+10 キーを併用します。

例：
13 を選ぶには…+10➡3 と押す
24 を選ぶには…+10➡+10➡4 と押す
40 を選ぶには…+10➡+10➡+10➡10 と押す

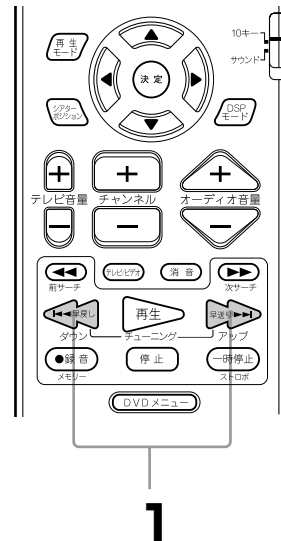
指定したタイトルやチャプターまたはトラック番号が表示窓に表示され、そこから再生が始まります。

• この機能では「0」キーは使用しません。

お知らせ

• **操作を受け付けないときは**
DVD ボタンを押してから操作してください。
• **数字ボタンを押して⃠ が表示されたときは**
押した番号のタイトルあるいはトラックが収録されていません。
• **ビデオ CD を PBC 再生しているときは**
ディスクによってはこの機能は使えません。

チャプターやトラックの頭出しをして再生する DVD ビデオCD オーディオCD

前後のタイトルやチャプターまたはトラックの頭にスキップすることができます。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ DVD ：再生中に
ビデオ CD ：停止中または再生中に
オーディオ CD ：いつでも

1 ►►I または I◄◄ ボタンを押す

• 先のタイトルやチャプターまたはトラックに進むには、必要な回数だけ ►►I ボタンを押します。
• 手前のタイトルやチャプターまたはトラックに戻るには、必要な回数だけ I◄◄ ボタンを押します。
• 現在再生しているタイトルやチャプターまたはトラックの頭に戻るには、1 回だけ I◄◄ ボタンを押します。

指定したタイトルやチャプターまたはトラック番号が表示窓に表示され、そこから再生が始まります。

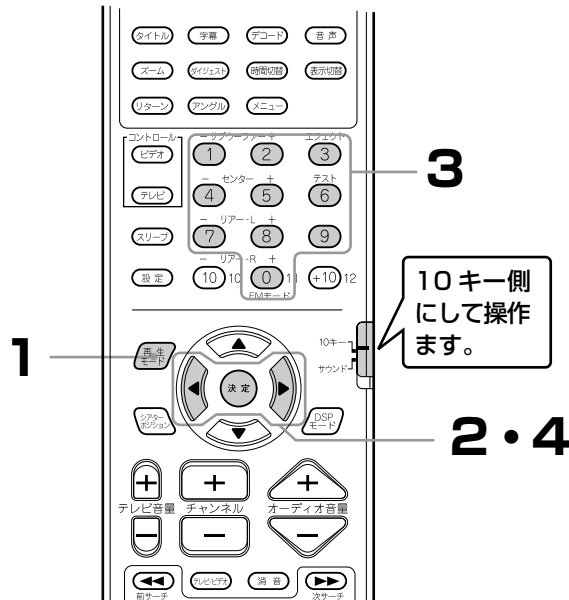
お知らせ

• **操作を受け付けないときは**
DVD ボタンを押してから操作してください。
• センターユニットの ►►I または I◄◄ ボタンを使っても同様の操作をすることができます。
• DVDディスクによっては、この機能と受け付けないものもあります。
• **ビデオ CD を PBC 再生しているときは**
ディスクによってはこの機能を受け付けません。

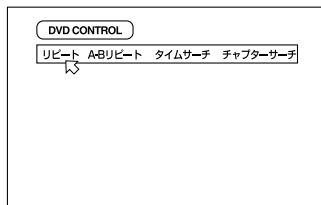
再生するところを選ぶ（つづき）

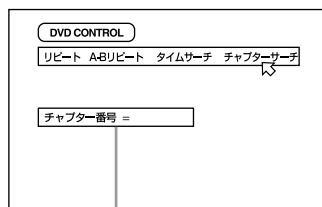
チャプター番号を指定して再生する[チャプターサーチ]

DVD

映画が収録されたDVDディスクでは、多くの場合タイトル中の場面をチャプターに分割しています。このチャプター番号を指定して、その場面から再生を始めることができます。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します

1 再生モードボタンを押す

DVD のオンスクリーン画面が表示されます。

2 ◄ / ► のカーソルボタンを使って[チャプターサーチ]にポインタを合わせ、決定ボタンを押す

[チャプター番号 =]が表示されます。

[チャプター番号 =]

3 数字ボタン（0〜9）を使ってチャプター番号を選ぶ

例：

チャプター番号８から再生…８を押す
チャプター番号 37から再生…3➡7の順に押す
メッセージエリアにチャプター番号が表示されます。

- チャプター番号を間違えたときは、正しい番号を選び上書きしてください。
- この機能では「10」と「+10」ボタンは使いません。

4 決定ボタンを押す

選んだ番号のチャプターから再生が始まります。

通常の画面に戻すには
再生モードボタンを押します。オンスクリーン画面が消えて通常の画面に戻ります。

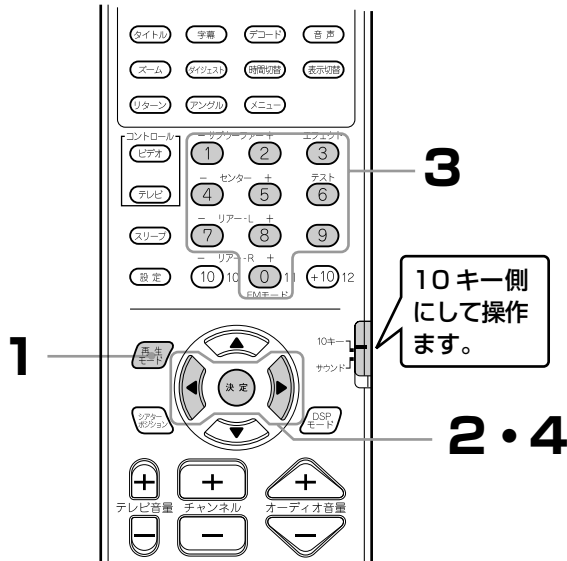
お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。
- **⃠ が表示されたときは**
  押した番号のチャプターが収録されていない、またはDVDがこの機能を受け付けない収録になっています。
- ディスクによっては、チャプター番号を指定するとすぐにチャプターサーチを始めるものもあります。

指定した時間から再生する[タイムサーチ]

DVD ビデオCD オーディオCD

現在のタイトルやトラックのの頭からの経過時間を指定して希望の位置から再生を始めることができます。
ただし、DVDディスクの中には時間情報が記録されていないものもあります。そのようなディスクに対してはこの機能は使えません。

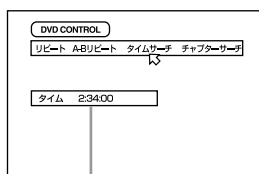
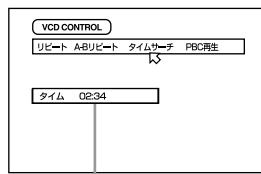
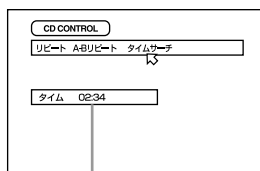
リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ DVD ： 再生中に
ビデオCD ： PBCオフで再生中に
オーディオCD ： 再生中に

1 再生モードボタンを押す

オンスクリーン画面が表示されます。

2 ◄ / ► のカーソルボタンを使って[タイムサーチ]にポインタを合わせ、決定ボタンを押す

[タイム :]が表示されます。

例：DVDビデオのとき　　例：ビデオCDのとき

例：オーディオCDのとき

3 数字ボタン（0～9）を使って時間を入力する

例：DVDディスクを2時間34分から再生するとき

入力した時間が間違っているとき

◄/► のカーソルボタンを使って、入力を間違えた数字の場所にカーソルを移動し、正しい数字ボタンを押し直します。

例：2時間34分を間違えて2時間35分と押してしまったとき

- この機能では「10」と「+10」ボタンは使いません。
- DVDディスクでは「時・分・秒」で入力します。ビデオCDやオーディオCDでは「分・秒」で入力します。

4 決定ボタンを押す

指定した時間から再生が始まります。

通常の画面に戻すには

再生モードボタンを押します。オンスクリーン画面が消えて通常の画面に戻ります。

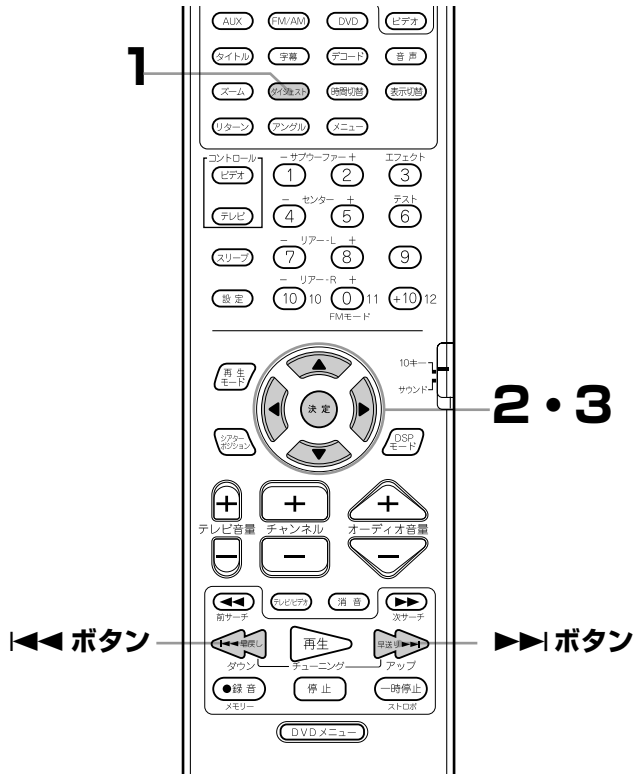
お知らせ

- **操作中に⊘が表示されたときは**
  入力した時間がディスクの収録時間の範囲ありません。タイムサーチは機能しません。
  また、DVDによってはこの機能を受け付けない場合があります。
- プログラム再生またはランダム再生中はタイムサーチ機能が働きません。

再生するところを選ぶ（つづき）

ダイジェスト画面から再生する画面を選ぶ[ダイジェスト]

DVD ビデオCD

DVDの各タイトルやチャプター、あるいはビデオCDの各トラックの最初の場面を一覧表示して、ディスクに収録された内容を確認できます。また、一覧表示させた中から、見たいところを選ぶことができます。
リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ DVD：停止中または再生中に
ビデオCD：停止中またはPBCオフで再生中に

1 ダイジェストボタンを押す

DVD停止中：各タイトルの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。
DVD再生中：現タイトル内の各チャプターの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。
ビデオCD：各トラックの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。

2 ◀/▶/▲/▼のカーソルボタンを使ってタイトルを選ぶ

収録されているタイトルやチャプターまたはトラックが9つより多くあるときは、ダイジェスト画面が2ページ以上になります。
このようなときは、次の方法で違うダイジェストページを表示させます。

- **次のページを表示させるとき**
  ：▶▶I ボタンを押す
  または
  分割画面右下に表示された場面を選んでいるとき、▶のカーソルボタンを押す
- **前のページに戻すとき**
  ：I◀◀ ボタンを押す
  または
  分割画面左上に表示された場面を選んでいるとき、◀のカーソルボタンを押す

ここが選ばれているとき、◀のカーソルボタンを押すと前のページへ

ここが選ばれているとき、▶のカーソルボタンを押すと次のページへ

ダイジェスト画面をやめるときは
ダイジェストボタンを押します。ダイジェスト画面を表示する前の画面に戻ります。

3 決定ボタンを押す

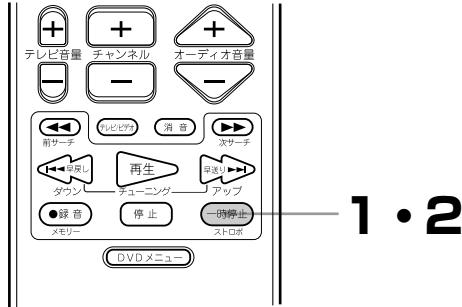
選んだ場面から再生が始まります。

お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVDボタンを押してから操作してください。
- ディスクによっては、すべての画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- PBC再生中のビデオCDではダイジェスト機能は働きません。

特殊な画像再生（DVD ビデオCD は機能を使えるディスクの表示です）

画像を1コマずつ送る DVD ビデオCD

一時停止した静止画像を１コマずつコマ送りします。
リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

1 コマ送りをしたいところで一時停止ボタンを押す

画面が一時停止します。

2 一時停止ボタンを押す

ボタンを押すごとに、静止画像が次のフレームに進みます。

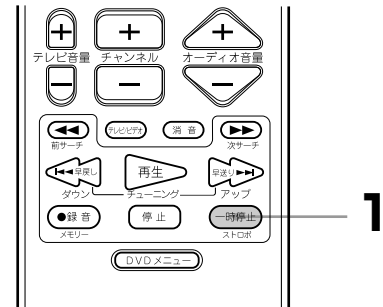
通常の再生に戻すには

再生ボタンを押します。通常の再生に戻ります。

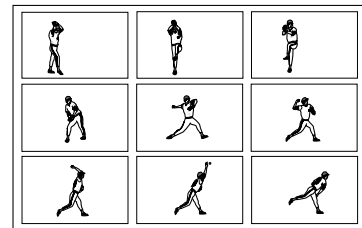
お知らせ

- センターユニットの ❚❚ ボタンを使っても同様の操作ができます。
- **操作を受け付けないときは**
  DVDボタンを押してから操作してください。

連続写真のように表示する［ストロボ］ DVD ビデオCD

連続した９分割の静止画像による再生をします。
リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

1 連続写真のように表示したいところでストロボボタンを押し続ける

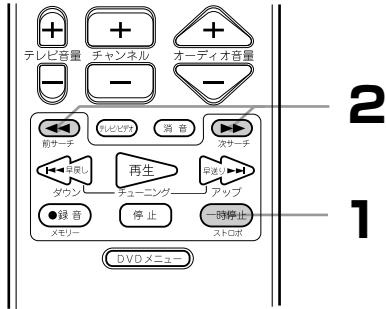
９分割の画面が現れたら、指を離します。
9分割された画面が連続写真のようにストロボ再生されます。

- **ストロボ再生中にストロボボタンを押すと**
  ストロボ再生が一時停止します。続けてストロボボタンを押すと、次の９分割の静止画像を表示します。
  ストロボ再生を再開するときは、再生ボタンを押します。

ストロボ画面を解除するには

通常の画面に戻るまでストロボボタンを押し続けます。
ストロボ再生が一時停止中にストロボボタンを押し続けて通常画面に戻したときは、通常画面も一時停止中になります。

特殊な画像再生（つづき）

スローモーション再生する [スロー] DVD ビデオCD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

1 スローモーション再生したいところで一時停止ボタンを押す

画面が一時停止します。

2 ►► 次サーチまたは ◄◄ 前サーチボタンを押す

►► 次サーチボタンを押すと、もっとも遅い速度で順方向のスロー再生ができます。
◄◄ 前サーチボタンを押すと、もっとも遅い速度で逆方向のスロー再生ができます（DVD のみ）。
いずれの方向もボタンをくり返し押すごとに、スローの速度が速くなり、速さの調節をすることができます。

- **順方向：**1/32➡1/16➡1/8➡1/4➡1/3➡1/2
- **逆方向：**1/16➡1/12➡1/8➡1/4➡1/3

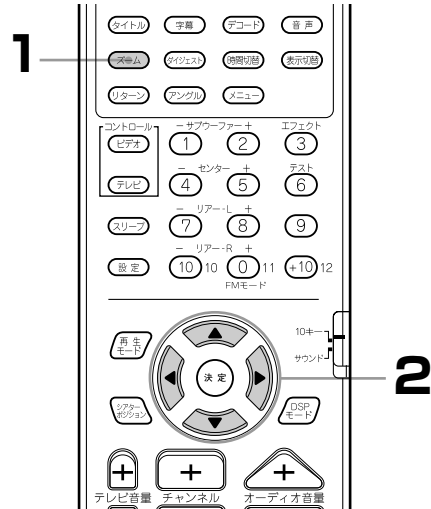
スロー再生を一時停止するには
一時停止ボタンを押します。

通常の再生に戻すには
再生ボタンを押します。通常速度の再生に戻ります。

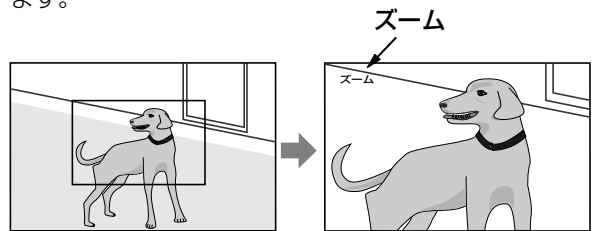
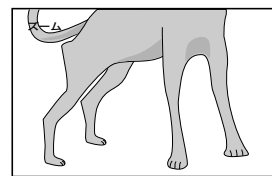
お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。
- スロー再生中、音声は再生されません。
- ビデオ CD では、逆方向のスロー再生はできません。

画面の一部を拡大する [ズーム] DVD ビデオCD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 再生中または一時停止中に操作します。

1 ズームボタンを押す

[ズーム]が画面上に表示され、中央部が2倍に拡大されます。

2 ◄/►/▲/▼のカーソルボタンを使って拡大したい部分を選ぶ

拡大した再生画面を一時停止するには
一時停止ボタンを押します。再生ボタンを押すと、再生に戻ります。

ズームを解除するには
ズームボタンを押します。通常の大きさの再生に戻ります。

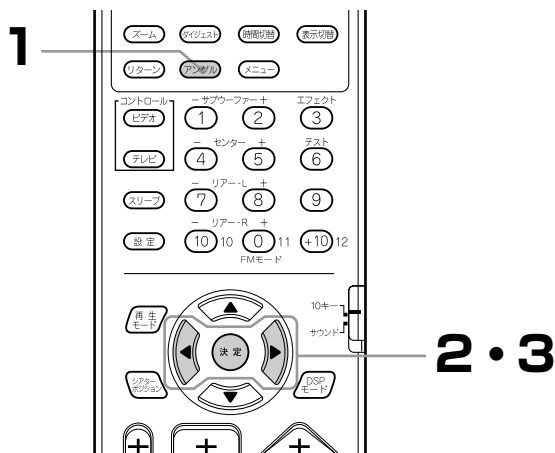
お知らせ

- 拡大すると、画質が悪化したり、場面によってはブレることがあります。

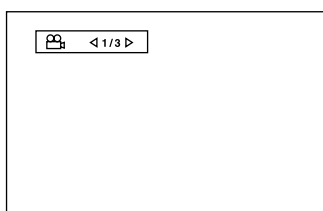
映像のアングルを変える[アングル]

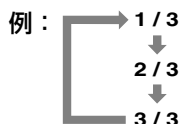
DVD 音楽ライブソフトなどには、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像（マルチアングル）が複数収録されたものがあります。このようなディスクを再生するときには、どの角度からの映像を見るか選ぶことができます。マルチアングルで収録された箇所の冒頭で画面に が表示されます。

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

見る角度を切り換える

■ 再生中に操作します。

1 アングルボタンを押す

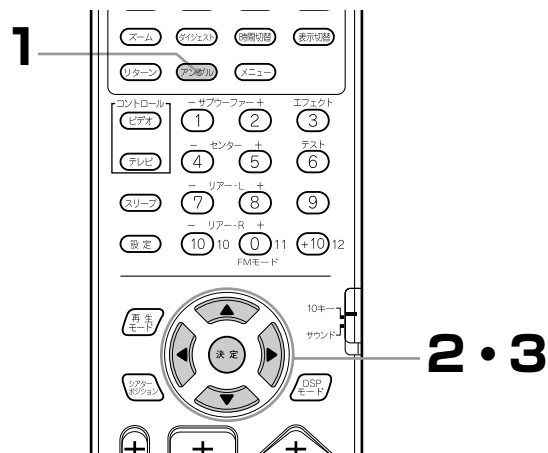
アングル選択表示が表示されます。

2 アングルボタンまたは ◄ / ► のカーソルボタンを使って見たいアングル番号を選ぶ

アングルボタンまたは ◄ / ► のカーソルボタンを押すごとに、アングルが変わります。

3 決定ボタンを押す

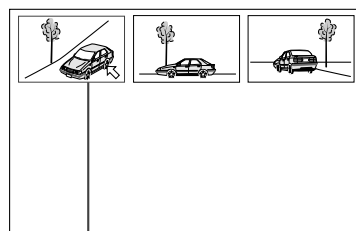
アングル選択表示が消えます。

お知らせ

- アングルボタンを押して10秒間何も操作をしないと、アングル選択表示が消えます。
- **が表示されたときは**
  今再生しているところがマルチアングルで収録されていません。
- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。

アングル一覧からアングルを選ぶ

■ 再生中に操作します。

1 アングルボタンを 1 秒以上押す

画面に最大 9 アングルが表示されます。

選んでいるアングル

2 ◄/►/▲/▼のカーソルボタンを使ってアングルを選ぶ

3 決定ボタンを押す

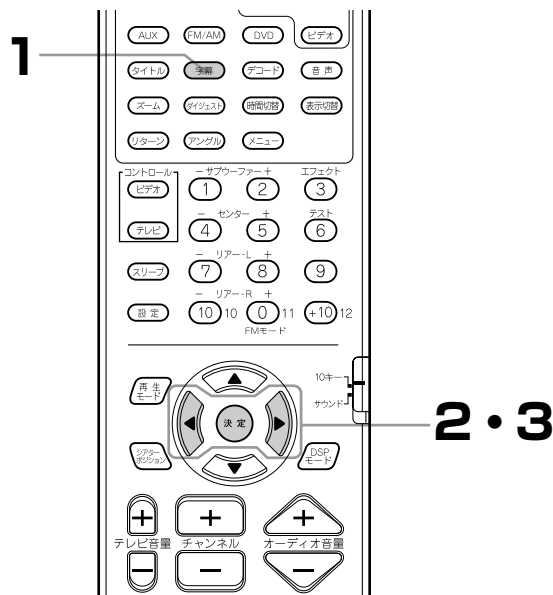
選んだアングルが通常画面に再生されます。

お知らせ

- **が表示されたときは**
  今再生しているところがマルチアングルで収録されていません。またはディスクによっては、アングルの選択が禁止されています。
- 上記の操作中は、音声が消えます。

字幕を切り換える[字幕言語]

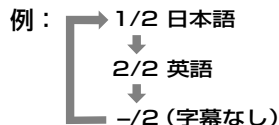
DVDでは外国映画のソフトなど、字幕が表示されるものがあります。このようなディスクを再生するときには、字幕の種類（または字幕なし）を切り換えることができます。複数の字幕が収録されている箇所の冒頭で画面に が表示されます。

リモコンを使って、DVDボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

1 字幕ボタンを押す

字幕選択表示が表示されます。

2 ◀/▶ のカーソルボタンを使って字幕を選ぶ

◀/▶のカーソルボタンを押すごとに、字幕言語が切り換わります。

例： 1/2 日本語
↓
2/2 英語
↓
–/2（字幕なし）

- 字幕言語は、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コードが表示されます。言語コードについては、83 ページを参照してください。

3 決定ボタンを押す

字幕選択表示が消えます。

字幕のオン／オフを切り換える

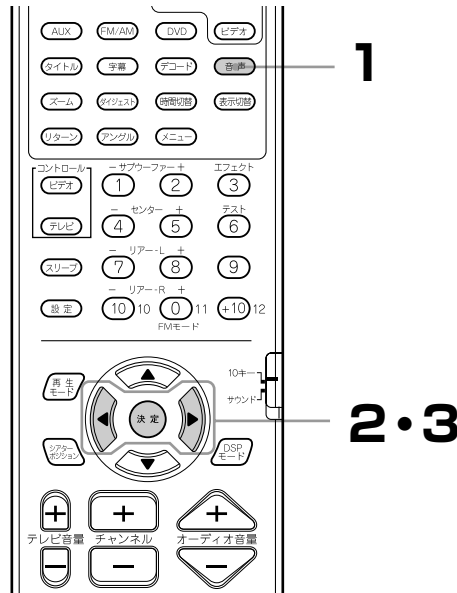
字幕ボタンをくり返し押すと、字幕のオン／オフを切り換えることができます。

字幕のオン／オフを切り換えてから、決定ボタンを押します。字幕選択表示が消えます。

お知らせ

- 字幕ボタンを押して10秒間何も操作をしないと、字幕選択表示が消えます。この表示がある間に字幕を選んでください。
- **⃠ が表示されたときは**
  ディスクに字幕が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- **マルチ字幕機能は、その内容がDVDに記録されていなければ、ご使用になれません。**
- **操作を受け付けないときは**
  DVDボタンを押してから操作してください。

音声を選ぶ

DVD では外国映画のソフトなど、複数の音声が収録されたものがあり、音声を選ぶことができます。
複数の音声が収録されている箇所の冒頭で画面に ◯)) が表示されます。
ビデオ CD ではオーディオ再生チャンネルを切り換えて、カラオケの歌あり／なしを選ぶことができます。
リモコンを使って操作します。

■ 再生中に操作します。

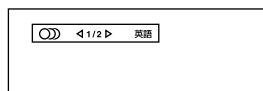
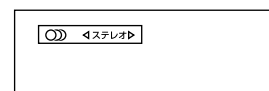
1 音声ボタンを押す

音声選択表示が表示されます。

（DVD）

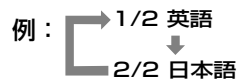
◯)) ◁1/2▷ 英語

（ビデオ CD）

◯)) ◁ステレオ▷

2 音声ボタンまたは ◀ / ▶ のカーソルボタンを使って、音声言語や音声チャンネルを選ぶ

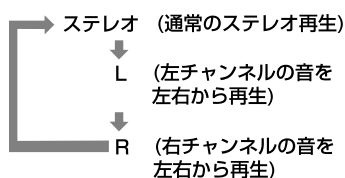
DVD 再生中のとき：

音声ボタンまたは ◀ / ▶ のカーソルボタンを押すごとに、音声言語が切り換わります。

例： 1/2 英語
↓
2/2 日本語

- 音声言語は、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コードが表示されます。言語コードについては、83 ページを参照してください。

ビデオ CD 再生中のとき：

音声ボタンまたは ◀ / ▶ のカーソルボタンを押すごとに、音声チャンネルが切り換わります。

3 決定ボタンを押す

音声選択表示が消えます。

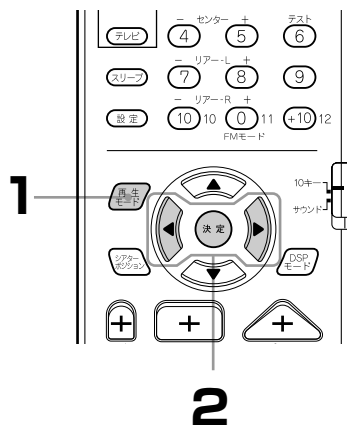
お知らせ

- 音声ボタンを押して10秒間何も操作をしないと、音声選択表示が消えます。
- **⃠ が表示されたときは**
  ディスクに複数の音声が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。

くり返し再生する（DVD ビデオCD オーディオCD は機能を使えるディスクの表示です）

再生中のタイトルやチャプター（DVD）、再生中のトラックや全トラック（ビデオ CD ／オーディオ CD）をくり返して再生することができます。また、ある一部分をくり返し再生することもできます。

タイトル/チャプター/トラック、または全トラックをくり返す[リピート] DVD ビデオCD オーディオCD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ ビデオ CD の PBC 再生中と DVD 停止中を除いていつでも

1 再生モードボタンを押す

オンスクリーン画面が表示されます。

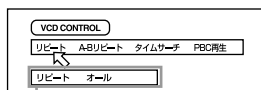
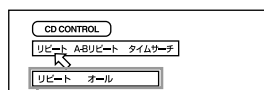
2 ◄/► のカーソルボタンを使って[リピート]にポインタを合わせ、決定ボタンを押す

決定ボタンを押すごとにリピート表示が次のように変わります。

DVD のとき：

- リピート　タイトル　:（現在のタイトルをリピート）
- リピート　チャプター :（現在のチャプターをリピート）
- 無表示　:（リピートは働きません）

ビデオ CD ／オーディオ CD のとき：

（ビデオ CD）　（オーディオ CD）

- リピート　オール :（全トラックをリピート）
- リピート　1　:（現在のトラックをリピート）
- 無表示　:（リピートは働きません）

オンスクリーン画面を消すときは
再生モードボタンを押します。

リピート再生を止めるには

停止ボタンを押します。
「リピート　オール」で再生中に停止ボタンを押したときは、再生を停止しますがリピート設定は残っています。
「リピート　タイトル」、「リピートチャプター」で再生中に停止ボタンを押すと、再生の停止と同時にリピート設定も解除されます。

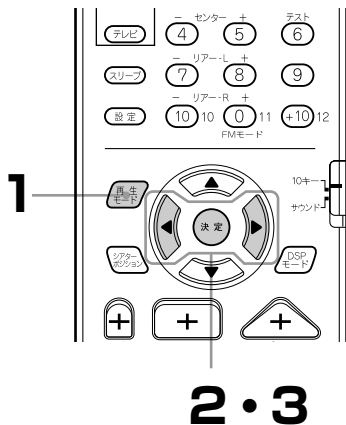
再生を止めずにリピート設定を解除するには

オンスクリーン画面の[リピート]にポインタを合わせ、無表示になるまで決定ボタンを押します。

お知らせ

- DVDビデオディスクの中には、再生の途中で自動的に停止するものがあります。
- **ビデオ CD の PBC 再生中は**
  リピート再生ができません。PBC 機能をオフにしてください。
- **DVD再生中、手順2で決定ボタンを押して ⃠ が表示されたときは、**今再生しているところでリピート再生することができません。ディスクが機能を無効とする収録方法になっています。
- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。

指定した範囲をくり返し再生する[A-Bリピート]

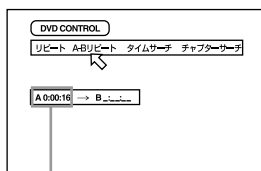
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

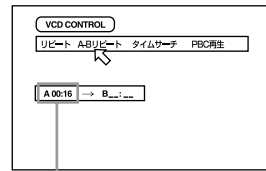
1 再生モードボタンを押す

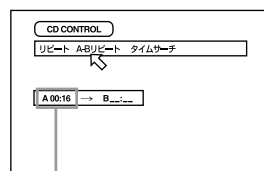
オンスクリーン画面が表示されます。

2 ◄ / ►のカーソルボタンを使って[A-Bリピート]にポインタを合わせ、くり返したい部分の頭で決定ボタンを押す

くり返したい部分の最初のところが「A ポイント」として表示されます。

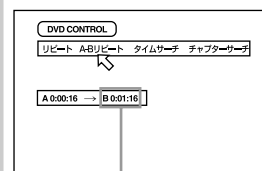
DVD のとき

A ポイント

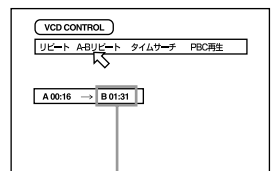
ビデオ CD のとき

A ポイント

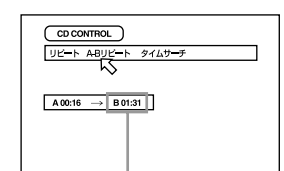
オーディオ CD のとき

A ポイント

3 くり返したい部分の終わりで決定ボタンを押す

くり返す部分の最後のところが「B ポイント」として表示されます。
A-B 間がくり返し再生されます。

DVD のとき

B ポイント

ビデオ CD のとき

B ポイント

オーディオ CD のとき

B ポイント

オンスクリーン画面を消すには
再生モードボタンを押します。

A-B リピートの設定を解除するには

停止ボタンを押します。
再生が停止し、設定が解除されます。

再生を止めずに A-B リピートの設定を解除するには

オンスクリーン画面の[A-B リピート]にポインタを合わせ、決定ボタンを押します。
►►I または I◄◄ ボタンを押しても、A-B リピートの設定が解除されます。

お知らせ

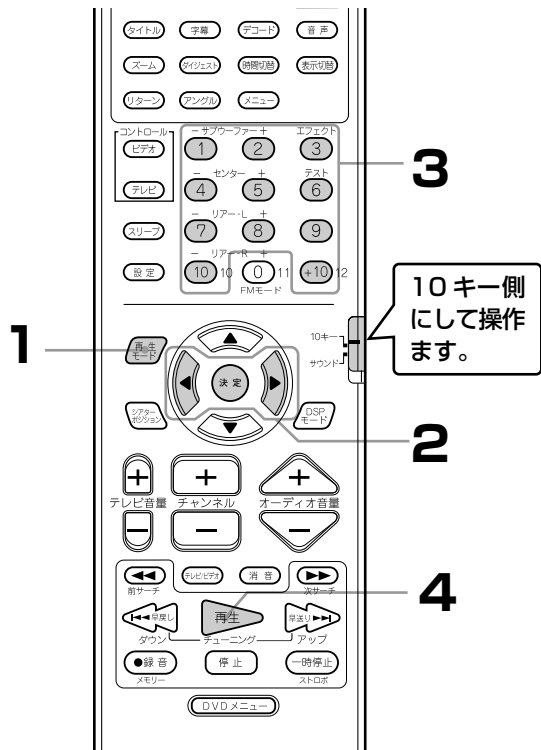
- **DVD 再生中、手順 2 で ⃠ が表示されたときは**
  再生しているディスクでの A-B リピート再生をすることはできません。
- DVD のタイトルを超えた A-B リピートの設定はできません。
- プログラム再生中やランダム再生中またはリピートが設定されているときは、再生モードメニュー画面でポインタを［A-B リピート］に動かすことはできません。
- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。

順番を変えて再生する

ディスクのタイトルやトラックをお好きな順番で、あるいはランダムに再生することができます。

順番を決めて再生する[プログラム再生]

DVD ビデオCD オーディオCD

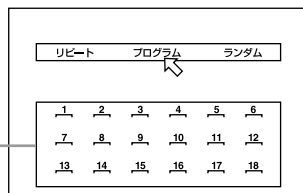
ディスクのタイトルやトラックを好きな順番で再生することができます。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 停止中に操作します。

1 再生モードボタンを押す

オンスクリーン画面が表示されます。

2 ◄ / ► のカーソルボタンを使って[プログラム]にポインタを合わせ、決定ボタンを押す

プログラム設定画面が表示されます。
センターユニットの表示窓にPROGRAMが表示されます。

プログラム設定画面

3 数字ボタン（1 ～ 10、+10）を使って再生したい順にタイトルまたはトラック番号を選ぶ

18タイトル／トラックまで選ぶことができます。また、同じタイトル／トラックを何度も選ぶこともできます。

タイトル／トラック番号が各プログラム番号の下に表示されます。

番号の選びかた

例：
8曲目…8を押す
10曲目…10を押す
12曲目…+10 ➡ 2と押す
30曲目…+10 ➡ +10 ➡ 10と押す
• この機能では、「0」キーは使用しません。

番号を間違えたときは

停止ボタンを押します。プログラムした内容が、全て消去されます。もう一度、**手順3**から操作してください。

4 再生ボタンを押す

プログラム再生が始まります。最後まで再生すると停止します。プログラム内容は残っているので、再度再生ボタンを押すと同じ内容のプログラム再生が始まります。

プログラムの内容を消去するには

停止ボタンを押して再生を停止させ、再生モードボタンを押してプログラム設定画面を表示させてから、停止ボタンを押します。プログラムした内容が全て消去されます。

プログラム再生をやめるには

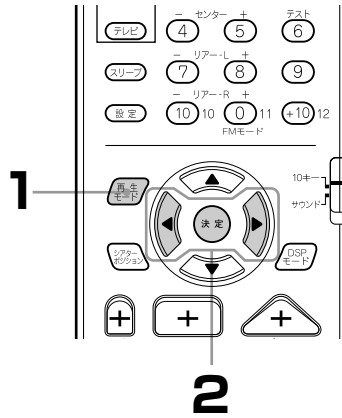
停止中に再生モードボタンを押して、オンスクリーン画面の[プログラム]にポインタを合わせ、決定ボタンを押します。プログラム内容を残したまま、プログラム再生モードがオフになります。

お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。
- 番号のないタイトルまたはトラックを選ぶことはできません。
- DVD の中にはプログラムモードで再生できないものがあります。
- プログラム再生中に►►I ボタンを押すと、次にプログラムされているタイトルやトラックが再生されます。また、I◄◄ ボタンを押すと再生中のタイトルやトラックの頭に戻ることができますが、前のタイトルやトラックに戻すことはできません。
- プログラム再生中に再生モードボタンを押してプログラム設定画面を表示させると、再生中のプログラム番号が黄色く表示されます。

無作為な順番で再生する[ランダム再生]

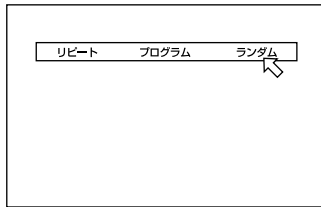
DVD ビデオCD オーディオCD

タイトルやトラックの順番をランダム（無作為）に選んで、ひと通り再生します。
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 停止中に操作します。

1 再生モードボタンを押す

オンスクリーン画面が表示されます。

2 ◄ / ► のカーソルボタンを使って [ランダム]にポインタを合わせて、決定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に RANDOM が表示され、ランダム再生が始まります。

- 全てのタイトルまたはトラックのランダム再生が終了すると、再生が自動停止し、ランダム再生が解除されます。

ランダム再生を途中でやめるには

停止ボタンを押します。ランダム再生モードも解除されます。

お知らせ

- **操作を受け付けないときは**
  DVD ボタンを押してから操作してください。
- 1回のランダム再生で同じタイトルまたはトラックが何回も再生されることはありません。

プログラム再生とランダム再生のリピート

プログラム再生とランダム再生もくり返して再生することができます。
DVDをプログラム再生またはランダム再生しているときは、「リピート　タイトル」または「リピート　チャプター」以外に「リピート　オール」も選ぶことができます。「リピート　オール」は、プログラム再生中は、プログラムしたタイトルまたはトラックを全てくり返し再生します。ランダム再生中は、タイトルまたはトラックのランダム再生をくり返します。

画質を切り換える

映像を鑑賞する部屋の照明やお好みに合わせて画質を選ぶことができます。

画質を切り換える [シアターポジション]

DVD ビデオCD

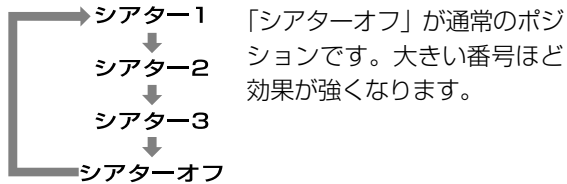
リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ 再生中に操作します。

1 シアターポジションボタンを押して画質を選ぶ

選択中の画質

シアターポジションボタンを押すごとに、以下のように切り換わります。

「シアターオフ」が通常のポジションです。大きい番号ほど効果が強くなります。

シアターポジションの表示を消すには
決定ボタンを押します。また、5秒以上何も操作しないと、シアターポジションの表示は自動的に消えます。

DVD の状況を見る

現在選択中（または再生中）の DVD の状況をチェックすることができます。

DVDの状況を見る

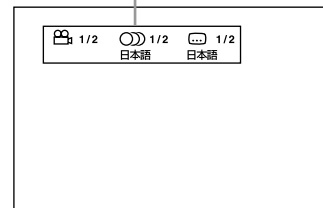
DVD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ DVD 再生中に操作します。

1 表示切替ボタンを押す

状況表示のオンスクリーン画面に、現在選んでいるカメラアングル、音声言語、字幕言語が表示されます。

状況表示画面

DVD の状況表示のオンスクリーン画面を消すには
表示切替ボタンをさらに 2 回押します。

ディスクの状態や時間を見る

ディスクの再生状態やオーディオ CD またはビデオ CD の収録時間などを見ることができます。

ディスクの状態を見る DVD ビデオCD オーディオCD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

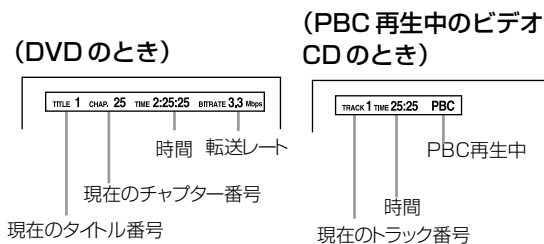
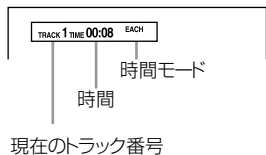
1

■ 再生中に操作します。

1 表示切替ボタンを押す

(DVD を再生中は 2 回ボタンを押します)

時間表示のオンスクリーン画面が表示されます。

(DVD のとき)　　(PBC 再生中のビデオ CD のとき)

(PBC オフで再生中のビデオ CD ／オーディオ CD のとき)

時間表示のオンスクリーン画面を消すには

表示切替ボタンを押します。

お知らせ

- DVD を再生中、時間切替ボタンを押すと直接（1 回で）時間表示のオンスクリーン画面が表示されます。

時間表示を切り換える ビデオCD オーディオCD

リモコンを使って、DVD ボタンを押してから操作します。

■ ビデオ CD　　：再生中に
オーディオ CD　：再生中に

1 表示切替ボタンを押す

時間表示のオンスクリーン画面が表示されます。

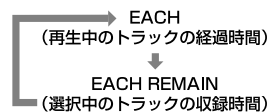
2 時間切替ボタンを押す

押すごとに時間表示が次のようになります。

PBC オフで再生中のビデオ CD

EACH
（再生中のトラックの経過時間）
↓
EACH REMAIN
（選択中のトラックの収録時間）

オーディオ CD

EACH
（再生中のトラックの経過時間）
↓
EACH REMAIN
（再生中のトラックの残り時間）
↓
TOTAL
（ディスクの頭からの経過時間）
↓
TOTAL REMAIN
（ディスクの残り時間）

- センターユニットの表示窓にも時間表示が表示されます。

時間表示のオンスクリーン画面を消すには

表示切替ボタンを押します。

停止中にトラックの収録時間またはディスクの総収録時間を見る

停止中に時間切替ボタンを押すとセンターユニットの表示窓にトラックの収録時間（EACH REMAIN）またはディスクの総収録時間（REMAIN）を表示させることができます。時間切替ボタンを押すごとに時間表示が切り換わります。

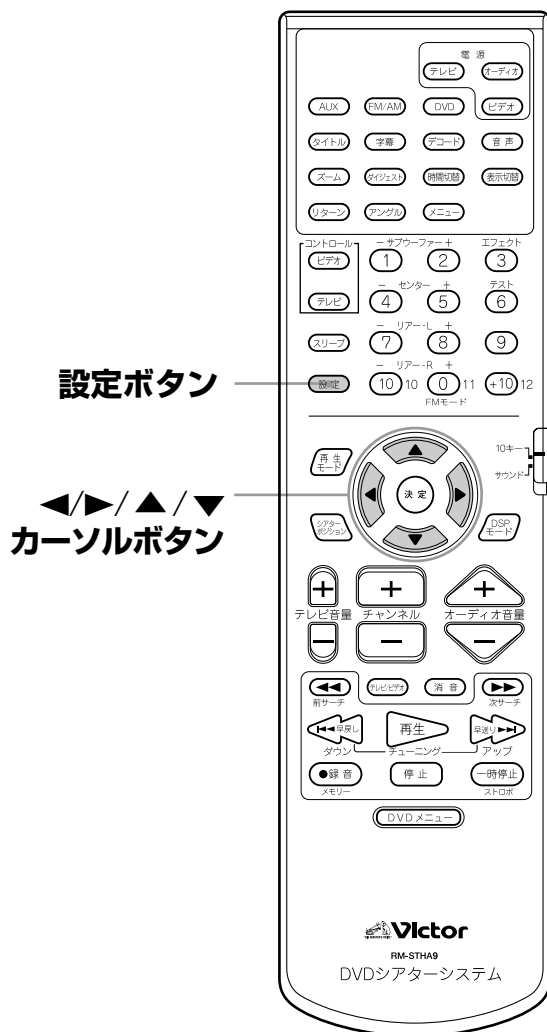
お知らせ

- ディスク停止中に EACH REMAIN を選んだとき、I◀◀ または ▶▶I ボタン押すと、各トラックの収録時間を見ることができます。

アンプ機能の設定をする

リモコンを使ってアンプ機能（バランス・音質・スピーカーサイズ・ディレイ・クロスオーバー周波数・低音域レベル・ダイナミックレンジ）の設定をします。

操作に使うボタン

設定ボタンと ◀/▶/▲/▼のカーソルボタンを使います。

設定の基本操作

アンプ機能の設定をするための基本的な手順は次のようになります。

1　設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2　▲/▼のカーソルボタンを押して設定する項目を選ぶ

▲/▼のカーソルボタンを押すごとに、設定項目が次のように変わります。

L/R BALANCE（フロントスピーカーのバランスの調節）
↕
BASS（フロントスピーカーの低音の調節）
↕
TREBLE（フロントスピーカーの高音の調節）
↕
FRONT SPK.（フロントスピーカーサイズの調節）
↕
CENTER SPK.(センタースピーカーサイズの調節)
↕
REAR SPK.（リアスピーカーサイズの調節）
↕
CENTER DELAY（センタスピーカーのディレイの調節）
↕
REAR DELAY（リアスピーカーのディレイの調節）
↕
CROSSOVER（クロスオーバー周波数の調節）
↕
LFE ATT.（LFEアッテネーターの調節）
↕
D.RANGE COMP.(ダイナミックレンジの調節)

3　◀/▶のカーソルボタンを使って設定項目の調節をする

4　設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

バランスを調節する

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「L/R BALANCE」を選ぶ

L/R BALANCE

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

L/R BAL CNTR

5秒以内に

3 ◀/▶ のカーソルボタンを押してバランスを調節する

◀ のカーソルボタンを押すと、右フロントスピーカーの音が小さくなります。
▶ のカーソルボタンを押すと、左フロントスピーカーの音が小さくなります。

4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

音質(低音または高音)を調節する

フロントスピーカーの音質（低音または高音）を調節します。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「BASS」（低音）または「TREBLE」（高音）を選ぶ

BASS

または

TREBLE

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

BASS	：低音の調節をするとき
TREBLE	：高音の調節をするとき

5秒以内に

3 ◀/▶ のカーソルボタンを押して低音または高音の調節をする

－10～0～＋10の範囲で2ステップずつ調節することができます。
▶ のカーソルボタンを押すと、低音または高音が増強され、◀ のカーソルボタンを押すと、低音または高音が減衰します。

4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

アンプ機能の設定をする（つづき）

フロントスピーカーのサイズを設定する

1　設定ボタンを押す
センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2　▲ / ▼のカーソルボタンを押して「FRONT SPK」を選ぶ

3　◀ / ▶ のカーソルボタンを押してスピーカーサイズを設定する
◀/▶のカーソルボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

「SMALL（スモール）」⟷「LARGE（ラージ）」

SMALL（スモール）：**本システムのサテライトスピーカーをフロントスピーカーに使用しているとき、**またはスピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が 12cm 以下のときに選びます。
LARGE（ラージ）：スピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が 12cm 以上のときに選びます。

4　設定ボタンを押す
表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

ご注意
- **本システムのサテライトスピーカーをフロントスピーカーに使用しているときは、「LARGE」に設定しないでください。「LARGE」に設定するとスピーカーが破損する恐れがあります。**

センタースピーカーのサイズを設定する

1　設定ボタンを押す
センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2　▲ / ▼のカーソルボタンを押して「CENTER SPK」を選ぶ

3　◀ / ▶ のカーソルボタンを押してスピーカーサイズを設定する
◀/▶のカーソルボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカーを「SMALL（スモール）」に設定しているとき：
「SMALL（スモール）」⟷「NONE（ノン）」

フロントスピーカーを「LARGE（ラージ）」に設定しているとき：
「LARGE（ラージ）」⟷「SMALL（スモール）」⟷「NONE（ノン）」（「NONE」⟷「LARGE」）

SMALL（スモール）：**本システムのセンタースピーカーを使用しているとき、**またはスピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が12cm以下のときに選びます。
LARGE（ラージ）：スピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が 12cm 以上のときに選びます。
NONE（ノン）：センタースピーカーを使用していないときに選びます。

4　設定ボタンを押す
表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

ご注意
- **本システムのセンタースピーカー使用しているときは、「LARGE」に設定しないでください。「LARGE」に設定するとスピーカーが破損する恐れがあります。**

リアスピーカーのサイズを設定する

1　設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2　▲/▼のカーソルボタンを押して「REAR SPK」を選ぶ

3　◀/▶ のカーソルボタンを押してスピーカーサイズを設定する

◀/▶のカーソルボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカーを「SMALL（スモール）」に設定しているとき：
「SMALL（スモール）」↔「NONE（ノン）」

フロントスピーカーを「LARGE（ラージ）」に設定しているとき：
「LARGE（ラージ）」↔「SMALL（スモール）」↔「NONE（ノン）」
（「NONE」から「LARGE」に戻ります）

SMALL（スモール）：**本システムのサテライトスピーカーをリアスピーカーに使用しているとき、**またはスピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が 12cm 以下のときに選びます。

LARGE（ラージ）：スピーカーシステムに内蔵されているスピーカーの口径が 12cm 以上のときに選びます。

NONE（ノン）：リアスピーカーを使用していないときに選びます。

4　設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

ご注意

- **本システムのサテライトスピーカーをリアスピーカーに使用しているときは、「LARGE」に設定しないでください。「LARGE」に設定するとスピーカーが破損する恐れがあります。**

センタースピーカーのディレイタイムを調節する

聞く位置からフロントスピーカーまでの距離と、センタースピーカーまでの距離を比較して、センタースピーカーのディレイタイム（遅延時間）を設定します。

1　設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2　▲/▼のカーソルボタンを押して「CENTER DELAY」を選ぶ

3　◀/▶ のカーソルボタンを押してディレイタイムを調節する

0ms ～ 5ms の範囲で調節することができます。

調節の目安：

聞く位置からセンタースピーカーまでの距離が、フロントスピーカーまでの距離とほぼ同じときは、0ms にします。
センタースピーカーまでの距離の方が短くなるにしたがって、ディレイタイムを長くします。

- 1msのディレイタイムの増減は、30cmの距離の増減に相当します。

4　設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

お知らせ

- センタースピーカーサイズを「NONE」に設定しているときは、「CENTER DELAY」を調節することはできません。

アンプ機能の設定をする（つづき）

リアスピーカーのディレイタイムを調節する

聞く位置からフロントスピーカーまでの距離と、リアスピーカーまでの距離を比較して、リアスピーカーのディレイタイム（遅延時間）を設定します。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「REAR DELAY」を選ぶ

REAR DELAY

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

R.DELAY: 5ms

5秒以内に

3 ◄/► のカーソルボタンを押してディレイタイムを調節する

0ms ～ 15msの範囲で調節することができます。

調節の目安：

聞く位置からリアスピーカーまでの距離が、フロントスピーカーまでの距離とほぼ同じときは、0msにします。
リアスピーカーまでの距離の方が短くなるにしたがって、ディレイタイムを長くします。

- 1msのディレイタイムの増減は、30cmの距離の増減に相当します。

4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

お知らせ

- リアスピーカーサイズを「NONE」に設定しているときは、「REAR DELAY」を調節することはできません。

クロスオーバー周波数を選ぶ

低音を十分に再生できない小型スピーカーをフロント、センター、リアスピーカーのいずれかに使っているとき、低音要素をサブウーハーへ自動的に振り分けることができます。小型スピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数を選びます。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「CROSSOVER」を選ぶ

CROSSOVER

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

CROSS:200Hz

5秒以内に

3 ◄/► のカーソルボタンを押してクロスオーバー周波数を選ぶ

◄/►のカーソルボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

「200Hz」↔「120Hz」↔「100Hz」

クロスオーバー周波数	スピーカーの口径
100Hz	10cm以上
120Hz	8cm程度
200Hz	4cm程度

- **本システムのスピーカーを使用するときは、「200Hz」を選びます。**

4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

お知らせ

- 全てのスピーカーサイズを「LARGE」に設定しているときは、「CROSSOVER」は設定できません。

低音域のレベルを調節する(LFEアッテネーター)

ドルビーデジタルやDTSサラウンドの再生で低音がひずむときに、LFE ATT.(アッテネーター)*を使って出力レベルを下げることができます。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「LFE ATT.」を選ぶ

LFE ATT.

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

LFE ATT.:OFF

5秒以内に

3 ◄/► のカーソルボタンを押して「ON」または「OFF」を選ぶ

◄/► のカーソルボタンを押すごとに、「ON」または「OFF」に切り換わります。

ON :低音がひずむときに選びます。
OFF:通常はこの設定にしておきます。

4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

* **LFE ATT.(アッテネーター)とは:**
Low(ロー) Frequency(フリケンシー) Effect(エフェクト)アッテネーターの略で低音域減衰装置のことです。

ダイナミックレンジを調節する(コンプレッション)

ダイナミックレンジ(音楽や音声の最大から最小までの音の大きさの幅)を圧縮することができます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときなどに調節してください。ドルビーデジタルの音声を再生しているときに限り、働きます。

1 設定ボタンを押す

センターユニットの表示窓に設定項目が表示されます。

2 ▲/▼のカーソルボタンを押して「D.RANGE COMP」を選ぶ

D.RANGE COMP

しばらくすると、現在の設定値が表示されます。

COMP.:MID

5秒以内に

3 ◄/► のカーソルボタンを押してダイナミックレンジを設定する

◄/►のカーソルボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

「MAX(マックス)」↔「MID(ミッド)」↔「OFF(オフ)」

MAX(マックス):ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいときに選びます。(夜間など)
MID(ミッド):ダイナミックレンジを少し圧縮したいときに選びます。(お買い上げ時の設定)
OFF(オフ):そのままのダイナミックレンジで音声を楽しみたいときに選びます。

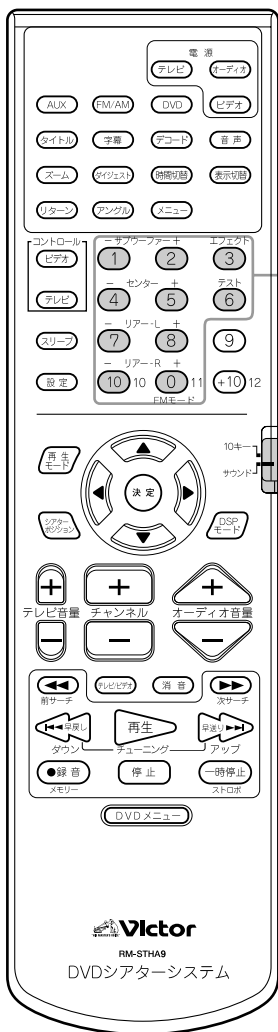
4 設定ボタンを押す

表示窓の設定項目表示が、設定する前の表示に戻ります。

サウンドの調節をする

DSP の効果を調節したり、テストトーンを鳴らして各スピーカーの音量を整えます。
最適な設定をするために、実際にお聞きになる位置から調節することをおすすめします。

操作に使うボタン

数字キー操作モードセレクターを「サウンド」側にしてから、数字キーを使って操作します。

サブウーハーのレベルを調節する

サブウーハーのレベルを調節します。

1 数字キー操作モードセレクターを「サウンド」側にする

数字キーを使ってサウンドの調節ができるようになります。

2 (1) (2) キーを押してレベルを調節する

（－ サブウーファー ＋）

－ 10dB ～ 0 ～＋ 10dB の範囲で調節できます。

SUBWFR　0

- (1) (2)（－ サブウーファー ＋）キーを押してレベルを調節してから何の操作もしないで5秒が経過すると、表示窓のサブウーハーレベルの表示が前の表示に戻ります。

スピーカーのレベルを調節する

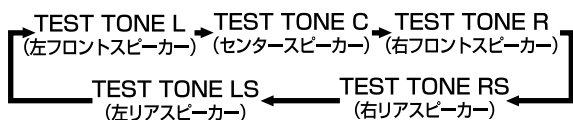
テストトーン（「シャー」という音）を使って、各スピーカーの音量を整えることができます。あらかじめ「SURROUND ON」またはDSPモードを「THEATER」にしておいてください。これ以外のときは、テストトーンは鳴りません。

1 数字キー操作モードセレクターを「サウンド」側にする

数字キーを使ってサウンドの調節ができるようになります。

2 テスト 6 キーを押す

「TEST TONE L」がセンターユニットの表示窓に点滅表示され、テストトーンが次の順番で各スピーカーから出力されます。

TEST TONE L（左フロントスピーカー）→ TEST TONE C（センタースピーカー）→ TEST TONE R（右フロントスピーカー）→ TEST TONE RS（右リアスピーカー）→ TEST TONE LS（左リアスピーカー）→（TEST TONE Lへ戻る）

- スピーカーサイズの設定で、「NONE」に設定したスピーカーからは、テストトーンは鳴りません。

3 各スピーカーのレベルを調節する

センタースピーカー、リアスピーカー左、リアスピーカー右のレベルを調節します。
各スピーカーのレベルは、－10dB～0～＋10dBの範囲で調節することができます。

センタースピーカーのレベルを調節するとき：
（－ センター ＋）4 5 キーを押します。

リアスピーカー左のレベルを調節するとき：
（－ リアー-L ＋）7 8 キーを押します。

リアスピーカー右のレベルを調節するとき：
（－ リアー-R ＋）10 10 0 11 キーを押します。

スピーカーレベルの調節が終了したら

4 テスト 6 キーを押してテストトーンを止める

お知らせ

- テストトーンを鳴らさなくても、スピーカーレベルの調節はできます。

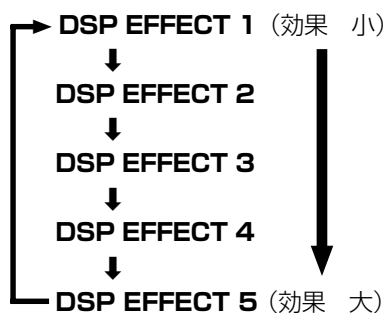
DSPの効果を調節する（エフェクト）

DSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）の効果を調節します。DAPモードごとに調節し、メモリーできます。
（38ページもご覧ください）
あらかじめ、DSPモードボタンを押して、効果を調節するDAPモードを選び、ソフトを再生します。

1 数字キー操作モードセレクターを「サウンド」側にする

数字キーを使ってサウンドの調節ができるようになります。

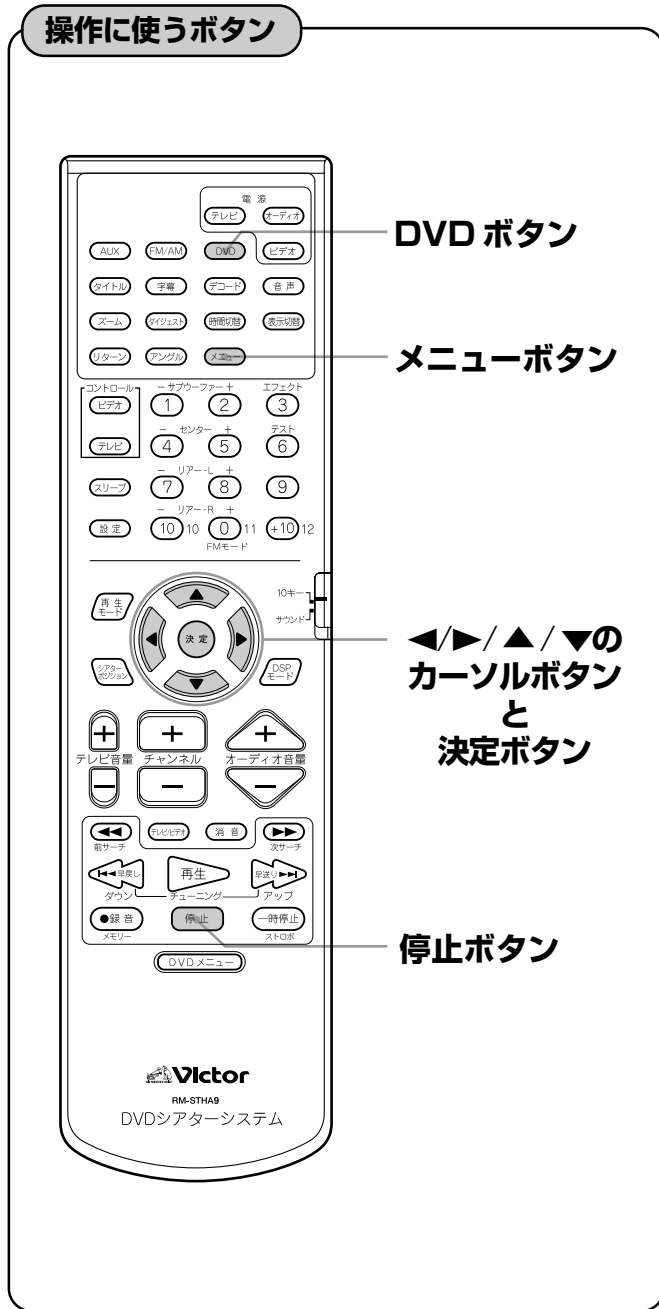
2 エフェクト 3 キーを押して効果を調節する

センターユニットの表示窓に現在のエフェクト効果の設定が表示されます。
エフェクト 3 キーを押すごとに、効果が次のように変わります。

- エフェクト 3 キーを押して効果を調節してから何の操作もしないで5秒が経過すると、表示窓のエフェクト効果の表示が前の表示に戻ります。
- DAPモードが選ばれていないときは、設定できません。

いろいろな設定をする

初期設定をする

３種類の初期設定画面を使って本システムの初期設定をします。

操作に使うボタン

初期設定画面での基本操作

1　DVD ボタンを押してソース（音源）をDVD にしてから、停止ボタンを押す

オーディオ CD がセンターユニットに入っているときは、OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクカバーを開けます。

2　メニューボタンを押す

初期設定画面が表示されます。

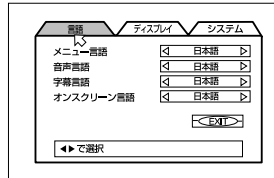
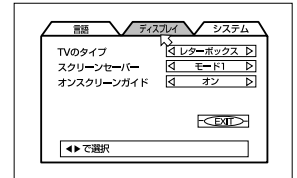
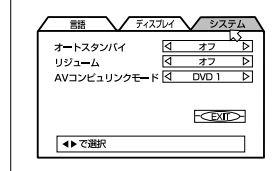
3　◄ / ► のカーソルボタンを使って画面を選ぶ

初期設定画面には、「言語」、「ディスプレイ」、「システム」の３画面があります。画面の上部にあるタグにポインタを合わせると画面を切り換えることができます。

言語

メニュー言語	日本語
音声言語	日本語
字幕言語	日本語
オンスクリーン言語	日本語

EXIT

◄►で選択

ディスプレイ

システム

4　▲/▼のカーソルボタンを使って設定したい項目にポインタを合わせる

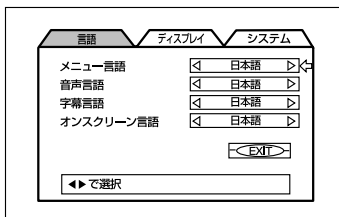
5　◄ / ► のカーソルボタンを使って項目の設定をする

通常の画面に戻すとき

▲/▼のカーソルボタンを使って「EXIT」にポインタを移動してから決定ボタンを押す、またはメニューボタンを押します。

「言語」画面での設定

メニュー言語

DVDには複数の言語によるメニュー画面が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語でメニュー表示をするか決めることができます。

▶ のカーソルボタンを押すごとに、次のように変わります。

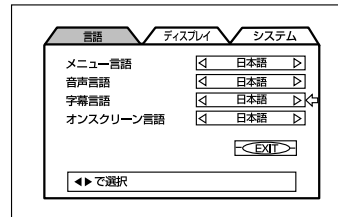
➡英語➡スペイン語➡フランス語➡中国語➡ドイツ語➡イタリア語➡日本語➡さらにAAからZUまでの言語コード➡

◀ のカーソルボタンを押すと逆の順で変わります。

お知らせ

- 選んだメニュー言語がディスクに収録されていないときは、ディスクに収録されているメニュー言語で再生されます。
- 言語コードについては、83 ページを参照してください。

字幕言語

外国映画などのDVDには複数の言語による字幕が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの言語の字幕で再生するか決めることができます。

▶ のカーソルボタンを押すごとに、次のように変わります。

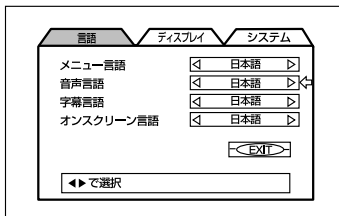
➡英語➡スペイン語➡フランス語➡中国語➡ドイツ語➡イタリア語➡日本語➡さらにAAからZUまでの言語コード➡

◀ のカーソルボタンを押すと逆に変わります。

お知らせ

- 選んだ字幕言語がディスクに収録されていないときは、ディスクに収録されている字幕言語で再生されます。
- 言語コードについては、83 ページを参照してください。

音声言語

DVDには複数の音声言語が収録されているものがあります。このようなDVDを再生するときに、最初にどの音声言語で再生するか決めることができます。

▶ のカーソルボタンを押すごとに、次のように変わります。

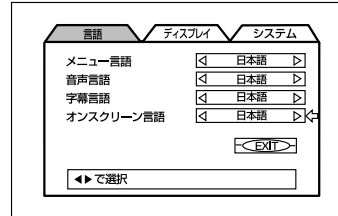
➡英語➡スペイン語➡フランス語➡中国語➡ドイツ語➡イタリア語➡日本語➡さらにAAからZUまでの言語コード➡

◀ のカーソルボタンを押すと逆の順で変わります。

お知らせ

- 選んだ音声言語がディスクに収録されていないときは、ディスクに収録されている音声言語で再生されます。
- 言語コードについては、83 ページを参照してください。

オンスクリーン言語

オンスクリーン画面の表示言語を切り換えることができます。

◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、日本語と英語が切り換わります。

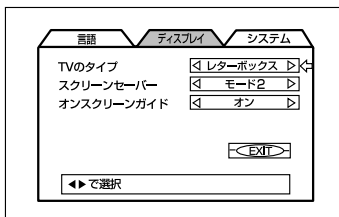
日本語 ⬌ 英語

日本語	オンスクリーン言語 ◁ 日本語 ▷
英語	ON SCREEN LANGUAGE ◁ ENGLISH ▷

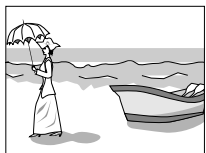
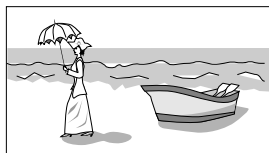
初期設定をする（つづき）

「ディスプレイ」画面での設定

TV のタイプ

DVD の映画ソフトの多くは、縦横比 16 対 9 の横長テレビ用の映像が収録されています。この横長テレビ用の映像を縦横比4対3のテレビで見るときの変換方式を選ぶことができます。

◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、次の変換方式を選ぶことができます。

「レターボックス」：縦横比４対３のテレビで見るときに選びます。上下に黒い隙間がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。

「パンスキャン」：縦横比４対３のテレビで見るときに選びます。左右両端が切り取られる状態で映ります。上下に黒い隙間は映りません。

「ワイド（S1)」：横長テレビで見るときに選びます。

お知らせ

- パンスキャンを選んでも、ディスクが対応していないときは、レターボックスになります。

スクリーンセーバー

テレビ画面の焼き付きを防ぐスクリーンセーバーの設定をします。

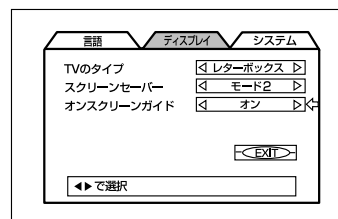
◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、次のモードから選ぶことができます。

「モード 1」：画像が暗くなります。
「モード 2」：スクリーンセーバー画面が表示され、明るさが変化します。
「オフ」：スクリーンセーバーは機能しません。

ご注意

- スクリーンセーバーを「オフ」にしているときは、テレビ画面の焼き付きには十分ご注意ください。
- オーディオ CDのときは、スクリーンセーバーが機能しません。

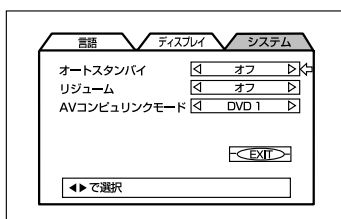
オンスクリーンガイド

DVD を再生中に、映像に重ねてマークや文字などを表示させるオンスクリーンガイド機能のオン／オフを設定します。

◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、「オン」または「オフ」が切り換わります。

「オン」：マークや文字が表示されます。
「オフ」：マークや文字は表示されません。

「システム」画面での設定

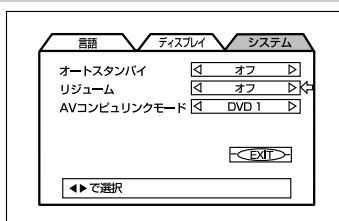
オートスタンバイ

ソース（音源）がDVDのときに一定時間、本システムの停止状態が続くと、自動的に本システムを電源「切」の状態にすることができます。

◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、次の時間から選ぶことができます。

「60」：60分間、本システムの停止状態が続くと電源「切」の状態になります。
「30」：30分間、本システムの停止状態が続くと電源「切」の状態になります。
「オフ」：オートスタンバイ機能は働きません。

リジューム

リジューム機能（➡ 44 ページ参照）のオン／オフを選びます。

◀/▶ のカーソルボタンを押すごとに、「オン」または「オフ」が切り換わります。

「オン」：リジュームポイントが記憶され、停止中あるいは電源「切」のときに再生ボタンを押すと、記憶している位置から再生が始まります。
「オフ」：リジュームポイントは記憶されず、停止中あるいは電源「切」のときに再生ボタンを押すと、ディスクの頭から再生が始まります。

AV コンピュリンクモード

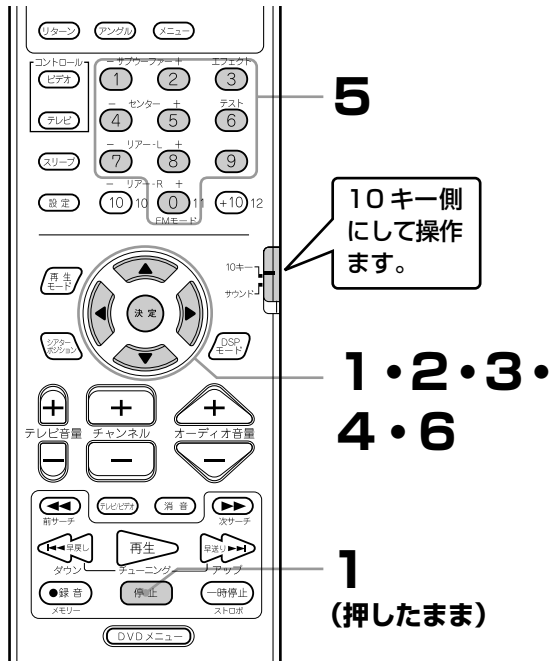
ビクターのテレビなどと連動させるとき、接続した機器の入力端子に合わせてAV コンピュリンクモードを設定します。「DVD1」、「DVD2」、「DVD3」の中から選んで設定してください。（➡ 76 ページ参照）

お知らせ

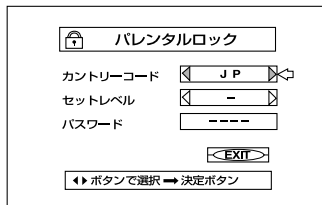
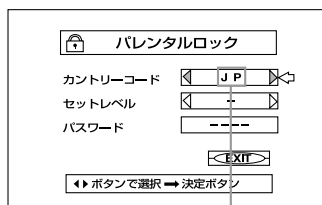
- AVコンピュリンクコードをつながないときは、設定する必要はありません。

視聴制限を設定する

過激なシーンなどを含むDVD映画ソフトを再生するときなど、パレンタルロック機能の設定に応じて過激なシーンをカットしたり別のシーンに差し換えるなど視聴制限をすることができます。**リモコンを使って操作します。**
パレンタルロックは DVD だけに設定することができます。

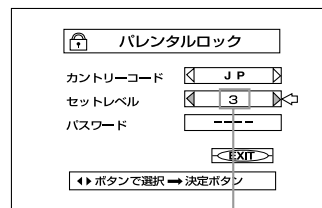
パレンタルロックを設定する

■ ソース（音源）を DVD にし、DVD 停止中または
ディスクが入っていないとき

1　停止ボタンを押したまま、決定ボタンを押す

パレンタルロック画面が表示されます。

2　▲/▼のカーソルボタンを使ってポインタを「カントリーコード」に合わせ、◀/▶ のカーソルボタンでコードを選ぶ

カントリーコード
例：通常は JP（Japan）
を選択します。

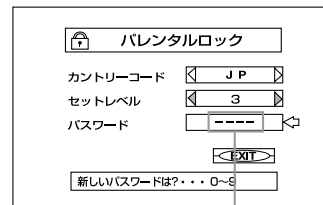
• カントリーコード一覧は、84 85 ページをご覧ください。

3　▲/▼のカーソルボタンを使ってポインタを「セットレベル」に合わせ、◀/▶ のカーソルボタンでレベルを選ぶ

▶のカーソルボタンを押すごとに、「1」から「8」が選べ、さらに押すと「－」に戻ります。
「－」が視聴制限の全くない状態、「1」が視聴制限の一番厳しい状態になります。

例：3 にしたとき

レベルを選ぶ

4　決定ボタンを押す

5　数字ボタン（0～9）を使ってパスワード（任意の 4 ケタの数字）を入力する

パスワードを入力する

• パスワードを間違えたときは、新しい4ケタの数字を入力します。

6　決定ボタンを押す

パレンタルロックとパスワードが設定され、ポインタが「EXIT」に移動します。
もう一度、決定ボタンを押すと、オープニング画面に戻ります。

次回から、DVDを再生するときには、DVDソフトに制限があると設定したレベルに応じた視聴制限の再生が行われます。

設定を変更するには

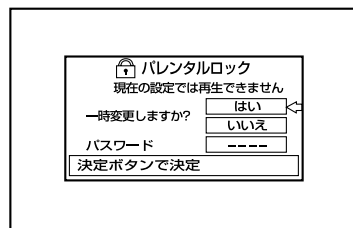
パレンタルロックの設定を変更するときは、次のように行います。

1. **停止ボタンを押したまま､決定ボタンを押してパレンタルロック画面を表示させる**
2. **▼/▲のカーソルボタンで「パスワード」を選んでから、数字ボタンでパスワードを入力する**
3. **▼/▲のカーソルボタンで「セットレベル」を選んでから、◀/▶ のカーソルボタンでレベルを変え、決定ボタンを押す**
4. **▼/▲のカーソルボタンで「パスワード」を選んでから、数字ボタンで新しいパスワードを入力する**
5. **決定ボタンを押して決定する**
   オープニング画面に戻すときは、もう一度、決定ボタンを押します。

お知らせ

- パスワードを忘れてしまったときは、「8888」を入力します。
- パスワードの入力を3回間違えると、ポインタが「EXIT」に移動して、カーソルボタンは働かなくなります。決定ボタンを押してパレンタルロック画面から抜け、もう一度最初からやり直してください。

設定を一時的に解除するには

パレンタルロックの視聴制限が厳しく設定されていると、再生しようとしてもまったく見ることができないことがあります。このようなときには、パレンタルロックの視聴制限を一時解除するかどうかを選ぶ画面が表示されます。

設定を一時解除してディスクを再生するとき

1. **▼/▲のカーソルボタンを使ってポインタを「はい」に合わせ、決定ボタンを押す**
   ポインタが「パスワード」に移動します。
2. **数字ボタンを使ってパスワードを入力する**
   パレンタルロックが一時解除され、ディスクが再生されます。
   - 間違ったパスワードを入力したときは、「違います。やり直してください」と表示されます。

設定を一時解除しないとき

1. **▼/▲のカーソルボタンを使ってポインタを「いいえ」に合わせ、決定ボタンを押す**
2. **センターユニットのOPEN/CLOSEボタンを押してディスクを取り出す**

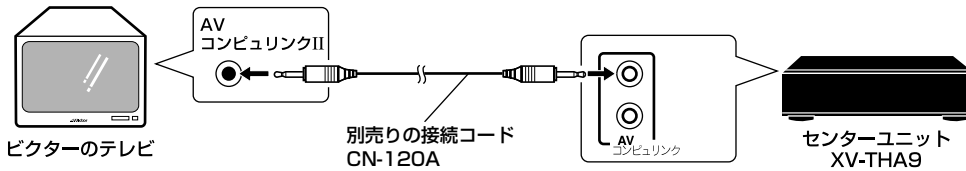
お知らせ

- パスワードの入力を3回間違えると、ポインタが「いいえ」に移動して、カーソルボタンは働かなくなります。決定ボタンを押してパレンタルロック画面から抜け、ディスクを取り出してしてください。

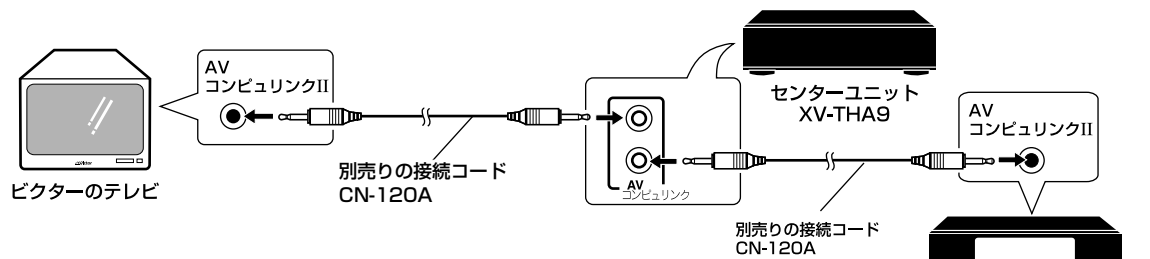
AV コンピュリンクの活用

テレビ、ビデオカセットレコーダー、DVD プレーヤーなどいくつかの機器をつないで、再生するための接続をしても、操作はそれぞれ別々に行なわなければならない煩わしさがあります。一つの機器の操作に連動してほかの機器を動作させることによって、簡単な操作を実現したものが AV コンピュリンク機能です。

接続と設定をする

■ テレビと AV コンピュリンク接続

テレビの入力端子	AV コンピュリンクモードの設定
ビデオ 1 のとき	DVD 2
ビデオ 2 のとき	DVD 3
ビデオ 3 (DVD)のとき	DVD 1

＊ テレビのDVD入力端子に接続したときは、「DVD 1」に設定してありますので、そのまま使えます。

■ テレビおよびビデオカセットレコーダーとの AV コンピュリンク接続

テレビの入力端子	AV コンピュリンクモードの設定	ビデオカセットレコーダーのリモコンコードの設定
ビデオ 1 のとき	DVD 2	B
ビデオ 2 のとき	DVD 3	A
ビデオ 3 (DVD)のとき	DVD 1	A

＊ テレビの DVD 入力端子に接続したときは「DVD1」に設定してありますので、そのまま使えます。

● AV コンピュリンクモードの設定（DVD1 ~ DVD3）の切り換えは、「初期設定」（➡ 73 ページ）で操作します。

操作をする

ソース機器（DVD プレーヤーやビデオカセットレコーダーなどの再生する機器のことをいいます）を再生するだけで音や映像を鑑賞することができます。テレビの入力を切り換えたり、あらかじめ電源を「入」にする操作は必要ありません。

1 テレビの主電源スイッチを「入」にする

2 ソース機器にディスクまたはカセットを入れる

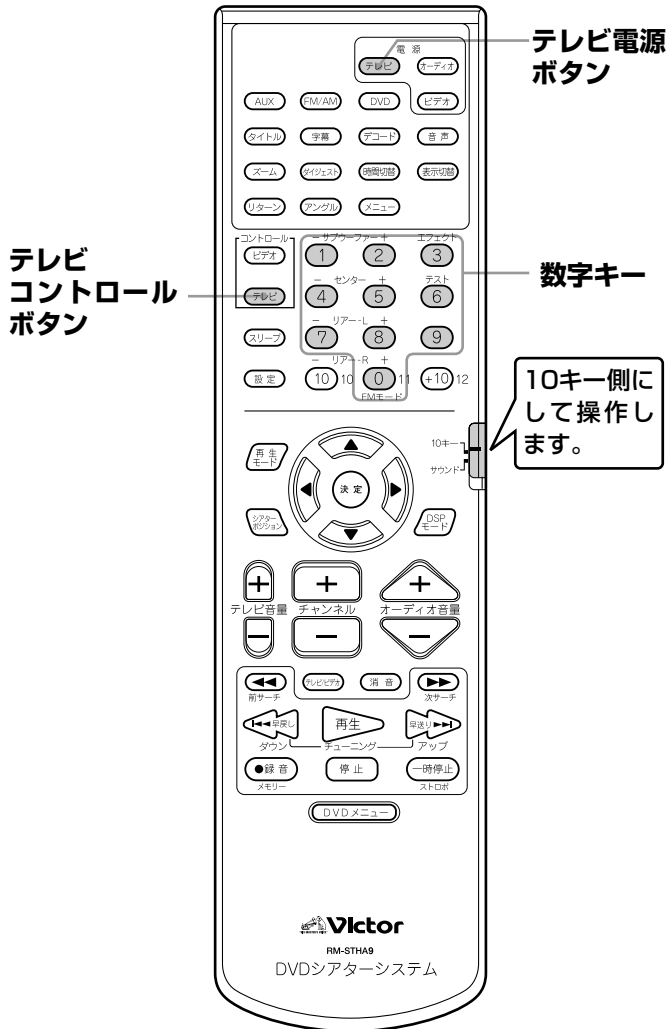
3 ソース機器の再生ボタンを押す

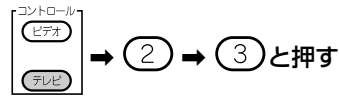
次の動作が自動的に行なわれます。

- テレビの電源が「入」になります。
- テレビの入力が外部入力（ビデオ 1、ビデオ 2、またはビデオ 3）に切り換わります。

リモコンを使って他の機器を操作する

リモコンを使ってテレビやビデオデッキを操作することができます。ビクター製のテレビやビデオデッキを操作するときは、そのまま操作できます。
他メーカーのテレビやビデオデッキを操作するときは、あらかじめリモコンのメーカーコードを設定する必要があります。

テレビのメーカーコードを設定する

1　テレビ電源ボタンを押したまま テレビコントロールボタンを押したあと 数字キー（1～9、0）を使ってメーカーのコード番号（2ケタ）を入力する

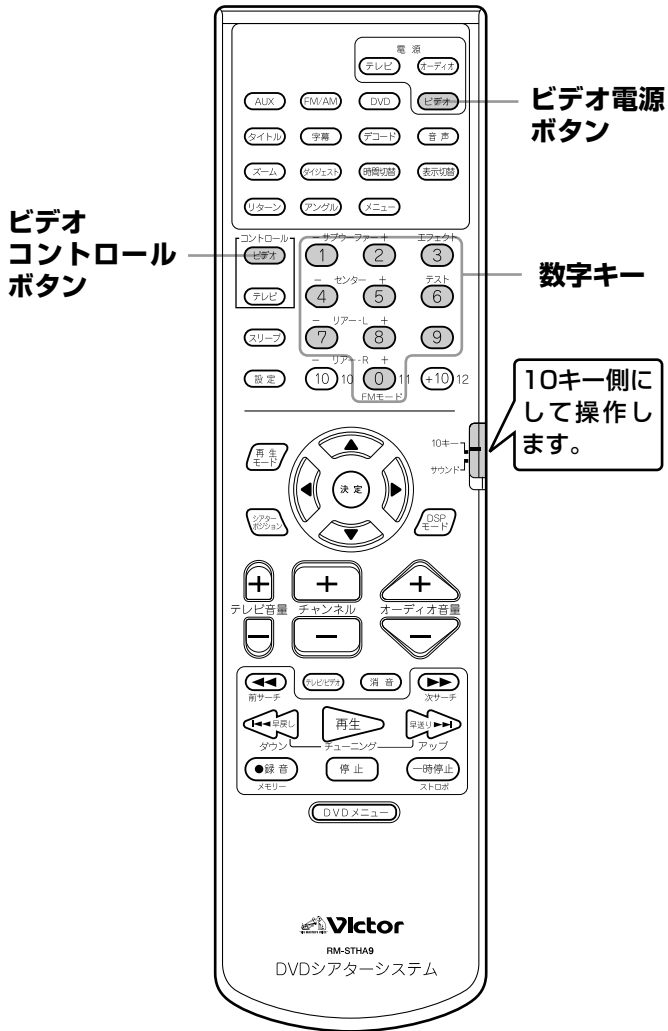
例：松下（23）の場合

メーカーコード表

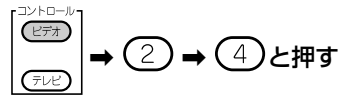
メーカー名	コード番号
日本ビクター	01、02、03
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
富士通ゼネラル	09、10
ソニー	11、12、13
東芝	14
NEC	15
パイオニア	16
日立	17、18
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27
アイワ	28、29
フィリップス	30
コルディナ	31、32、33、34

2　テレビ電源ボタンを離す

3　テレビ電源ボタンを押してテレビを操作してみる

テレビの電源の「入」⟷「切」ができたら設定は終了です。うまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直してください。

ビデオデッキのメーカーコードを設定する

**1　ビデオ電源ボタンを押したまま
ビデオコントロールボタンを押したあと
数字キー（1～9、0）を使ってメーカーのコード番号（2ケタ）を入力する**

例：松下（24）の場合

メーカーコード表

メーカー名	コード番号
日本ビクター	01、02、03
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
富士通ゼネラル	10
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
NEC	16、17、18、19
パイオニア	20
日立	21、22
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29
アイワ	30、31、32、33、34
フィリップス	35
コルディナ	36

2　ビデオ電源ボタンを離す

3　ビデオ電源ボタンを押してビデオデッキを操作してみる

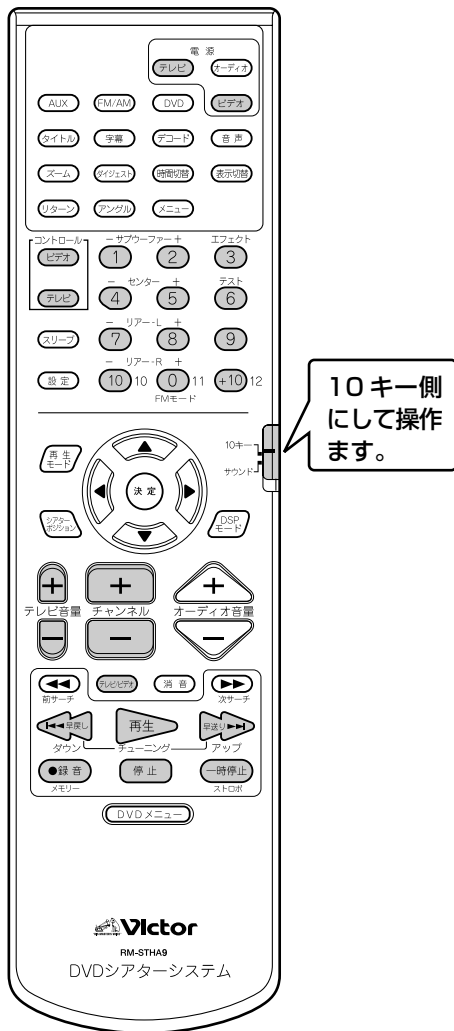
ビデオデッキの電源の「入」⟷「切」ができたら設定は終了です。うまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直してください。

リモコンを使って他の機器を操作する（つづき）

リモコンで他の機器を操作する

本システムに付属のリモコンを使ってテレビやビデオデッキを操作することができます。

リモコンでテレビやビデオ機器を操作するときは
- あらかじめメーカー設定をしてください。（➡ 78 79 ページ参照）
- テレビとビデオ機器の操作をするときは、リモコンをそれぞれの機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 操作するときは､必ずリモコンのテレビコントロールボタンまたはビデオコントロールボタンを押してリモコンのモードを合わせてください。
- 接続している機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

操作に使うボタン

テレビの操作

- **テレビ電源** ：テレビの電源の「入」⟷「切」をします。いつでも操作することができます。
- **テレビ音量 ＋、－** ：音量を調節します。
- **テレビ / ビデオ** ：テレビの入力を切換えます。

テレビコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

- **チャンネル ＋、－**：チャンネルを変更します。
- **1～12** ：チャンネルを選びます。

ビデオデッキの操作

- **ビデオ電源** ：ビデオデッキの電源の「入」⟷「切」をします。
いつでも操作することができます。

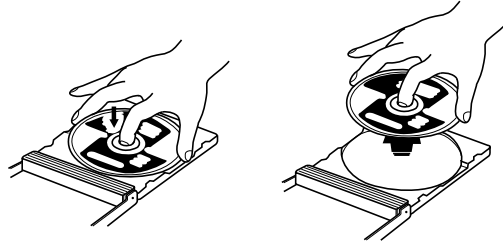
ビデオコントロールボタンを押したあとで、次の操作ができます。

- **再生** ：再生を始めます。
- **I◀◀** ：テープを巻き戻します。
- **▶▶I** ：テープを早送りします。
- **停止** ：録画・再生を停止します。
- **一時停止** ：録画・再生を一時停止します。
再び録画･再生を始めるときは､再生ボタンをします。
- **●録 音** ：一時停止ボタンと一緒に押すと、録画待機状態になります。そのあと、再生ボタンを押すと録画を始めます。
- **チャンネル ＋、－**：ビデオデッキの受信チャンネルを変更します。

ディスクの取り扱いとお手入れ

取り扱い時の注意

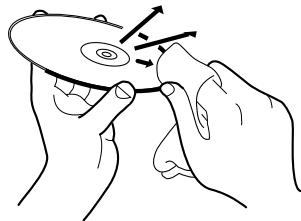
ディスクを取り扱う際、以下のようなことに注意してください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらディスクを持ち上げてください。
- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（鏡面）を汚したり、ラベル面に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

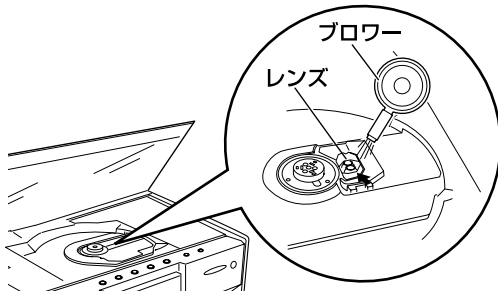
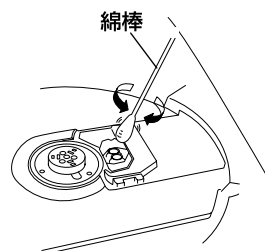
- **直射日光の当たるところ**
- **湿気やほこりの多いところ**
- **暖房器のそばや車の中など**

ディスクのクリーニング

- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外側に向かって軽く拭いてください。ディスクの円周方向には拭かないでください。
- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、 ディスクのクリーニングには使用しないでください。

お知らせ

- ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。センターユニットの故障の原因となります。

DVD プレーヤーのレンズのクリーニング

DVD プレーヤーのレンズの汚れは、映像の乱れや音飛びの原因となります。
ディスクカバーを開け、図のようにレンズをクリーニングしてください。

- ほこりなどは、市販のクリーニングキットのブロワーではき出してください。

- 万一、レンズに指紋などが付いているときは、市販の綿棒でふき取ってください。

故障かな?と思う前に

故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
パワードサブウーハーの電源が入らない。	電源が「入」のときに、パワードサブウーハーの電源コード、またはシステムケーブルを抜き差しした。	センターユニットのPOWERボタンを押して電源を「切」にしてから、もう一度電源を「入」にする。
リモコンが働かない。	センターユニットと離れすぎている。 センターユニットのほうに向けていない。 センターユニットのリモコン受光部の前に障害物がある。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。
	電池の極性(⊕/⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
	入力した他メーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。
音が出ない。	システムケーブルが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、センターユニットのPOWERボタンを押して電源を入れ直す。
	パワードサブウーハーの電源が入っていない。	電源プラグをしっかり差し込み、センターユニットのPOWERボタンまたはリモコンのオーディオ電源ボタンを押して電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	消音ボタンを押して消音機能を解除する。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	バランスを正しく調節する。
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
ディスクの再生ができない。	NTSC方式以外のディスクが入っている。 本機とディスクのリージョン番号(ローカル番号)が異なっている。	ディスクを取り換える。
映像が乱れる/音声がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。
	センターユニットとテレビの間にビデオデッキを接続している。	センターユニットとテレビを直接接続する。
映像が縦横にのびる。	初期設定が間違っている。	初期設定を正しくする。
	テレビの設定が間違っている。	テレビの設定を正しく合わせる。
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、 お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。
正しく動作しない。	雷や電子ノイズでマイコンが誤動作している。	いったん電源を切り、電源プラグを接続し直す。
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによってセンターユニットの内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、数時間してからディスクを入れる。

上記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、上記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ 88 ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

言語コード一覧

字幕や音声の言語は、言語コードで表示されることがあります。表示された言語コードから言語名を知ることができます。以下に言語コードと言語名の対応表を示します。

AA	アファル語
AB	アブバジア語
AF	アフリカーンス語
AM	アムハラ語
AR	アラビア語
AS	アッサム語
AY	アイマラ語
AZ	アゼルバイジャン語
BA	バシキール語
BE	ベラルーシ語
BG	ブルガリア語
BH	ビハーリー語
BI	ビスラマ語
BN	ベンガル語、バングラ語
BO	チベット語
BR	ブルトン語
CA	カタロニア語
CO	コルシカ語
CS	チェコ語
CY	ウェールズ語
DA	デンマーク語
DZ	ブータン語
EL	ギリシャ語
EO	エスペラント語
ET	エストニア語
EU	バスク語
FA	ペルシャ語
FI	フィンランド語
FJ	フィジー語
FO	フェロー語
FY	フリジア語
GA	アイルランド語
GD	スコットランドゲール語
GL	ガルシア語
GN	グアラニ語
GU	グジャラード語
HA	ハウサ語
HI	ヒンディー語
HR	クロアチア語
HU	ハンガリー語
HY	アルメニア語
IA	国際語
IE	国際語

IK	イヌピック語
IN	インドネシア語
IS	アイスランド語
IW	ヘブライ語
JI	イディッシュ語
JW	ジャワ語
KA	グルジア語
KK	カザフ語
KL	グリーンランド語
KM	カンボジア 語
KN	カンナダ語
KO	韓国（朝鮮）語
KS	カシミール語
KU	クルド語
KY	キルギス語
LA	ラテン語
LN	リンガラ語
LO	ラオス語
LT	リトアニア語
LV	ラトビア語、レット語
MG	マダガスカル語
MI	マオリ語
MK	マケドニア語
ML	マラヤーラム語
MN	モンゴル語
MO	モルダビア語
MR	マラータ語
MS	マライ（マレー）語
MT	マルタ語
MY	ミャンマー語
NA	ナウル語
NE	ネパール語
NL	オランダ語
NO	ノルウェー語
OC	プロバンス語
OM	（アフォン）オロモ語
OR	オリヤー語
PA	パンジャブ語
PL	ポーランド語
PS	パシュトー語
PT	ポルトガル語
QU	ケチュア語
RM	ラエティ - ロマン語

RN	キルンディ語
RO	ルーマニア語
RU	ロシア語
RW	キニヤルワンダ語
SA	サンスクリット語
SD	シンド語
SG	サンド語
SH	セルボアクロアチア語
SI	シンハラ語
SK	スロバキア語
SL	スロベニア語
SM	サモア 語
SN	ショナ語
SO	ソマリ語
SQ	アルバニア語
SR	セルビア語
SS	シスワティ語
ST	セストゥ語
SU	スンダ語
SV	スウェーデン語
SW	スワヒリ語
TA	タミール語
TE	テルグ語
TG	タジク語
TH	タイ語
TI	ティグリニャ語
TK	トゥルクメン語
TL	タガログ語
TN	セツワナ語
TO	トンガ語
TR	トルコ語
TS	ツォンガ語
TT	タタール語
TW	トウィ語
UK	ウクライナ語
UR	ウルドゥー語
UZ	ウズベク語
VI	ベトナム語
VO	ヴラピュク語
WO	ウォロフ語
XH	コーサ語
YO	ヨルバ語
ZU	ズール語

カントリーコード一覧

パレンタルロックの画面で表示されるカントリーコードの一覧表です。

AD	Andorra
AE	United Arab Emirates
AF	Afghanistan
AG	Antigua and Barbuda
AI	Anguilla
AL	Albania
AM	Armenia
AN	Netherlands Antilles
AO	Angola
AQ	Antarctica
AR	Argentina
AS	American Samoa
AT	Austria
AU	Australia
AW	Aruba
AZ	Azerbaijan
BA	Bosnia and Herzegovina
BB	Barbados
BD	Bangladesh
BE	Belgium
BF	Burkina Faso
BG	Bulgaria
BH	Bahrain
BI	Burundi
BJ	Benin
BM	Bermuda
BN	Brunei Darussalam
BO	Bolivia
BR	Brazil
BS	Bahamas
BT	Bhutan
BV	Bouvet Island
BW	Botswana
BY	Belarus
BZ	Belize
CA	Canada
CC	Cocos (Keeling) Islands
CF	Central African Republic
CG	Congo
CH	Switzerland
CI	Côte d'Ivoire
CK	Cook Islands
CL	Chile

CM	Cameroon
CN	China
CO	Colombia
CR	Costa Rica
CU	Cuba
CV	Cape Verde
CX	Christmas Island
CY	Cyprus
CZ	Czech Republic
DE	Germany
DJ	Djibouti
DK	Denmark
DM	Dominica
DO	Dominican Republic
DZ	Algeria
EC	Ecuador
EE	Estonia
EG	Egypt
EH	Western Sahara
ER	Eritrea
ES	Spain
ET	Ethiopia
FI	Finland
FJ	Fiji
FK	Falkland Islands (Malvinas)
FM	Micronesia (Fedelated States of)
FO	Faroe Islands
FR	France
FX	France, Metropolitan
GA	Gabon
GB	United Kingdom
GD	Grenada
GE	Georgia
GF	French Guiana
GH	Ghana
GI	Gibraltar
GL	Greenland
GM	Gambia
GN	Guinea
GP	Guadeloupe
GQ	Equatorial Guinea

GR	Greece
GS	South Georgia and the South Sandwich Islands
GT	Guatemala
GU	Guam
GW	Guinea-Bissau
GY	Guyana
HK	Hong Kong
HM	Heard Island and McDonald Islands
HN	Honduras
HR	Croatia
HT	Haiti
HU	Hungary
ID	Indonesia
IE	Ireland
IL	Israel
IN	India
IO	British Indian Ocean Territory
IQ	Iraq
IR	Iran (Islamic Republic of)
IS	Iceland
IT	Italy
JM	Jamaica
JO	Jordan
JP	Japan
KE	Kenya
KG	Kyrgyzstan
KH	Cambodia
KI	Kiribati
KM	Comoros
KN	Saint Kitts and Nevis
KP	Korea, Democratic People's Republic of
KR	Korea, Republic of
KW	Kuwait
KY	Cayman Islands
KZ	Kazakhstan
LA	Lao People's Democratic Republic
LB	Lebanon
LC	Saint Lucia

LI	Liechtenstein
LK	Sri Lanka
LR	Liberia
LS	Lesotho
LT	Lithuania
LU	Luxembourg
LV	Latvia
LY	Libyan Arab Jamahiriya
MA	Morocco
MC	Monaco
MD	Moldova, Republic of
MG	Madagascar
MH	Marshall Islands
ML	Mali
MM	Myanmar
MN	Mongolia
MO	Macau
MP	Northern Mariana Islands
MQ	Martinique
MR	Mauritania
MS	Montserrat
MT	Malta
MU	Mauritius
MV	Maldives
MW	Malawi
MX	Mexico
MY	Malaysia
MZ	Mozambique
NA	Namibia
NC	New Caledonia
NE	Niger
NF	Norfolk Island
NG	Nigeria
NI	Nicaragua
NL	Netherlands
NO	Norway
NP	Nepal
NR	Nauru
NU	Niue
NZ	New Zealand
OM	Oman
PA	Panama

PE	Peru
PF	French Polynesia
PG	Papua New Guinea
PH	Philippines
PK	Pakistan
PL	Poland
PM	Saint Pierre and Miquelon
PN	Pitcairn
PR	Puerto Rico
PT	Portugal
PW	Palau
PY	Paraguay
QA	Qatar
RE	Réunion
RO	Romania
RU	Russian Federation
RW	Rwanda
SA	Saudi Arabia
SB	Solomon Islands
SC	Seychelles
SD	Sudan
SE	Sweden
SG	Singapore
SH	Saint Helena
SI	Slovenia
SJ	Svalbard and Jan Mayen
SK	Slovakia
SL	Sierra Leone
SM	San Marino
SN	Senegal
SO	Somalia
SR	Suriname
ST	Sao Tome and Principe
SV	El Salvador
SY	Syrian Arab Republic
SZ	Swaziland
TC	Turks and Caicos Islands
TD	Chad
TF	French Southern Territories
TG	Togo
TH	Thailand

TJ	Tajikistan
TK	Tokelau
TM	Turkmenistan
TN	Tunisia
TO	Tonga
TP	East Timor
TR	Turkey
TT	Trinidad and Tobago
TV	Tuvalu
TW	Taiwan, Province of China
TZ	Tanzania, United Republic of
UA	Ukraine
UG	Uganda
UM	United States Minor Outlying Islands
US	United States
UY	Uruguay
UZ	Uzbekistan
VA	Vatican City State (Holy See)
VC	Saint Vincent and the Grenadines
VE	Venezuela
VG	Virgin Islands (British)
VI	Virgin Islands (U.S.)
VN	Viet Nam
VU	Vanuatu
WF	Wallis and Futuna Islands
WS	Samoa
YE	Yemen
YT	Mayotte
YU	Yugoslavia
ZA	South Africa
ZM	Zambia
ZR	Zaire
ZW	Zimbabwe

主な仕様

■センターユニット（XV-THA9）

再生可能ディスク	DVD ビデオ、ビデオ CD、オーディオ CD
映像信号方式	EIAJ 標準、NTSC カラーテレビジョン方式

映像特性

水平解像度	500 本
S/N 比	68dB
映像出力	出力レベル / インピーダンス
映像（コンポジット）端子	1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
S1 映像端子	Y 出力：1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	C 出力：0.286 V(p-p)/75 Ω
コンポーネント映像端子	Y 出力：1.0 V(p-p)/75 Ω
	CB/CR 出力：0.7 V(p-p)/75 Ω

オーディオ特性

全高調波ひずみ率	0.02 %（EIAJ）
	入力感度 / インピーダンス
アナログ音声入力端子	AUX：290mV/47k Ω
アナログ音声出力端子	SYSTEM（8 ピン）：1 V

FM チューナー部

受信周波数	76.0 MHz ～ 108.0 MHz
アンテナ	75 Ω不平衡型

AM チューナー部

受信周波数	531 kHz ～ 1,629 kHz
アンテナ	外部アンテナ端子（ループアンテナ）

その他

オフタイマー	10、20、30、60、90、120、150 分
電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz 共用
消費電力	電源「入」時　22 W
	電源「切」（スタンバイ）時　2 W
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）	360 mm × 77 mm × 253 mm
質量	3.0 kg

■パワードサブウーハー（SP-PWA9）

アンプ部

実用最大出力	フロント　　：30W+30W (10%THD/1kHz/4 Ω) センター　　：30W (10%THD/1kHz/4 Ω) リア　　　　：30W+30W (10%THD/1kHz/4 Ω) サブウーハー：140 W (10%THD/100Hz/4 Ω)
出力端子	スピーカー端子×３系統（フロント、センター、リア） 適合インピーダンス４ Ω～ 16 Ω

スピーカー部

形式	バスレフ型・防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	21 cm コーン型× 1
再生周波数帯域	25 Hz ～ 200 Hz

その他

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz 共用
消費電力	130 W
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）	240 mm × 435 mm × 455 mm
質量	16.5 kg

■サテライトスピーカー（SP-XSA9）…１本当たり

形式	バスレフ型・防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	7.5 cm × 4 cm　コーン型× 1
最大入力	30 W（JIS）
定格インピーダンス	4 Ω
再生周波数帯域	95Hz ～ 20 kHz
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）	65 mm × 122 mm × 117 mm
質量	360 g

■センタースピーカー（SP-XCA9）

形式	バスレフ型・防磁形 (EIAJ)
使用スピーカー	7.5 cm × 4 cm　コーン型× 1
最大入力	30 W（JIS）
定格インピーダンス	4 Ω
再生周波数帯域	95 Hz ～ 20 kHz
最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）	122 mm × 65 mm × 115 mm
質量	360 g

- 付属品は 8 ページをご覧ください。
- 本システムの仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- EIAJ は日本電子機械工業会規格に定められた測定方法による数値です。

別売りアクセサリー

- 接続コード　：CN-120A (モノラルミニプラグ)
- オーディオコード　：CN-510E
- 映像接続用コード　：VX-110E
- S ビデオコード　：VC-S110E
- コンポーネントビデオコード　：VX-D115E（ピンプラグ）
：VX-DS220（D 端子）
- 電源コード　：CN-325A
- TV サイドスタンド　：LS-THA10VJ

- 別売りアクセサリーは、お買い上げの販売店でお求めください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。
ご転居等で、保証書記載のお買い上げ販売店にご依頼になれない場合には、「ビクターサービス窓口案内」（89 ページ）をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

82 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	DVDデジタルシアターシステム
型　　名	TH-A9
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	苫小牧 S.S.	(0144)34-6682	053-0032	苫小牧市緑町2-7-11
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.C.	(0154)24-0797	085-0036	釧路市若竹町6-13
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	041-0001	函館市五稜郭町4-16函館あおば生命ビル1F
東北				
青森	青森 S.C.	(0177)23-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0804	八戸市青葉2-21-2
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)28-4991	970-8034	いわき市平上荒川字桜町19-4
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋 S.C	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮 S.C	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	土浦 S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸 S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	木更津 S.S.	(0438)23-3035	292-0000	木更津市清見台2-1-3グレイスビル1F
	柏 S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	330-0037	大宮市東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
	川越 S.S.	(0492)42-4496	350-1106	川越市小室491-1
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	横須賀 S.S.	(0468)34-9261	239-0831	横須賀市久里浜6-4-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8006	静岡市曲金6-5-28
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)26-1005	444-2133	岡崎市井ノ口町字河原西31
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1ー3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.S.	(07442)4-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南 S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺 S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百古鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(0839)73-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売(株)サービスセンター（松江・米子担当）	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0845	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
	新居浜 S.S.	(0897)67-1030	792-0881	新居浜市松神子2-2-25
九州・沖縄				
福岡	福岡 S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0065	北九州市小倉北区三萩野2-9-3
佐賀	佐賀 S.S.	(095)226-8785	840-0023	佐賀市本庄町大字袋265-1
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　1000

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

用語解説

あ

アスペクト比

表示される映像の縦横比のことです。通常のテレビの横：縦の比は4：3、ワイドテレビおよびHDテレビの横：縦は16：9の比率をもっています。

エンコード

信号を、ある規則に合わせて符号化することをいいます。

オーサリング

各種素材のエンコード作業や、そのエンコード後のデータおよび再生手順などの各種コントロール情報等を、DVDビデオフォーマットに定められたデータ形式に変換する作業のことをいいます。

か

カーソル

一般的には数字などの挿入ポイントのことをいいます。

片面ディスク

DVDディスクのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット

輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント

光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式。G/B/RやY/CB/CRなどの信号形式があります。

さ

再生可能地域管理（リージョンコード）

あらかじめ設定された地域についてのみ、再生を可能とするシステムのことです。世界各国を8つの地域に分け、これに各地域番号（リージョンNO.）をつけ識別します。ディスクに設定された再生可能地域番号の中に、プレーヤーに付与された地域番号と合致する番号があれば、プレーヤーはこのディスクを再生できます。

サラウンド

視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

サンプリング周波数

アナログ信号からデジタル信号に変換する際の標本化周波数のこと。1秒間に何回の割合で、もとのアナログ信号を標本化し、デジタル信号に変換するかを数値で表したもの。

色差信号

G/B/Rのそれぞれの信号から輝度信号（Y信号）を引いた信号で、色相と色の濃さを表す信号をいいます。

スクイーズ映像

16：9映像データを横方向にのみ一様に縮めて（スクイーズ）4：3画像データサイズにし、ディスクに記録する方法をいいます。
これをテレビやモニター側で左右を伸長して本来の正しい比率に戻します。

た

ダウンミックス

サラウンド方式（3チャンネル以上）で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2チャンネル音声に変換して再生する機能をいいます。一般には、プログラムチャンネル数よりも、スピーカーの数が少ないときに行なわれるミキシングのことです。

チャプター

タイトル内の各章のこと。

デコード

ある規則に合わせて符号化（エンコード）された信号を、もとの原信号に戻す操作をいいます。

転送レート

1秒間に送りだすデジタルデータのデータ量のことで、MPEG-2の圧縮には可変転送レート方式を採用しています。

ドルビーデジタル

家庭用デジタルサラウンド方式として開発されたドルビーデジタル（AC-3）方式のことをいいます。最大フロント3チャンネル、リア2チャンネルおよびサブウーファー0.1チャンネルで構成される5.1チャンネルが特長です。

は

パレンタルコントロール機能

映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか（たとえば教育上好ましくないシーン等に対して）を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、プレーヤーに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、プレーヤーが自動的に判断し再生する機能。

ビットストリーム

各種エンコード作業によって作成されたデジタルデータをさします。

プレイバックコントロール（PBC）

ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

ま

マルチアングル

一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能。

マルチストーリー

一つのタイトルに複数のストーリー展開を持たせた構成。あらかじめメニューなどでストーリーの選択を行なったり、分岐点ごとに設けられたタイトル内のメニューで分岐先を次々に選ぶなどの方法で再生する構成が一般的です。

マルチチャンネル

DVDビデオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

マルチランゲージ

一つのタイトルが複数の言語に対応して制作されていることを一般的にマルチランゲージといいます。

メニュー

DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ら

リニアPCM音声

アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮を全くしない方式。

両面ディスク

DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のもの。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス

4：3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法。
画面が文字通り郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

用語索引

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
89ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	**東京 ☎(03) 5684-9311** 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル **大阪 ☎(06) 6765-4161** 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

オーディオ事業部
〒371-8543　群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎(027) 254-8952

1000TNMNATJSC